



家庭用燃料電池コージェネレーションシステム

ENE・FARM type S  
エネファーム

## 燃料電池発電ユニット

### < 停電時自立発電モデル >

都市ガス 13A 192-AS11

LPガス 192-AS11

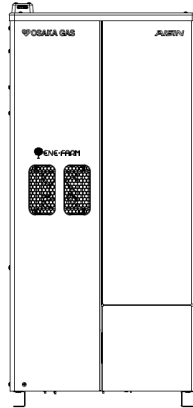
LPガス集中供給 192-AS13

### < 標準モデル >

都市ガス 13A 192-AS12

LPガス 192-AS12

LPガス集中供給 192-AS14



# 大阪ガス 取扱説明書

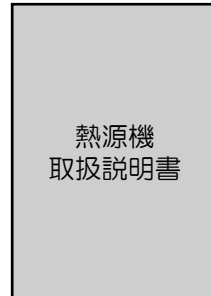
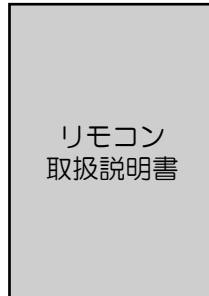
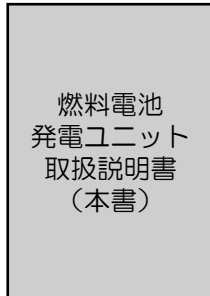
(保証書付き)



## 取扱説明書の見かた

エネファーム type Sの取扱説明書は下記3冊で構成されています。

目的に合った取扱説明書をご確認ください。



このたびは大阪ガスのエネファームtypeS燃料電池発電ユニットをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。  
保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保管してください。

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 安全についての注意事項を記載しておりますので、必ずお守りください。
- お読みになった後、いつでも見られるところに必ず保管してください。  
また、お使いになる方が変わる場合は、必ずこの取扱説明書をお渡してください。  
この取扱説明書には、巻末に保証書がついています。大切に保管してください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

## ■本機は各種熱源機とセットでご使用出来るように構成されています

「発電」については、リモコンの種類ごとに記載していますので、お客さまがお買い上げになられたリモコン記載ページをご覧ください。



リモコンA（138-N\*\*\*シリーズ（138-N434は除く））・・・15ページを参照してください



リモコンB（138-T\*\*\*シリーズ）・・・・・・27ページを参照してください



リモコンC（138-R\*\*\*シリーズ）・・・・・・40ページを参照してください



発電リモコン（138-N434）・・・・・・53ページを参照してください

※お客さまがお買い上げになられたリモコンに、チェックを入れてご使用ください。

## もくじ

### ご使用前に

エネファームについて	1
安全のため必ず守ってください	4
各部のなまえ	11
ご使用前の確認	14

### お湯・お風呂・暖房

熱源機の取扱説明書（リモコン編）をご覧ください

### エネルギーの操作方法

熱源機の取扱説明書（リモコン編）をご覧ください

### 無線LANの通信設定

熱源機の取扱説明書（リモコン編）をご覧ください

### 発電

	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
画面説明	15	27	40	53
発電について	17	29	42	55
発電をする	19	31	44	57
発電を止める	21	33	46	59
停電時に電気を使う				
停電時自立発電機能の概要	22	35	48	60
主な電気製品の消費電力	23	36	49	61
停電発生時の対応	24	37	50	62
過負荷時の復帰操作	24	37	50	62
発電出力を上げる場合	26	39	52	63
停電時にお湯を使う	26	39	52	63

**■本書では、下記の呼びかたで説明をしています**

- 燃料電池発電ユニットと熱源機を合わせたシステムを「エネファーム」
- 燃料電池発電ユニットを「発電ユニット」
- 発電ユニットと専用の熱源機を組み合わせた構成を「セット構成」
- 発電ユニットと専用ではない熱源機を組み合わせた構成を「後付構成」
- セット構成用台所リモコンを「台所リモコン」
- セット構成用浴室リモコンを「浴室リモコン」
- 後付構成用発電連係リモコンを「発電リモコン」
- ガスメーター（マイコンメーター）を「ガスマイコンメーター」

**こんなときは**

こんなときは

停電のときは	64
断水のときは	64
長期間使用しないときは	64
気温が-10℃を下回るときは	65
ガスの供給が途絶えたときは	65
ガスの供給が途絶えたときに温水を使いたいときは（ヒーター給湯モード）	66
工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは	70
災害時等緊急停止のときは	70
水抜きしたいときは	
発電ユニットの水を抜く	71
災害時などに貯湯タンクのお湯を取り出す	75

**お手入れ**

お手入れと周囲の確認	76
貯湯タンクの洗浄をする（1回/年以上）	
水抜き手順	77
水張り手順	79

**困ったときに**

故障・異常かな？とおもったら	81
エラー発生時の処置方法	82
エラー表示	85

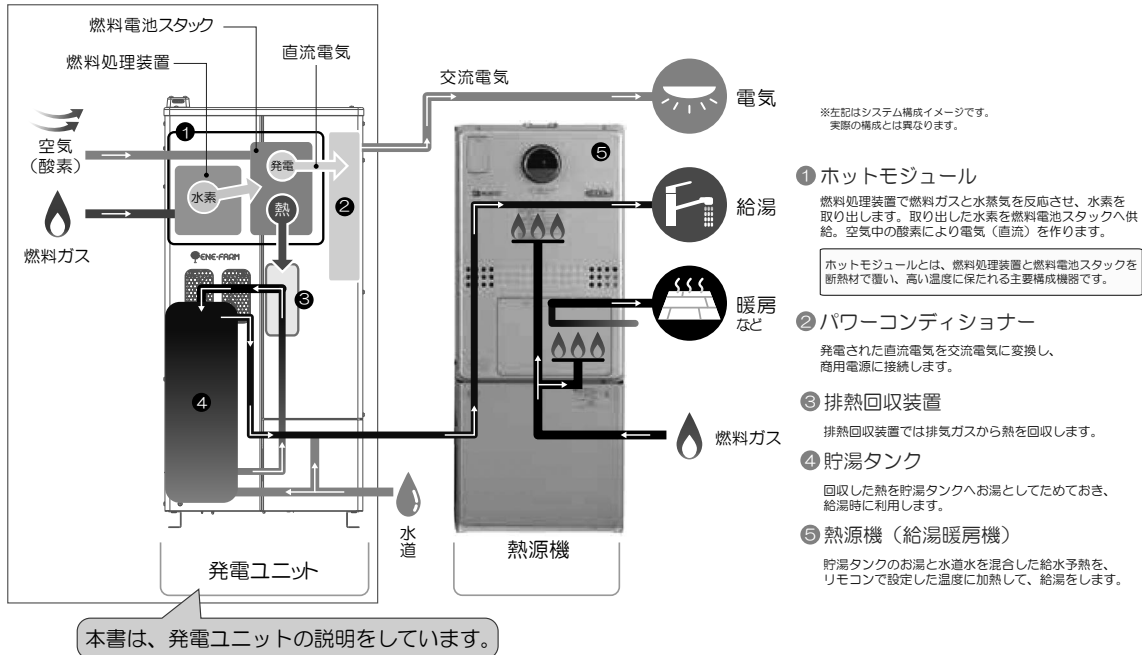
**知っておいてください**

点検について	87
おもな仕様	88
外形図	89
アフターサービスと保証について	90
保証書	91

# エネファームについて

## ■エネファームtype Sのシステム構成イメージ

発電ユニットは、燃料ガスから水素を取り出し、その水素と空気中の酸素を反応させて、自宅で電気を作るシステムです。発電時に出る熱を利用してお湯も一緒につくるため、エネルギーを有効利用できます。



## ■この機器は対応する熱源機と組み合わせて使用することで、電気および熱（お湯）を供給します

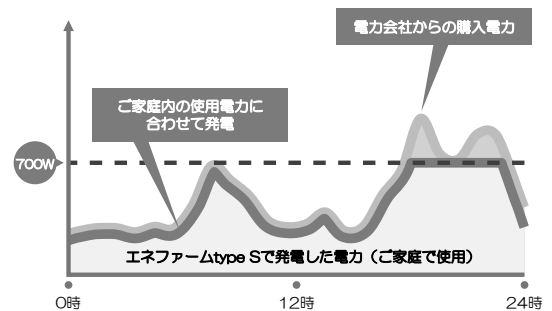
発電ユニットから発生する排熱により、水を最高約35℃に加熱し熱源機に供給します。その後熱源機にて設定温度に調整されて、給湯・お風呂に利用されます。  
蛇口を少し開けたとき等、給湯流量が少ないときは、熱源機が燃焼しない場合でもお湯が出る可能性があります。

## ■発電ユニットは自動運転です

発電ユニットは24時間連続運転で、家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電します。（逆潮流なし運転）

※ ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、26日間連続して発電した場合は、27日目に約4～9時間発電を停止します。

- 発電ユニットで作られた電気を優先的に使用し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。
- 発電ユニットで作られた電気は、家庭内（照明、テレビなど）で使用します。

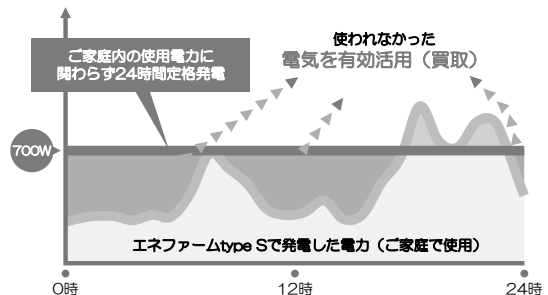


## ■逆潮流ありの設定を選択されたお客さまへ

### ◆逆潮流に関してのご説明

- 逆潮流とは、発電ユニットにて発電された電力を電力システムを介して取引等を実施する仕組みです。
- 逆潮流を実施する場合、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを行う事業者さまへの申込みが必要となります。

- ◆ 逆潮流ありの場合、発電ユニットはお客さまの消費電力以上で発電運転（最大約700W）を実施します。余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。



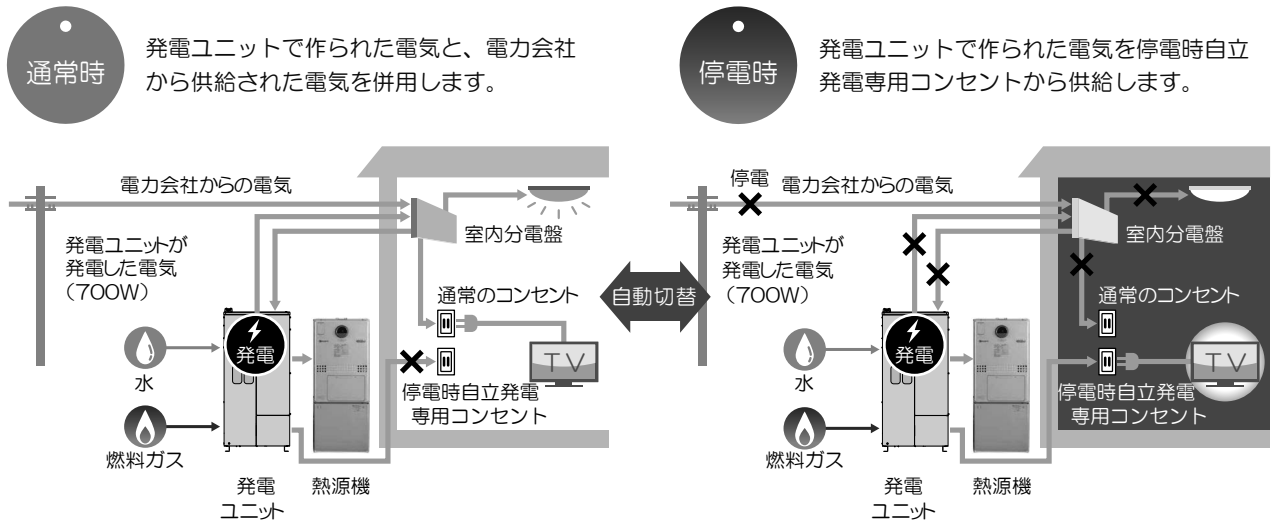
- ◆ 逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります）
- ◆ 逆潮流に関する詳細は大阪ガスホームページ等をご覧ください。
- ◆ 逆潮流のリモコン表示に関してはリモコンの取扱説明書をご覧ください。

# エネファームについて

## ■ 停電時自立発電機能付きをお使いのお客さまへ

- 停電時自立発電機能付きは、発電中に停電が発生した場合も引き続き発電を続けます。したがって停電中でも発電した電気と熱源機のお湯を使うことができます。  
※ 発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、地震等の災害などでガスの供給が停止している場合にも、発電することができません。

### < 停電時自立発電時の電気の流れ >



- 停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです。  
※ セット構成の場合は熱源機で使用する電気の量を含みます。停電時自立発電専用コンセントでご使用できる電気の量は700Wよりも、少なくなります。
  - 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます。  
※ 停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。  
※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときだけ、ご使用ください。なお、停電が復旧すると自動的に停電時自立発電専用コンセントへの電気の供給は止まりますので、使用できません。
- ※ 停電時自立発電機能の詳細は22～26ページ、35～39ページ、48～52ページ、60～63ページをご覧ください。

## ■ その他

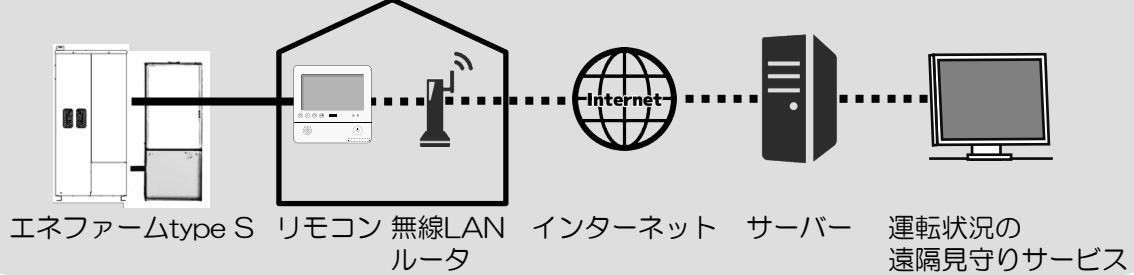
- 異常がある場合、リモコンにエラーを表示し、お知らせします。
- 断水で水道水を使用できない場合でも、貯湯タンクのお湯（水）を取り出して雑用水として利用できます。
- ガスの供給が途絶え熱源機が使用できない場合に温水が必要になったときは、ヒーター給湯モードにて、最高で40℃（発電ユニットの出口温度）の温水を供給することができます。

# エネファームについて

## ■ネットワーク機能をお使いのお客さまへ

ネットワークに接続しますと、①運転状況の遠隔見守りサービス、②スマートフォンアプリがご利用できます。

### <①運転状況の遠隔見守りサービスのイメージ>



### <②スマートフォンアプリ利用のイメージ>

家でスマートフォンでエネルギー情報が見える！  
お風呂のお湯張りが出来る！\*1



外でもスマートフォンでエネルギー情報が見える！  
お風呂のお湯張りが出来る！\*1



\*1 発電リモコンの場合、お風呂のお湯張りはできません。

#### ① 運転状況の遠隔見守りサービス

エネファームが正常に運転しているかを大阪ガスが遠隔で見守ります。

#### ② スマートフォンアプリ

お使いのスマートフォンにアプリをインストールすると、スマートフォンでエネルギー情報の見える化やガス機器の遠隔操作がご利用になります。スマートフォンアプリに関してはリモコン取扱説明書をご覧ください。



### ネットワーク機能をお使いによる注意事項

- ・サービスのご利用には常時接続のインターネット環境と無線LAN環境が必要です。
- ・インターネット環境・無線LAN環境・スマートフォンはお客さまでご準備ください。
- ・無線LANルータは、WPA2/WPAの暗号化方式に対応したものがが必要です。
- ・ご使用の無線LANルータ、スマートフォン、通信環境によっては本サービスをご利用できない場合があります。
- ・エネファームリモコンが大阪ガスサーバと通信するため、インターネットの通信費がかかります。
- ・接続方法に関しては各リモコンの取扱説明書をご覧ください。









# 安全のため必ず守ってください

ご使用前に、この「安全のため必ず守ってください」をよくお読みいただき、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。

## ■表示の説明

 <b>警告</b>	この表示を無視して取り扱いを誤った場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 <b>注意</b>	この表示を無視して取り扱いを誤った場合、人が傷害を負う可能性や物的損害が想定される内容です。
<b>お願い</b>	安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

## ■絵表示の説明

	必ず行うこと		接触禁止		一般的な禁止
	分解禁止		発火注意		火気禁止
	アース線を接続すること		高温注意		

## 異常のときは

## 警告

### ガス漏れに気付いたら

◆ 屋内でガス臭がする場合は、次のことをしない。

引火し、爆発事故を起こすことがあります。

- ・火をつけない
- ・電気器具（換気扇・電灯など）のスイッチをON/OFFしない
- ・コンセントを抜き差ししない
- ・周辺で電話を使用しない



火気禁止



◆ 次の処置を行ってください。

① ガス栓を閉める。（ガス栓を閉めると、エラーコード[A0F00]がリモコンに表示されます。）

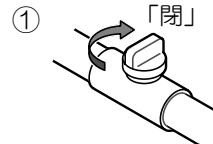
② 屋内でガス臭がするときは窓や扉をあける。

③ 販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。

そのままにしておくと、火災や爆発の原因になります。また、絶対に火を近づけたりしないでください。



確認



※ ガス漏れ異常（エラーコード[10F00]、[10F01]、[10F10]、[10F11]）は、リモコンでのエラー解除はできません。

### 異常時の処置

発電ユニットから異常な臭い（こげ臭い・ガス臭い）・発火・煙・異常に大きい音・振動があるときは、次の処置を行ってください。



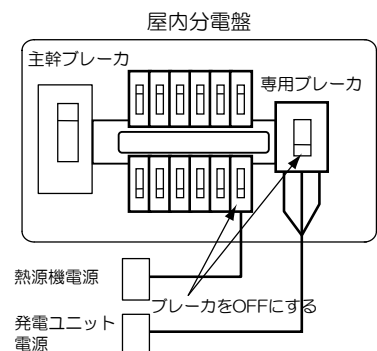
確認

① ガス栓を閉める。（ガス栓を閉めるとエラーコード[A0F00]がリモコンに表示されます。）

② 屋内分電盤の発電ユニットブレーカと熱源機ブレーカをOFFにする。

③ 販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。異常のまま運転を続けると感電・火災・故障などの原因となります。

※ ブレーカ部は濡れた手で触れないでください。



# 安全のため必ず守ってください

## 設置のときは

### ⚠ 警告



確認

#### 設置・付帯工事は販売店またはもよりの大阪ガスに依頼する

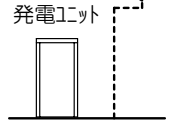
工事に不備があると、感電・水漏れに加え、排気ガスの建物内流入による中毒、火災の原因になりますので販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。  
(設置・付帯工事は工事説明書に従い、有資格者が行います。)



禁止

#### 屋内に設置しない

屋外設置据置型ですので、絶対に屋内に設置しないでください。  
酸欠・一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



確認

#### 離隔距離とメンテナンススペースの確認

周囲の可燃物に対して、防火上の離隔距離をとってください。

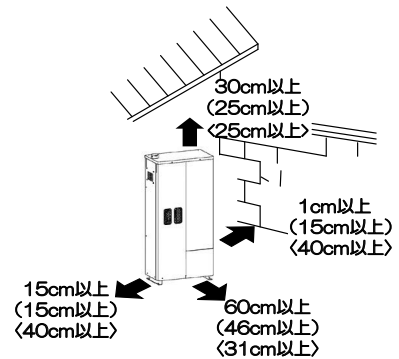
距離が不足すると火災の原因になります。この離隔距離に加えて、メンテナンススペースが必要です。スペース内には物を置かないでください。

上：防火上の離隔距離（前面排気の場合）

中：（幅が狭い場合のメンテナンススペース）

下：（奥行きが狭い場合のメンテナンススペース）

詳細は工事説明書16～17ページをご覧ください。



## ご使用前は

### ⚠ 警告



アース

#### 必ずアース工事を確認する

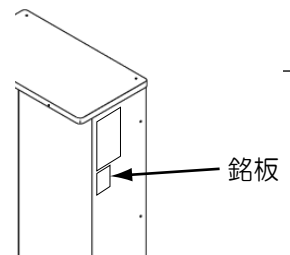
アース工事（D種接地工事）が不完全な場合は、感電・火災の原因となります。  
アース線が、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続されていないことを確認してください。詳しくは工事説明書をご覧ください。



確認

#### ガスの種類・電源の確認

ガスの種類・電源が異なる場合、火災や感電の原因となります。  
銘板に表示されている燃料種と使用するガスが一致していることを確認してください。また、電源が「単相3線式100/200V」であることを確認してください。



## ご使用中は

### ⚠ 警告



発火注意

#### 燃えやすい物を周りに置かない

洗濯物・新聞紙・灯油など燃えやすい物を周りに置かないでください。火災の原因になります。



火気禁止

#### 火気を近づけない

換気出口・排気口に火気を近づけないでください。  
火災の原因になる場合があります。



発火注意

#### 引火のおそれがある物を周りで使用しない

灯油・ガソリン・ベンジンなど引火のおそれがある物を機器の周りで使用しないでください。火災の原因になります。



発火注意

#### スプレー缶を周りに置かない、使用しない

スプレー缶を周りで使用したり、置かないでください。  
熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発・火災の原因になります。周りでスプレーを使用すると、スプレーに含まれる成分により、機器故障の原因となります。



禁止

#### LPガス容器を周りに置かない

所定の離隔距離が必要です。



# 安全のため必ず守ってください

## ご使用中は

### ⚠ 警告



#### 排気ガスを建物内に入れない

この機器の排気ガスが建物（自宅および隣家など）の吸排気口や窓などから建物内に入らないようにしてください。

排気ガスが建物内に流入すると、一酸化炭素中毒などの原因になります。



#### 排気口の向きを無断で変更しない

火災の原因、一酸化炭素中毒の原因となる可能性があります。



#### 排気口・換気出口に顔を近づけない

大量の排気ガスを吸い込むと、一酸化炭素中毒の原因となる可能性があります。



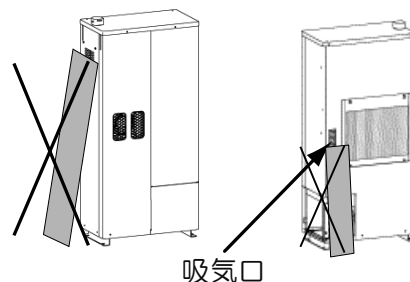
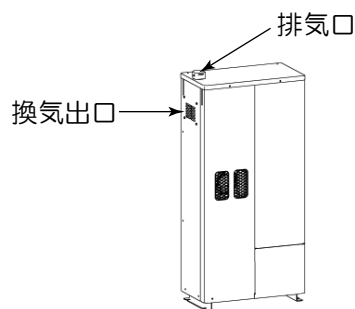
#### 排気口付近で子供やペットを遊ばせない

一酸化炭素中毒のおそれがあります。



#### 排気口・吸気口・換気出口を塞がない

空気の取り入れが不足すると、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。



## こんなときは

### ⚠ 警告



#### 地震・水害・火災の発生したときの処置

地震・水害・火災が発生したときは、ガス栓を閉め、屋内分電盤の専用ブレーカと防水コンセントに接続されたブレーカをOFFにしてください。おさまりましたら、機器が安全に使用できるかどうかの確認を販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。



#### 積雪時の点検・除雪

積雪時は、排気口・換気出口・吸気口が塞がれないように点検・除雪を行ってください。空気の取り入れが不足すると、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。

## 増改築・移設時などのときは

### ⚠ 警告



#### 囲いをしない

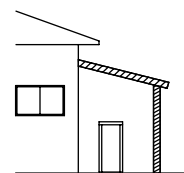
設置後、発電ユニットを波板やビニールなどで囲んで屋内状態にしないでください。火災や酸欠事故の原因となります。



#### 外壁の塗装、増改築、屋内の修繕時などに、機器本体が養生シートで覆われた場合は機器を使用しない

不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因になります。

※ 機器故障原因となり、有償での修理対応が必要となります。



#### 移設時の確認

増改築や引越しなどで移設する場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。工事に不備があると、感電・水漏れに加え、排気ガスの建物内流入による一酸化炭素中毒、火災の原因になります。（移設は工事説明書に従い、有資格者が行います。）

移設後は、電力会社への手続きが完了した後でないと運転することはできません。（手続きについては、販売店またはもよりの大阪ガスに確認してください。）



#### 熱源機・リモコンを買い替える場合

・熱源機との組み合わせ、あるいはリモコンとの組み合わせによっては、安全・性能が担保できず、やけど等の事故が発生する可能性があります。

・熱源機・リモコンを買い替える場合は必ず販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。

# 安全のため必ず守ってください

## お手入れのときは



**機器の吸気口がホコリ・ゴミなどで塞がっていないか確認する**  
不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。

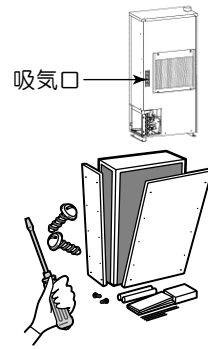


**高水圧での、水洗いはしない**  
感電・火災の原因になることがあります。



分解禁止

**分解・修理・改造をしない**  
分解・改造を行わないでください。感電・火災・水漏れの原因となります。  
移設・付帯工事・修理をする場合は、必ず販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。



## 停電時自立発電のときは

(停電時自立発電機能付きのお客さまへ)



禁止

### 停電時自立発電専用コンセントには以下の製品をつながない

停電時自立発電専用コンセントには停電時にのみ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。途中で電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれがある以下の機器は接続しないでください。

- ・全ての医療機器
- ・灯油を用いた暖房機器
- ・バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器
- ・炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- ・その他、電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれのある機器

消費電力が合計で700W以上になる機器は接続しないでください。

【注意】停電時自立発電機能で使用できる電気の量は最大約700Wです。

※セット構成の場合は、熱源機の消費電力\*1も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。

\*1 冬季時の凍結予防など、熱源機の運転状態によって消費電力が大きく変わりますので、リモコンで消費電力を確認しながらお使いください。



禁止

### 停電時自立発電専用コンセントを商用電力線につながない

停電時自立発電専用コンセントと家庭内の普通のコンセントを延長ケーブルなどで絶対に接続しないでください。感電、発火などの事故になるおそれがあります。



強制

### 停電時自立発電専用コンセントは停電時のみ使用する

停電時自立発電専用コンセントは停電時のみ使用することができます。停電時以外に停電時自立発電専用コンセントに電気製品を接続しないでください。接続した機器に突然電流が流れ、機器を損傷したり、突然の動作による事故の原因になります。



禁止

### 停電していないときに停電時自立発電を行わない

思わぬ事故の原因になります。また、本来の機能が損なわれ、故障の原因となります。

## エラーの処置は



禁止

### お客さま自身で部品の点検・調整はしない

感電・火災・水漏れの原因となります。



強制

### 機器の異常に気付いたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する

異常のまま運転を続けると感電・火災・故障などの原因となります。

## ヒーター給湯モードのときは



強制

### 発電リモコンの場合は、必ず熱源機の運転スイッチをOFFにする

OFFにしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。



強制

### 温水のご使用中は、温水の温度低下に注意する

ご使用状況や機器の状態等によっては、温水のご使用中に突然温度が下がることがあります。

# 安全のため必ず守ってください

## 設置のときは

### ⚠ 注意



**排気ガス・換気ガスを動植物に当てない**  
動植物に悪影響を及ぼす原因になることがあります。

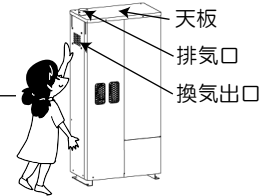


## ご使用中は

### ⚠ 注意



**排気口、換気出口、天板に触れない**  
高温になっており、やけどの原因になることがあります。



**発電ユニットの上に乗らない、物を載せない**  
落下・転倒などにより、けがの原因になることがあります。



**発電ユニットと熱源機間の配管の上に乗らない、物を載せない**  
けが・やけど・水漏れのおそれがあります



**熱源機行き配管（高温側）に触れない**  
熱源機行き配管（高温側）は高温になることがあります。  
やけどのおそれがあります。



**排気口・換気出口・吸気口に指や棒など異物を入れない**  
けが・やけど、機器故障のおそれがあります。

## 給湯・お風呂のときは

### ⚠ 注意



**機器や配管に長時間たまった水や朝一番のお湯は、雑用水として使用する**  
飲用したり調理に使用すると、健康を害するおそれがあります。



**飲用する場合は、必ず沸騰させてから使用する。また必ず水道法に定められた飲用水の水質基準に適合した水道水を使用する**  
飲用すると、健康を害するおそれがあります。



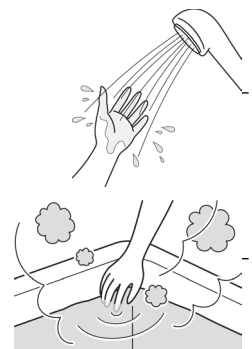
**異物・変色・濁り・異臭があった場合は飲用しない**  
飲用すると、健康を害するおそれがあります。  
※販売店またはもよりの大阪ガスへ点検を依頼してください。



**シャワーなど、お湯の使用時に熱いお湯が出た場合は、すぐに使用を中止する**  
やけどのおそれがあります。機器の故障等により使い始めは正常でも、使用中にあつくなる場合もあります。

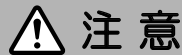


**浴槽の湯温を手で確認してから入浴する**  
やけどのおそれがあります。



# 安全のため必ず守ってください

## こんなときは



### 断水時には給水・給湯栓を開けない

発電ユニットより低い位置にある給湯栓は設定温度以上のお湯が出る場合があります。



### 水抜き時タンク排水配管には触れない

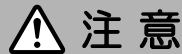
場合によっては熱いお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



### 水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。

## お手入れのときは

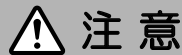


### パネルを開けて、発電ユニット内部に触れない

けが・やけど・感電のおそれがあります。

## 停電時自立発電のときは

(停電時自立発電機能付きのお客さまへ)



### 停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く

停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。 ※セット構成のみ



### ガスファンヒーターを使用すると過負荷で停電時自立発電が中断する場合は使用しない

過負荷が発生するとガスファンヒータの冷却が正常に行われず、温風の吹き出し口や機器背面（エアフィルタ部や取っ手部分）が高温になり、手で触れるとやけどのおそれがあります。



### 停電時自立発電専用コンセントでガスファンヒータを使用中に異常を感じた場合は、使用を中止する

ただちにガス栓を閉じて、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

## 廃棄のときは



### お客さまご自身で解体・廃棄は絶対にしない

法規制の対象物質が含まれるため、決められた方法で解体・廃棄をする必要があります。解体・廃棄につきましては、本製品を購入された販売店に依頼してください。 ※ご使用には、人体・周辺環境への影響はありません。

## お願い

### 低温になる場所への設置について

気温が-10℃より低温になる場所に設置しないでください。設置すると、凍結により重大な破損が発生することがあります。

### 降雪地域での使用について

この機器を降雪地域で使用するとき、吸気口に雪などが固着する場合があります。固着が進むと、この機器は吸入不足になり正常に運転できません。雪などの固着物は、吸気口を塞がないよう取り除いてください。

# 安全のため必ず守ってください

## お願い

### 地下水・井戸水・温泉水の使用禁止

給水は必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。

地下水・井戸水・温泉水を使用すると、機器内配管の異物付着、腐食による水漏れ、機器の不具合が発生することがあります。

### ドレン配管のつまりに注意する

ドレン配管の排出先は大気開放とし、泥や落ち葉などでつまらせないでください。

故障の原因となることがあります。

### 家庭用で使用してください

この機器は家庭用です。業務用に使用しないでください。

業務用に使用して事故や故障が発生した場合、保証の対象外になります。

### 電源について

緊急の場合以外はブレーカーを「OFF」にしないでください。

凍結予防運転のために電気を使用しています。

### 配管バルブを閉めない

メンテナンス作業時以外は、配管に接続されているバルブを閉めないでください。

正常な動作が妨げられ、故障の原因になります。

### 知っておいてください

- ・雷や無線などのノイズが、この機器に悪影響を与えることがあります。
- ・ご自宅の電気工事などで、分電盤内の電流センサを外す場合は、事前に販売店またはもよりの大阪ガスへ連絡してください。（電流値の読み込み不良により、発電ができなくなる場合があります。）
- ・発電ユニットの吸気口から自動車の排気ガスが直接吸い込まれると、発電ユニットの故障・性能低下の原因になりますので、自動車の排気ガス出口から1.5m以上離してください。

### 長期間使用しない場合の処置

不在などで10日間以上連続で電気・お湯を使用しない場合は、不在停止を行ってください。

長期間(1か月以上)連続して使用しない場合、または1か月未満でも凍結の心配があるときにブレーカーを「OFF」にする場合、必ず水抜きを実施してください。

### 停電時の注意

停電時に約24時間以上、発電（アイドリング状態も含む）が停止した場合は、暗証番号の入力、現在時刻の設定を行ってください。

### 停電時自立発電専用コンセントが設けられていることを確認する（停電時自立発電機能付きのみ）

停電時に発電ユニットで発電した電気を使用するには、停電時自立発電専用コンセントが必要です。

「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示のあるコンセントが、停電時自立発電専用コンセントです。

### 純正部品を使用してください

純正部品を使用しないと、故障の原因になります。

### 後付構成の給湯に関して

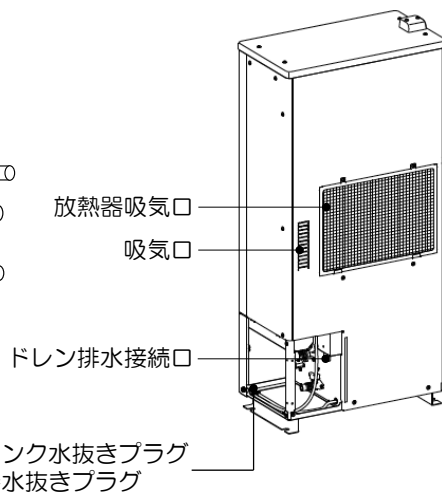
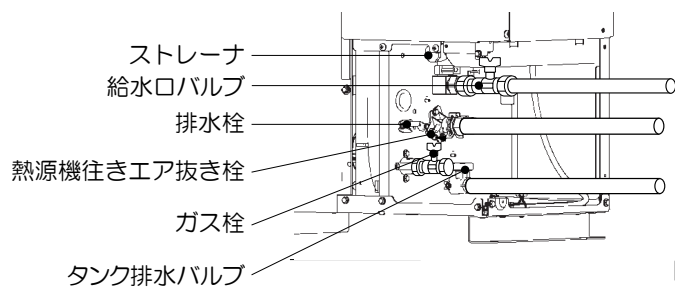
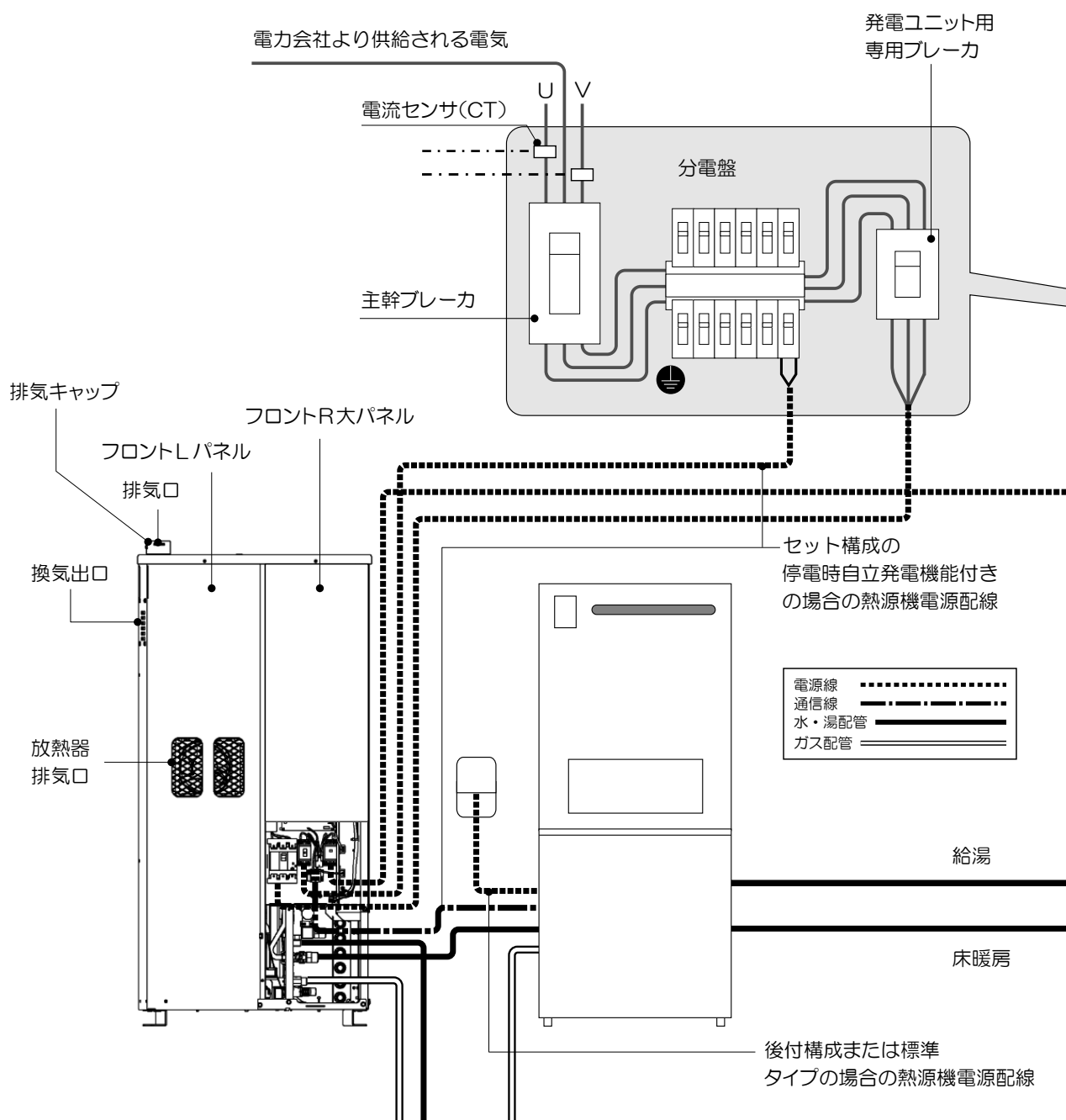
- ・熱源機が「給湯切」でも発電ユニットから最高で30℃の水が供給されます。  
水をご使用されたい場合は、混合水栓を水側にしてご使用ください。
- ・熱源機が「給湯切」の状態でお湯を使用すると、お湯の温度が変動したり、湯切れで急に水になることがありますので、「給湯切」の状態ではシャワー等のご使用はお控えください。
- ・給湯切時もお湯の温度を確かめていただいてからお湯をお使いください。
- ・熱源機が給湯「切/入」にかかわらず、発電ユニットから最高で30℃の水が供給されますので、熱源機のふる「足し水」機能をご使用いただいても、お風呂がぬるくなくなりやすくなる場合があります。

### BL認定品について

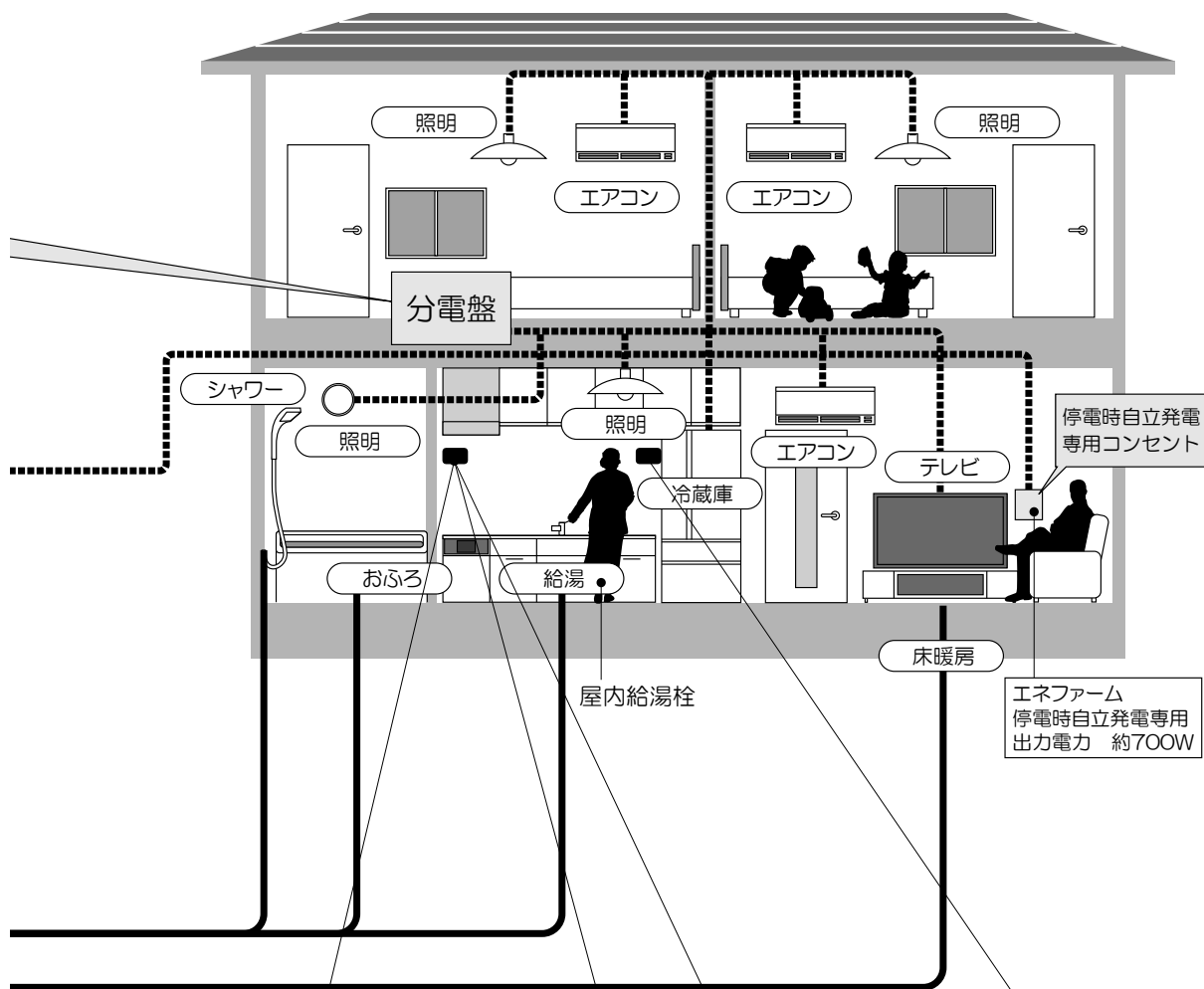
BL認定品は「優良住宅部品」「瑕疵保障・賠償責任保険付」です。

一般財団法人ベターリビングお客さま相談室の電話番号は「03-5211-0680」です。

# 各部のなまえ



※視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。



• お湯、お風呂、暖房、エネルギーなどの操作については、各リモコンの取扱説明書を参照願います。



# ご使用前の確認

ご使用前に次の確認を行ってください。

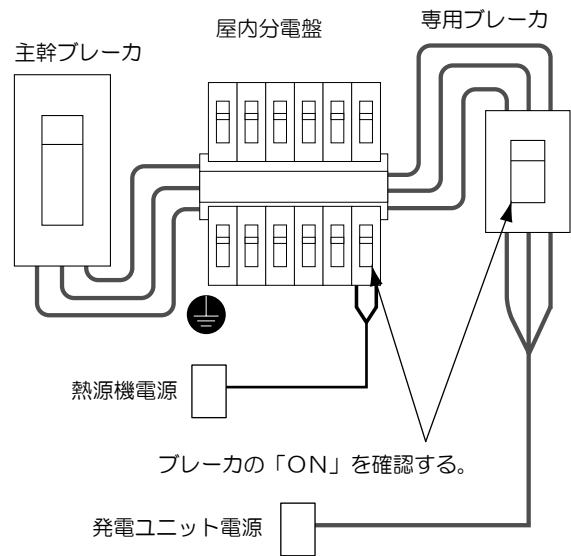
※長期間使用しない場合の水抜き後の起動は、専門のサービスマンによる試運転をご依頼ください。

## ■確認

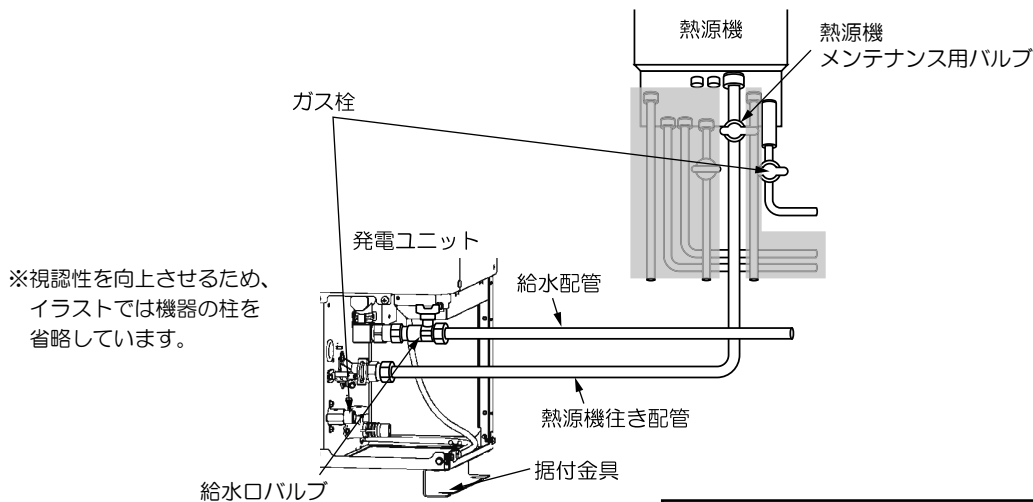
発電ユニット、熱源機周辺に異常がないことを確認します。  
 (「安全のため必ず守ってください」(4～10ページ)を参照願います。)

- 機器の周囲に可燃物および、障害物がないことを確認します。
  - 機器の排気口、吸気口・換気出口が塞がれていないことを確認します。
  - 据付金具が緩んでいないことを確認します。
  - 発電ユニットに接続された屋内分電盤の専用ブレーカと熱源機に接続された屋内分電盤のブレーカが「ON」になっていることを確認します。(図1参照。)
  - 台所リモコンまたは発電リモコンにて日時設定、暗証番号設定が完了していることを確認します。
- 確認方法は各リモコンの取扱説明書を参照してください。
- 図3を参照してフロントR小パネルを取り外し、ガス栓、給水口バルブ、熱源機メンテナンス用バルブが開いていることを確認します。(図2参照。)

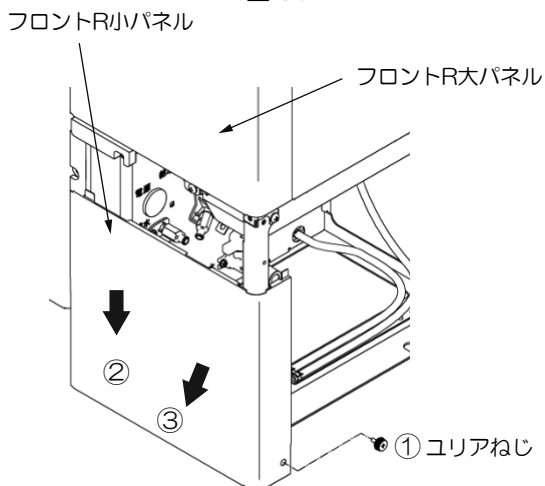
<図1>



<図2>



<図3>



## ■フロントR小パネルの取り外し方法

- ① フロントR小パネル右側面下のユリアねじを外します。
- ② フロントR小パネルを下に数mmスライドさせます。
- ③ フロントR小パネルの下端を手前に寄せながら下方向にスライドさせて取り外します。

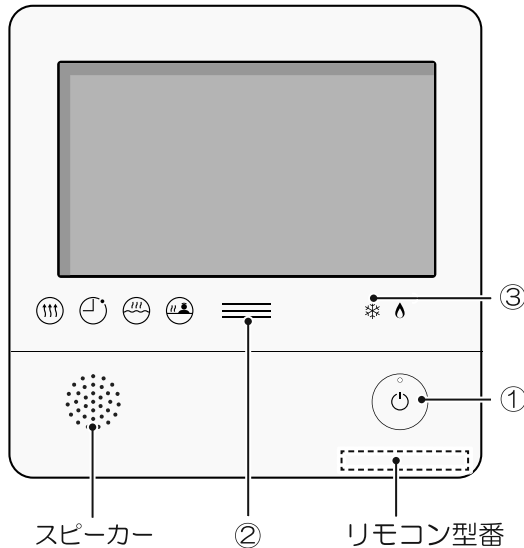
## ■フロントR小パネルの取り付け方法

- (A) フレームとフロントR大パネルの隙間に、フロントR小パネルの爪を差し込みます。
- (B) フロントR小パネルを持ち上げます。
- (C) ユリアねじでフロントR小パネルを固定します。

# 画面説明

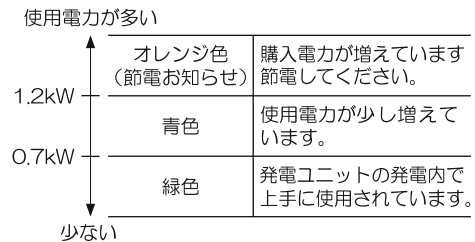
ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について台所リモコンで説明いたします。  
 停電時自立発電中の排湯については台所リモコンでは対応できません。  
 その他のリモコンの詳細機能についてはリモコンの取扱説明書（リモコン操作編）を参照してください。

## ■各部のなまえとはたらき（台所リモコン）



①「ON/OFF」スイッチ・ランプ  
 ・給湯器の運転「入」「切」の操作に使用します。  
 「入」でランプが点灯します。  
 ・画面を表示させたり消したりするときに使用します。

②発電ランプ  
 ・発電ユニットで発電中に点灯します。  
 ・現在の使用電力の状態を、色で表します。



・逆潮流の場合は、買電中か売電中かを表示します。

オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より多いので 買電しています。
青色	使用電力が発電電力より少ないので 売電しています。

③凍結予防運転中マーク  
 凍結予防のために給湯機器のポンプが作動しているとき（熱源機の取扱説明書）や、発電ユニットのヒーターが作動しているときに点灯。

## ■表示画面（タッチパネル）の操作の基本

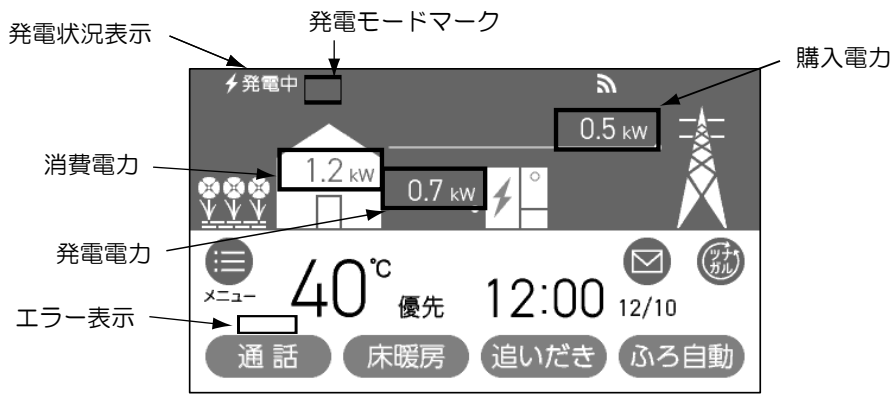
- ・このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- ・圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度力で確実にタッチしてください。
- ・「ON/OFF」スイッチや画面を押さないまま約10分（初期設定時間）経つと表示が消えます。

表示がグレーになっている部分は、タッチしてもスイッチ操作できません。



※説明中のリモコン表示画面は一例です。  
 実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

# 画面説明



<トップ画面>

## ■発電状況表示の見かた

現在の発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中	
⚡ (点灯)	発電しています。
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です。
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です。
↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。 ※1
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。 ※1
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

※1：電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています	
起動中	起動中(発電準備中)です	
停止中	発電停止の動作中です	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています	
発電禁止	発電を強制的に禁止しています	
発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します	
出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています	
不在停止	発電を停止しています	
逆流の場合	電圧抑制 ※2	発電ユニットの出力を一時的に抑えています
	売電中	発電した電力を売電しています
自立運転機能付の場合	⚡ 自立 ↔ ⚡ 自立 (交互表示)	停電時自立発電しています
	⚡ 自立・高 ↔ ⚡ 自立・高 (交互表示)	高出力設定(26ページ)で停電時自立発電しています。

※2：自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

## ■発電モードマークの見かた

🔄	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
M	ガスマイコンメーター 確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>この表示が出ている間(約4~9時間)は、ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、発電ユニットは停止しています。</li> <li>この表示が出た場合、午前2時から午前7時までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分間以上ご使用を停止してください。</li> </ul> ※連続で70分間以上停止いただけなかった場合は、リモコン上に「ガスマイコンメーター確認マーク」に加えて[01900]を表示し、停止を継続します。この場合は、「故障・異常かな?と思ったら」(81ページ)を参照し、処置を行ってください。
H	ヒーター給湯モード マーク	点滅はヒーターにてタンク内を昇温していることを表しています。 点灯は炊き上げが完了していることを表しています。

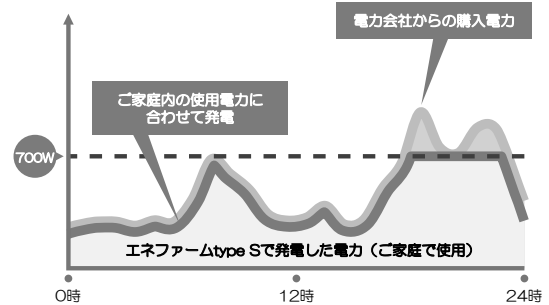
# 発電について

- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約4～5時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約3～5時間かかります。（いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します。）
- 発電ユニットは、27日サイクルで24時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の2パターンあります。

## ■ 1日の運転イメージ例（実際の運転はご家庭ごとに異なります）

### ● 逆潮流なし運転

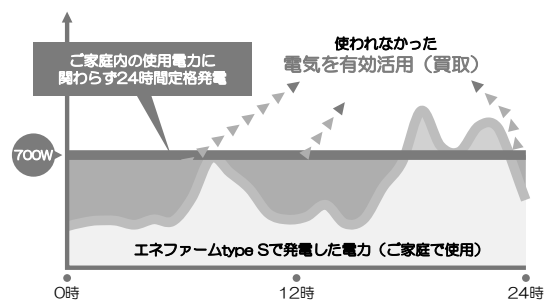
家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。



### ● 逆潮流あり運転

家庭の電力需要に関係なく、定格出力（最大700W）で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

※ 逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります。）



## ■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約4～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。（発電ユニットは自動で運転を再開します。）

ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※ 停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。（2世帯設定でご使用されているお客さまは除く）

Mマーク



# 発電について

## 発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

### ■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンの操作または、お湯・暖房が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

### ■ 機器保護運転停止をしているとき

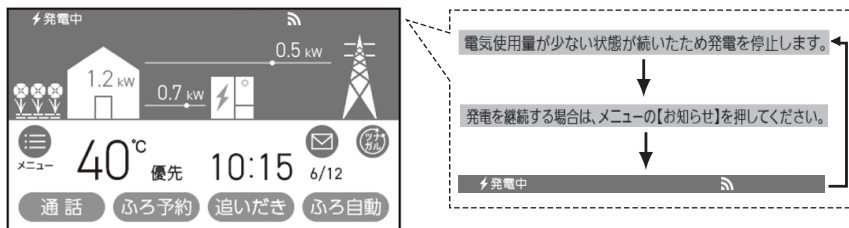
夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）。

### ■ 故障診断をしているとき

リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

### ■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

- 毎月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのトップ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください」のメッセージが24時間表示され、翌月（1か月間）は自動停止します。



- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」（20ページ参照）を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」（20ページ参照）を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

## 発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

### ■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に[出力抑制]を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間0Wに下げる場合があります。
- 自宅につながっている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に[電圧抑制]を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

### ■ 経年劣化したとき

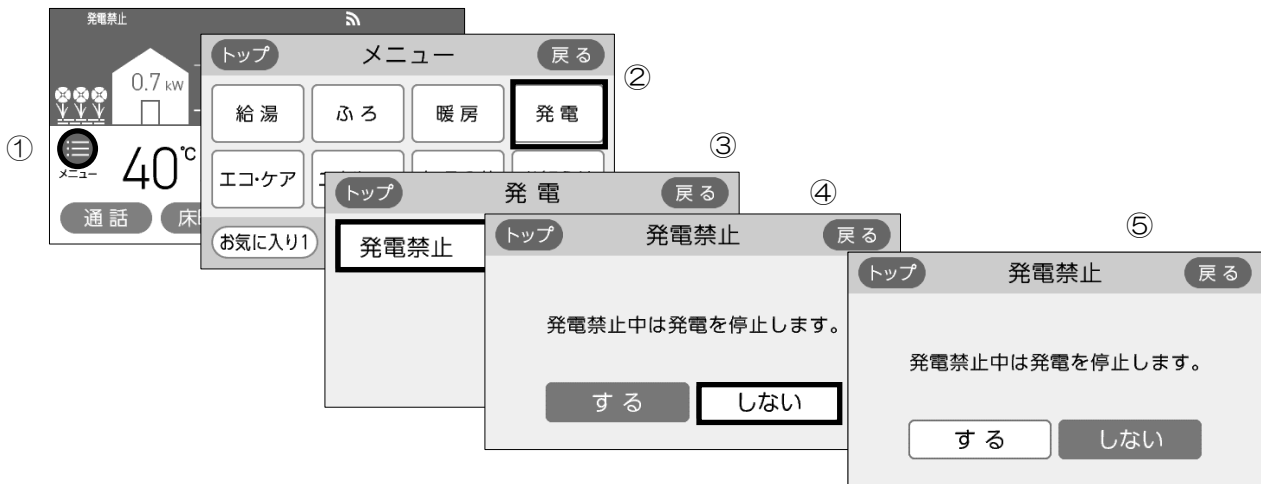
- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

# 発電をする

※ 停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作完了後に起動します。  
起動には約4~5時間かかります。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります。）

## ■ 発電禁止を解除し発電をする（「発電禁止」（21ページ）で停止させた場合）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
  - ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
  - ③ 発電画面より[発電禁止]をタッチします。
  - ④ 発電禁止画面より[しない]をタッチします。
  - ⑤ 発電禁止画面が[しない]に変わります。
- ※ トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください



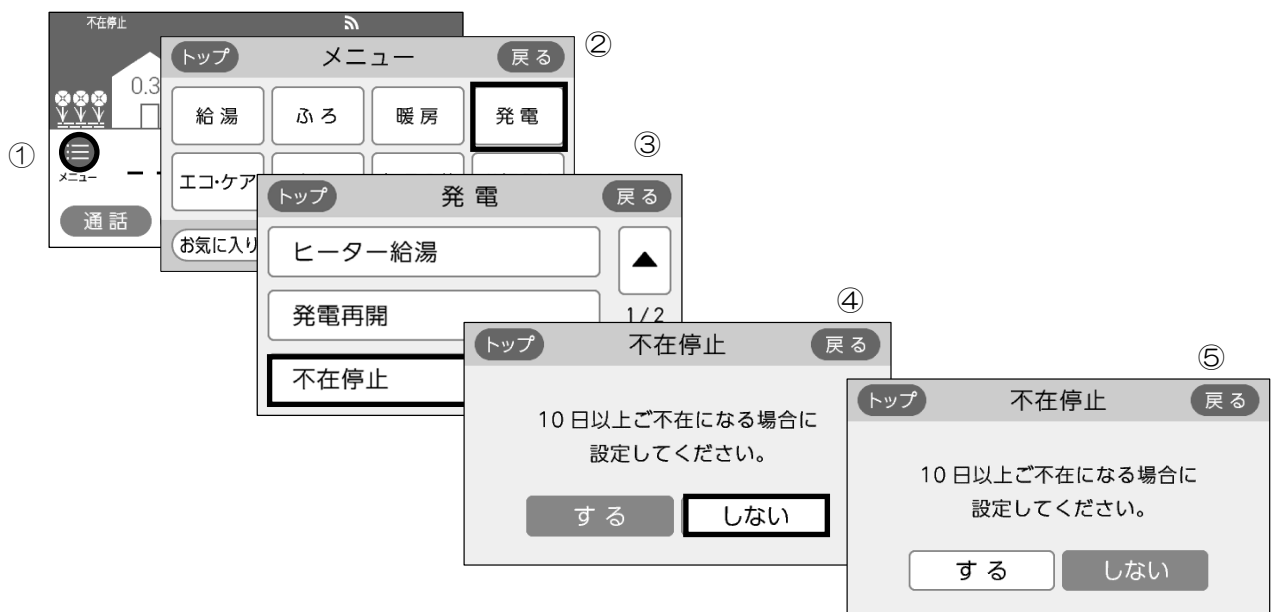
## ■ 不在停止を解除し発電をする（「不在停止」（21ページ）で停止させた場合）

リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作をします。

※ 以下の方法でも発電を再開できます。

- 不在停止設定後5時間以上経過している場合は、リモコンの液晶画面をタッチする。
  - 熱源機による暖房を行う。
  - 不在停止設定後5時間未満の場合は、メニュー画面から再開操作をします。
- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
  - ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
  - ③ 発電画面より[不在停止]をタッチします。
  - ④ 不在停止画面より[しない]をタッチします。
  - ⑤ 不在停止画面が[しない]に変わります。

※ トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください

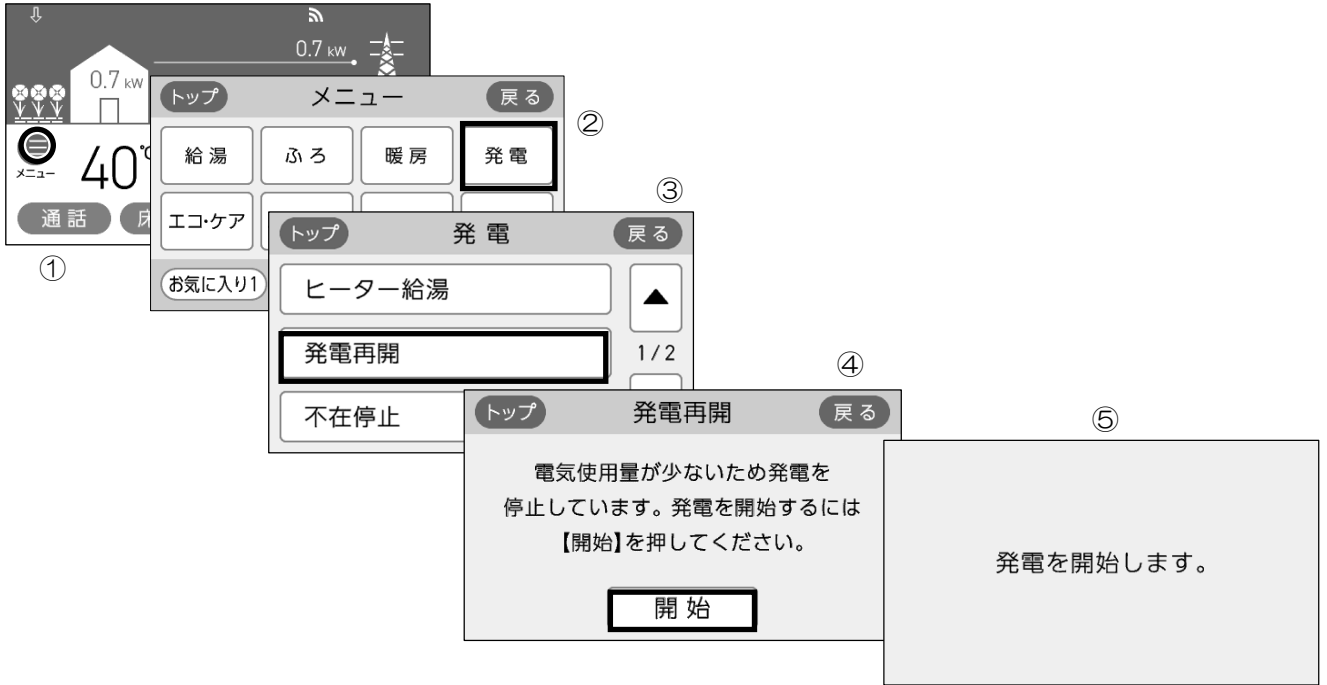


# 発電をする

## ■ 発電の再開をする

(「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(18ページ)で停止している場合)

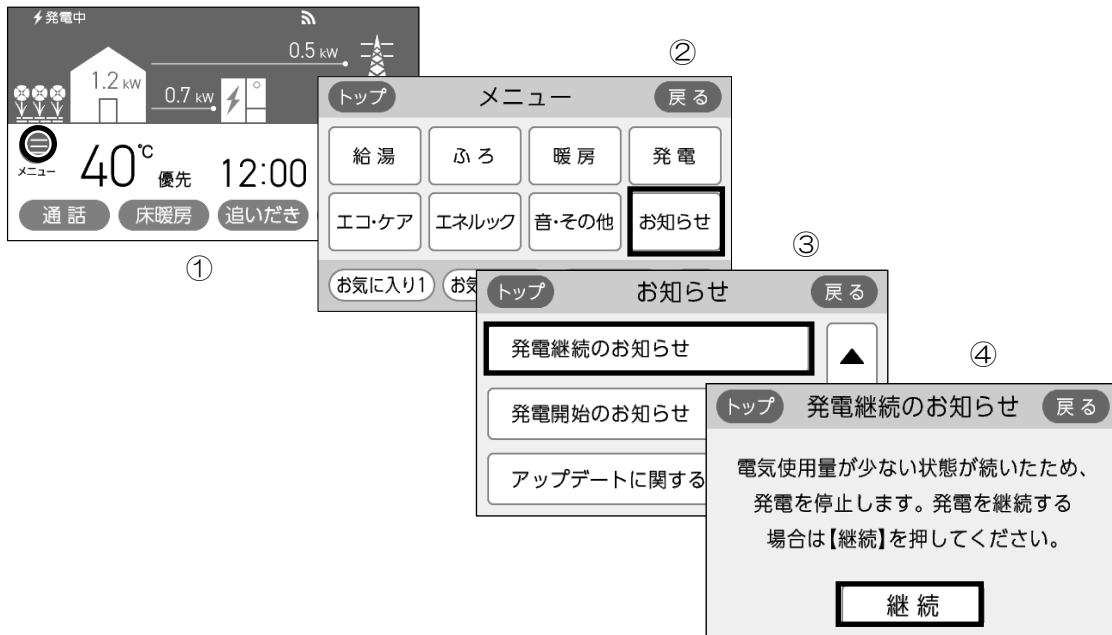
- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電再開]をタッチします。
- ④ 発電再開画面より[開始]をタッチします。
- ⑤ 「発電を開始します」と画面に表示され、発電ユニットが起動をはじめます。



## ■ 翌日も発電を継続する

(「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(18ページ)メッセージ表示している場合)

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[お知らせ]をタッチします。
- ③ お知らせ画面より[発電継続のお知らせ]をタッチします。
- ④ 発電継続のお知らせ画面より[継続]をタッチします。画面は③に戻り翌日も発電が継続されます。



# 発電を止める

機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）。

停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

## ■ 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電禁止]をタッチします。
- ④ 発電禁止画面より[する]をタッチします。
- ⑤ 発電禁止画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ [設定しました。]と表示後、④の画面に戻ります。



## ■ 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいとき（不在停止）

※1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[不在停止]をタッチします。
- ④ 不在停止画面より[する]をタッチします。
- ⑤ 不在停止画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。



※不在停止設定を[する]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの液晶画面のタッチで不在停止が解除されます。

※不在停止設定を[する]にした後、お風呂（お湯の使用）または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

# 停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

## 停電時自立発電機能の概要

### ■発電ユニットが発電中に停電した場合は、停電時自立発電機能により発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

### ■停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです

※熱源機で使用する電気の量も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。

### ■停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

### ■台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

※2世帯設定で使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。（詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」（17ページ）をご参照ください。）停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

(1) リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、(2)以降の操作は必要ありません。

・トップ画面より[メニュー][発電][発電停止予定]を押して日数を確認してください。



(2) 停電予想期間中に次回発電停止予定日がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（21ページ参照）により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了（発電状況表示部の⚡が交互表示され、約3～5時間後⚡は消灯します。（発電状況表示については16ページを参照してください。））後、連続で24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器（給湯・床暖房など）を連続で70分以上停止させてください。

(3) 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が26日後になっていることを確認し、遅くとも停電予想の5時間前までには「発電禁止を解除し発電をする」（19ページ参照）の操作を実施してください。

## ■お知らせ

- ◆ 停電時自立発電中は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- ◆ 以下の場合、使用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
  - ・断水状態（ご家庭への給水が停止している状態）時  
※断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82F01]等を表示し、運転を停止する場合があります。
  - ・停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合
  - ・発電ユニットの蓄熱量が多い場合

# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## 主な電気製品の消費電力

「安全のため必ず守ってください」(4～10ページ)を参照願います。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話 (充電時)	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ (42型)	85	冷蔵庫 ※1	200
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
熱源機の給湯運転	100		

※1 機種によっては使用できないことがあります。

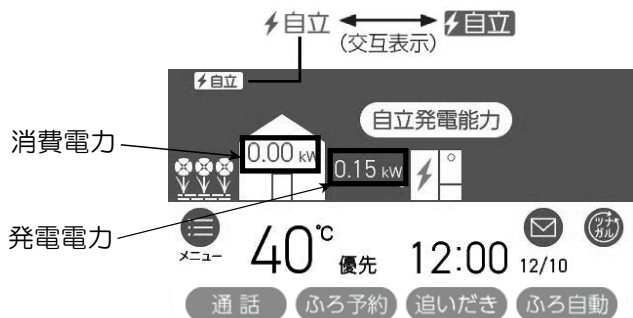
# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## 停電発生時の対応

※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

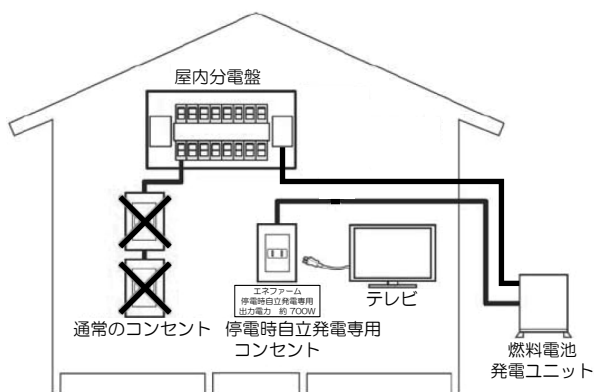
① [自立]の文字部が反転点滅表示され、発電電力が表示されていることを確認する

- ・ 停電してから約90秒後に、自動的にリモコンの液晶画面が表示されます。
- ・ 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定（26ページ参照）に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- ・ お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。（最大約10分間）



② 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む

- ・ 停電時は停電時自立発電専用コンセントしか使うことができません。
- ・ リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- ・ 消費電力が発電電力を上回る場合（過負荷）は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約90秒～10分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- ・ 過負荷2回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- ・ 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

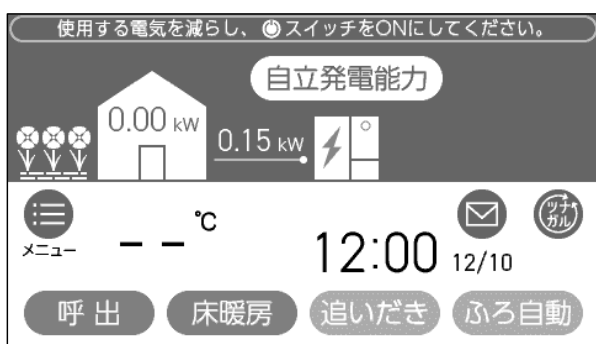


③ 浴槽の排水栓を抜く

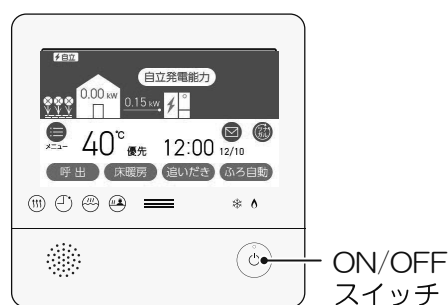


## 過負荷2回目以降の復帰操作

① リモコンのメッセージを確認する



② 「ON/OFF」スイッチをONする。



# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## お願い

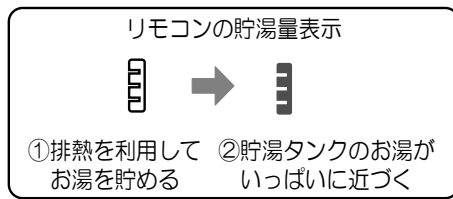
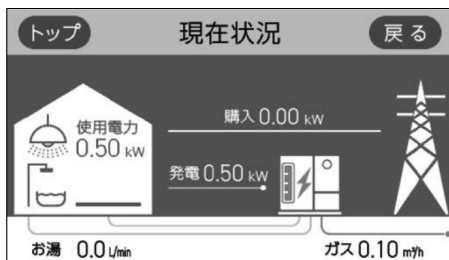
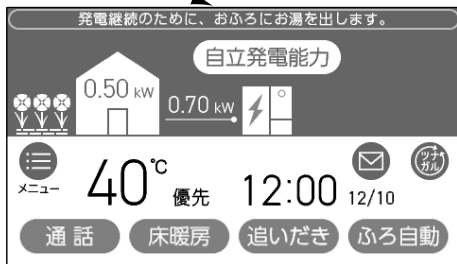
停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は浴槽の栓をしてください。)  
 停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。  
 浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

### ■自動排湯について

停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能\*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。  
 \* 排湯機能とは・・・貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

貯湯量表示がいっぱいになると、リモコンから [発電継続のためにお風呂にお湯を出します] 表示と音でお知らせし、お風呂にお湯を約20リットル出します。  
 ※状況により複数回お湯を出す場合があります。

排湯メッセージ



発電継続のためにお湯をお風呂に出します。



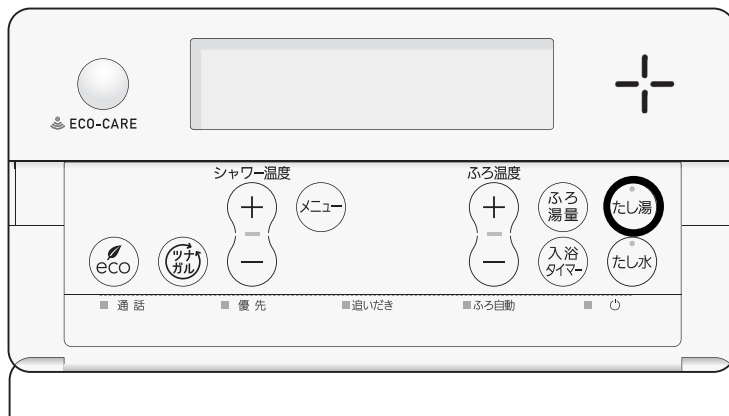
- ・排湯アナウンス  
リモコンから表示と音でお知らせ
- ・排湯中は、リモコンのON/OFFスイッチがON/OFFにかかわらずONになります。

- ・貯湯量は、リモコンより[メニュー]→[エネルギー]→[現在状況]で左画面(一例)で確認ください。

### ■お知らせ

- ◆お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- ◆停電時自立発電時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

- ・浴室リモコンの「たし湯」ボタンを押す。



# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

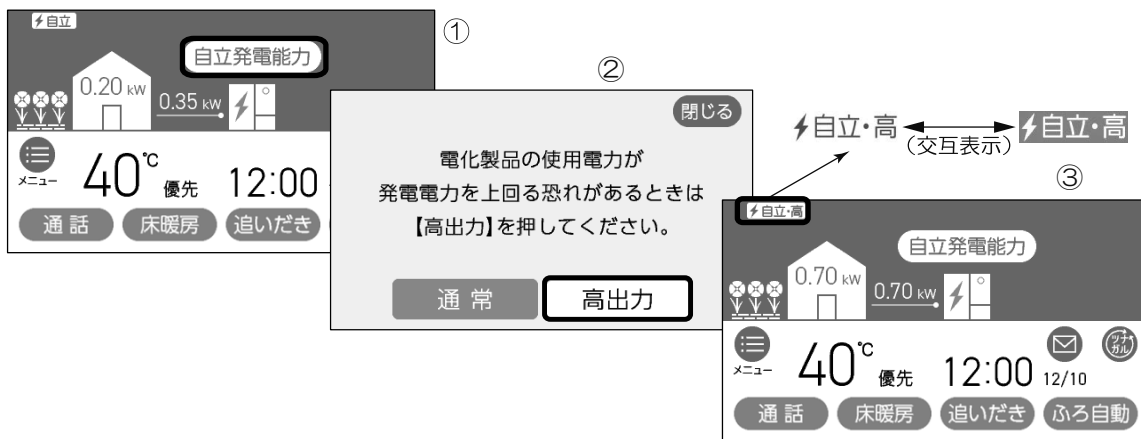
## 発電出力を上げる場合

### ■高出力設定にする場合

停電時自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電出力を700Wよりも下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電気製品を使用されるときは下記の手順で高出力設定に切り替えてください。

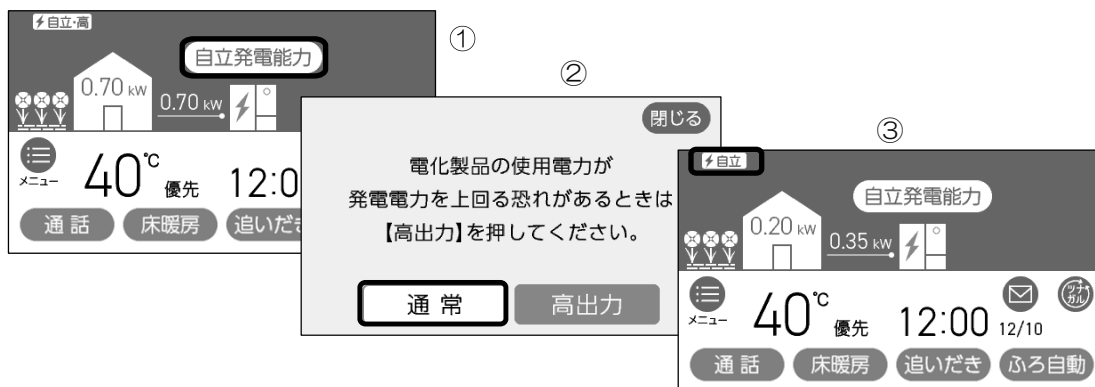
※ 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[自立発電能力]をタッチする。  
([自立発電能力]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)
- ② 自立発電能力画面で[高出力]をタッチする。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



### ■高出力設定を通常に戻す場合

- ① トップ画面より、[自立発電能力]をタッチする。
- ② 自立発電能力画面で[通常]をタッチする。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立]に変わります。



※ 通常モードに戻し忘れた場合は消費電力低下から約5分後に自動的に通常モードに戻ります。

# 停電時にお湯を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

- ① リモコンのトップ画面で、左上部の文字が[自立]表示の反転点滅表示になっていることを確認してください。
- ② リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認してください。  
発電に余力がない場合は、高出力設定(上記参照)にする、または他の電気製品を止めてください。
- ③ 給湯栓を開けてください。  
熱源機からのお湯を使用することができます。

# 画面説明

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について台所リモコンで説明いたします。浴室リモコンも台所リモコンと同様に発電ユニットを操作することができます。ただし停電時自立発電時の排湯については台所リモコンでは対応できません。

その他のリモコンの詳細機能についてはリモコンの取扱説明書を参照してください。

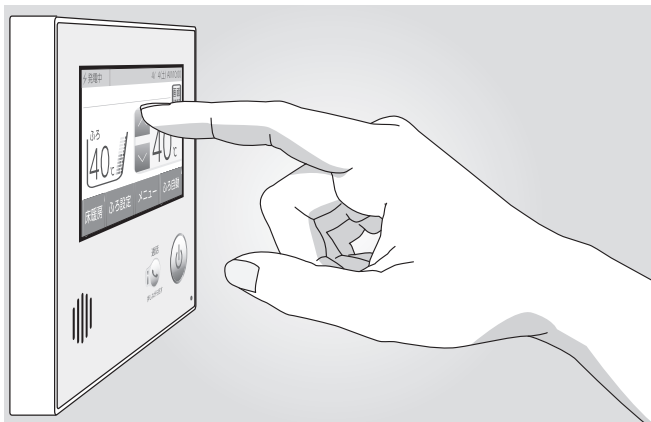
## ■各部のなまえとはたらき（台所リモコン）



- ①「ON/OFF」スイッチ・ランプ
- ・給湯器の運転「入」「切」の操作に使用します。
  - ・「入」でランプが点灯します。
  - ・画面を表示させたり消したりするときに使用します。

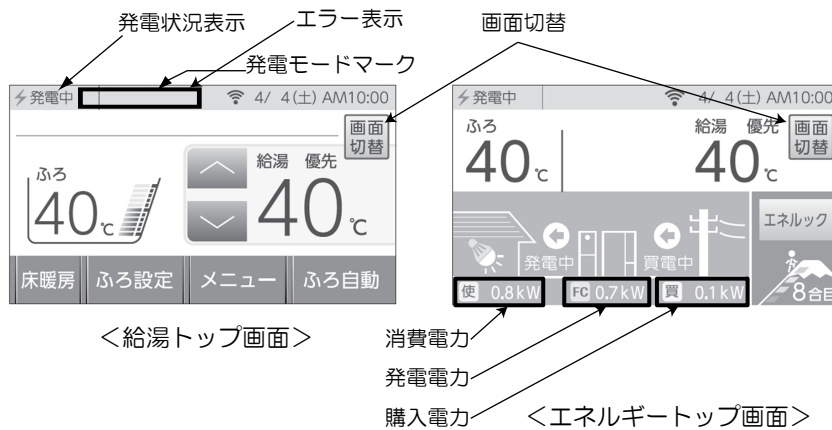
## ■表示画面（タッチパネル）の操作の基本

- ・このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- ・圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度の力で確実にタッチしてください。



※説明中のリモコン表示画面は一例です。  
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

# 画面説明



<給湯トップ画面>

<エネルギートップ画面>

## ■発電状況表示の見かた

現在の発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中	
⚡ (点灯)	発電しています。
表示部が回転	起動中(発電準備中)です。
	発電停止の動作中です。
	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは発電停止の動作中または停止しています。*1
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

\*1：電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています。	
起動中	起動中(発電準備中)です。	
停止中	発電停止の動作中です。	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。	
⊘ 禁発電	発電を強制的に禁止しています。	
⊗ 発電	発電ユニットが使用できない場合に表示します。	
出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています。	
逆流の場合	電圧抑制*2	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
自立運転機能付の場合	自立	停電時自立発電しています。
	自立・高	高出力設定(39ページ)で停電時自立発電しています。

\*2：自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、

## ■発電モードマークの見かた

	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
	ガスマイコンメーター 確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>この表示が出ている間(約4~9時間)は、ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、発電ユニットは停止しています。</li> <li>この表示が出た場合、午前2時から午前7時までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分間以上ご使用を停止してください。</li> </ul> ※連続で70分間以上停止いただけなかった場合は、リモコン上に「ガスマイコンメーター確認マーク」に加えて[01900]を表示し、停止を継続します。この場合は、「故障・異常かな?と思ったら」(81ページ)を参照し、処置を行ってください。
	凍結防止マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。
	ヒーター給湯モード マーク	点滅はヒーターにてタンク内を昇温していることを表しています。 点灯は炊き上げが完了していることを表しています。

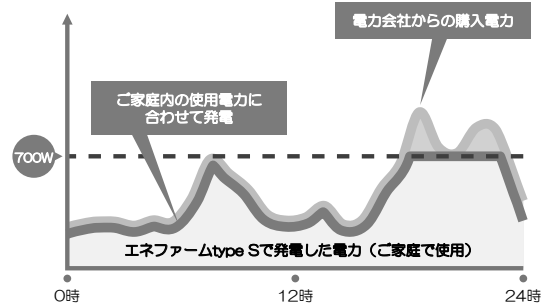
# 発電について

- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約4～5時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約3～5時間かかります。（いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します。）
- 発電ユニットは、27日サイクルで24時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の2パターンあります。

## ■ 1日の運転イメージ例（実際の運転はご家庭ごとに異なります）

### ● 逆潮流なし運転

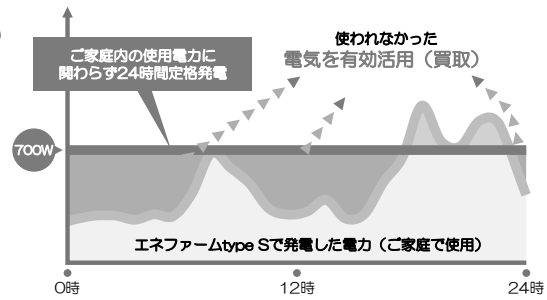
家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。



### ● 逆潮流あり運転

家庭の電力需要に関係なく、定格出力（最大約700W）で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

※ 逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります。）



## ■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約4～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。（発電ユニットは自動で運転を再開します。）

ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※ 停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。（2世帯設定でご使用されているお客さまは除く）

Mマーク



# 発電について

## 発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

### ■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンの操作または、お湯・暖房が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

### ■ 機器保護運転停止をしているとき

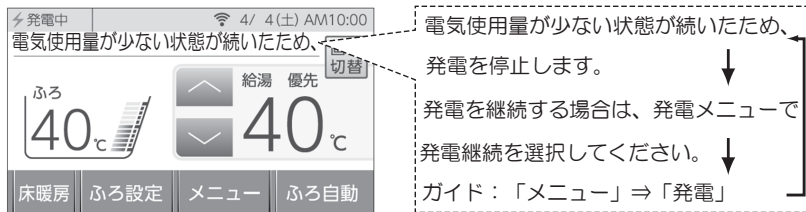
夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）。

### ■ 故障診断をしているとき

リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

### ■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

- 毎月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのトップ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合は発電メニューで発電継続を選択してください。」のメッセージが24時間表示され、翌月（1か月間）は自動停止します。



- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」（32ページ参照）を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」（32ページ参照）を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

## 発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

### ■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に[出力抑制]を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWに下げる場合があります。
- 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に[電圧抑制]を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

### ■ 経年劣化したとき

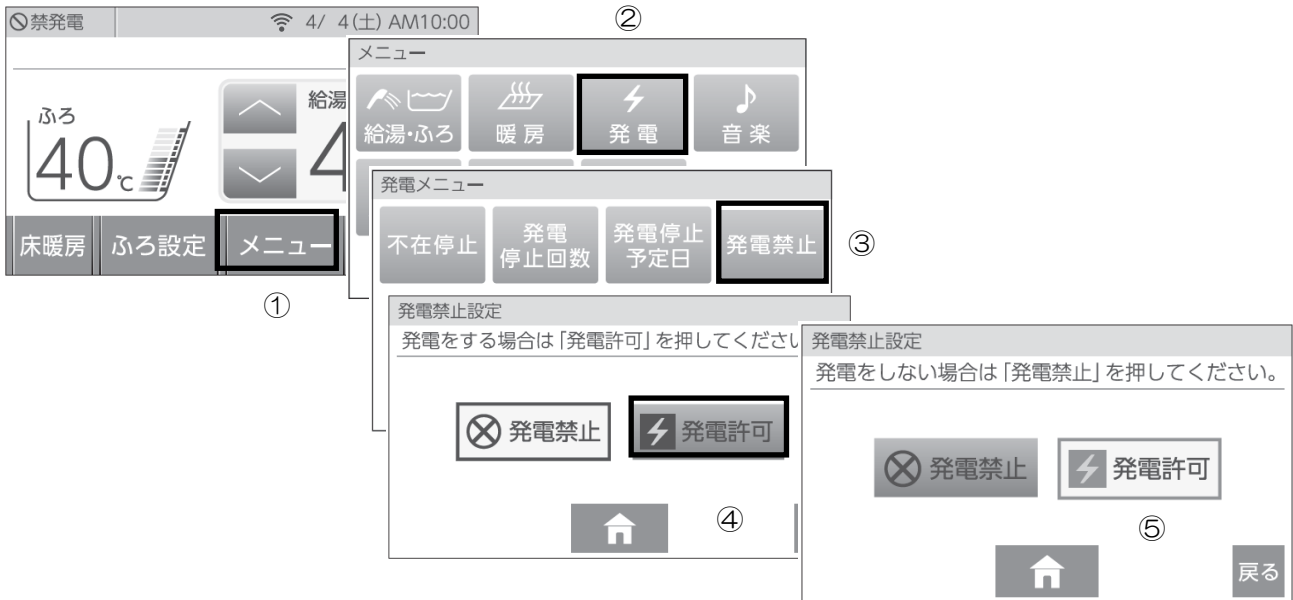
- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

# 発電をする

※ 停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作完了後に起動します。  
起動には約4~5時間かかります。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります。）

## ■ 発電禁止を解除し発電をする（発電禁止（33ページ）で停止させた場合）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[発電禁止]をタッチします。
- ④ 発電禁止画面より[発電許可]をタッチします。
- ⑤ 表示が[発電許可]に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。

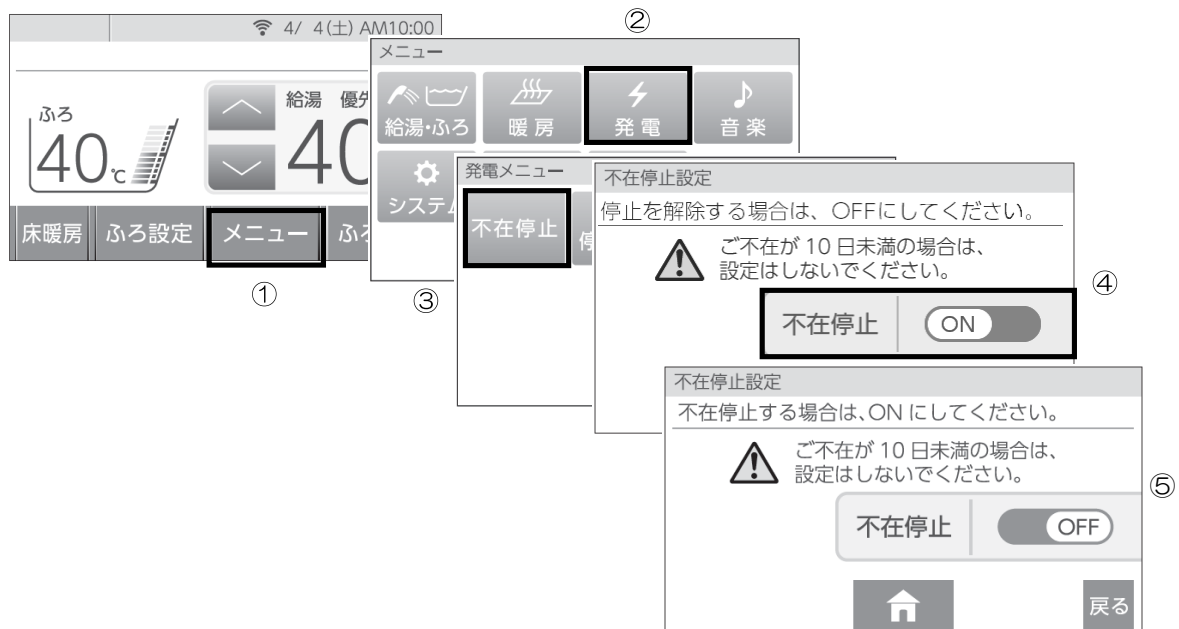


## ■ 不在停止を解除し発電をする（不在停止（34ページ）で停止させた場合）

リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作をする。

※ 以下の方法でも発電を再開できます。

- 不在停止設定後5時間以上経過している場合は、リモコンの液晶画面をタッチします。
  - 熱源機による暖房を行う。
  - 不在停止設定後5時間未満の場合は、メニュー画面から再開操作をする。
- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
  - ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
  - ③ 発電メニュー画面より[不在停止]をタッチします。
  - ④ 不在停止設定画面より[ON]をタッチします。
  - ⑤ 表示が[OFF]に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。

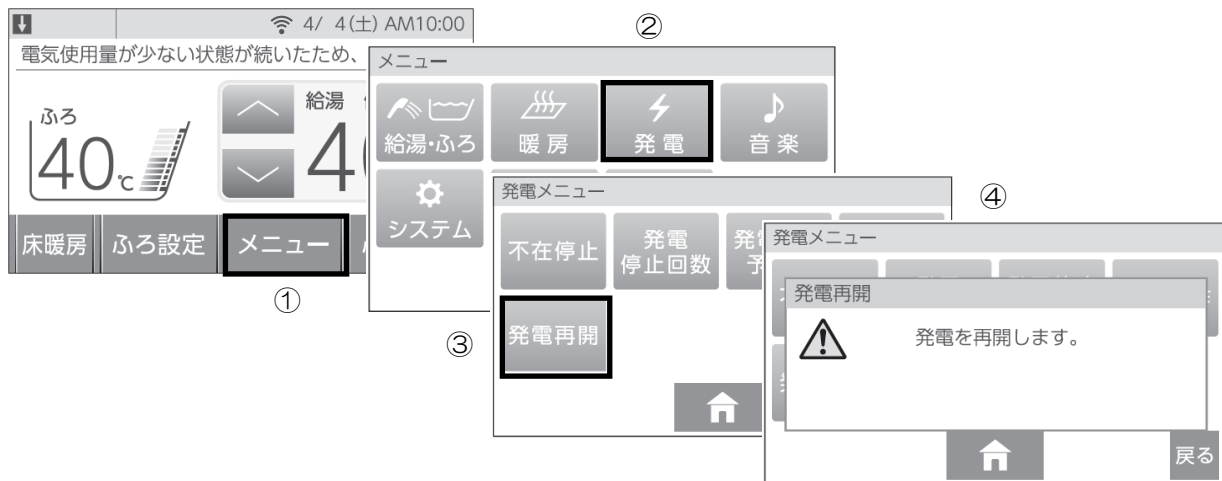


# 発電をする

## ■ 発電の再開をする

(「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(30ページ)で停止している場合)

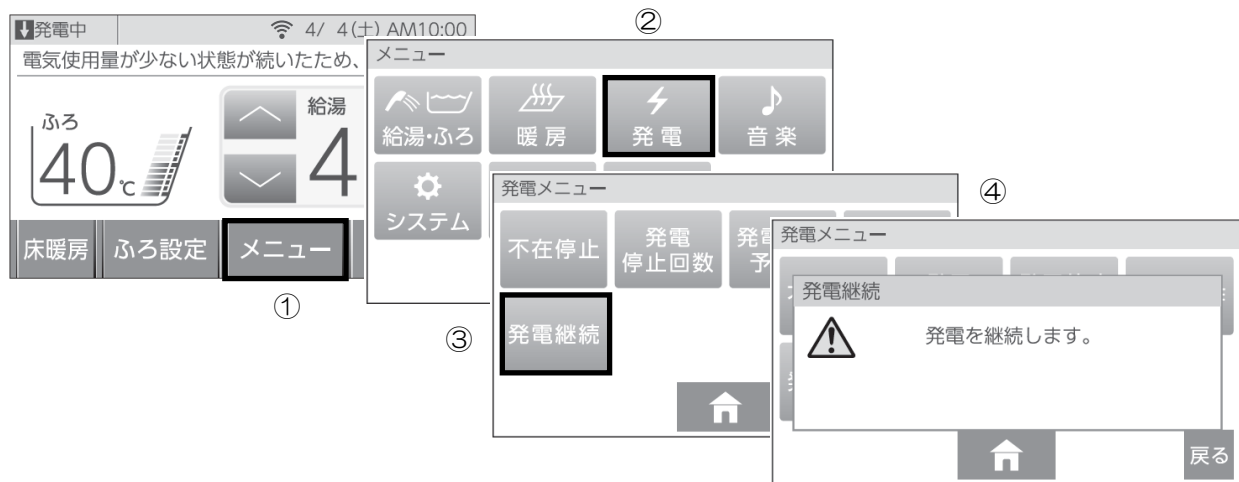
- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[発電再開]をタッチします。
- ④ 「発電を再開します。」と画面に表示されます。(5秒程度)
- ⑤ トップ画面に移行し、発電ユニットが起動をはじめます。



## ■ 翌日も発電を継続する

(「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(30ページ)メッセージ表示している場合)

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[発電継続]をタッチします。
- ④ 「発電を継続します。」と画面に表示されます。(5秒程度)
- ⑤ トップ画面に移行し、翌日も発電を継続します。



# 発電を止める

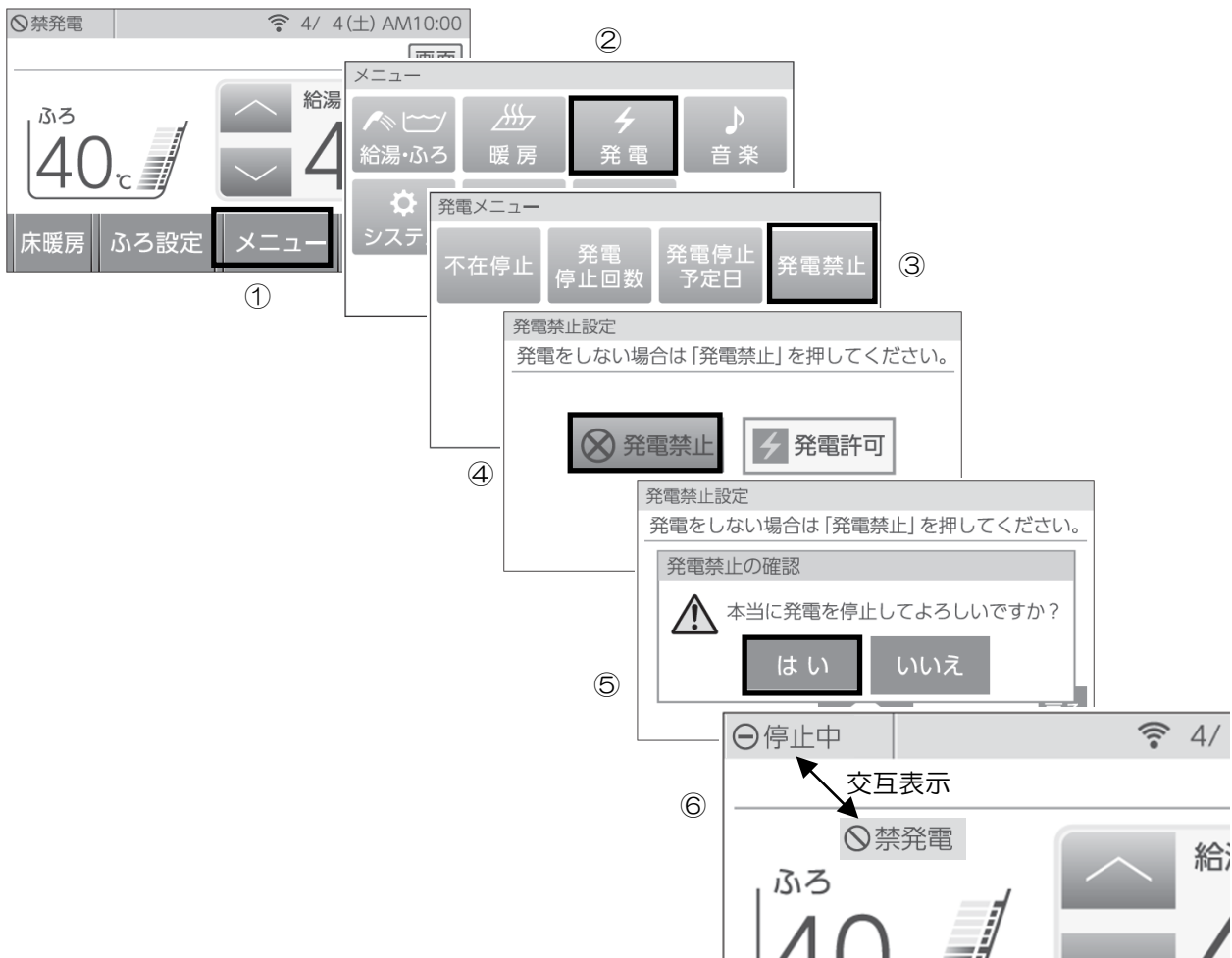
機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）。

停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

## ■ 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[発電禁止]をタッチします。
- ④ 発電禁止設定画面より[発電禁止]をタッチします。
- ⑤ 発電禁止の確認画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ リモコントップ画面の左上に[停止中]と[禁発電]が交互に表示され、約3～5時間後に[禁発電]の表示になります。



# 発電を止める

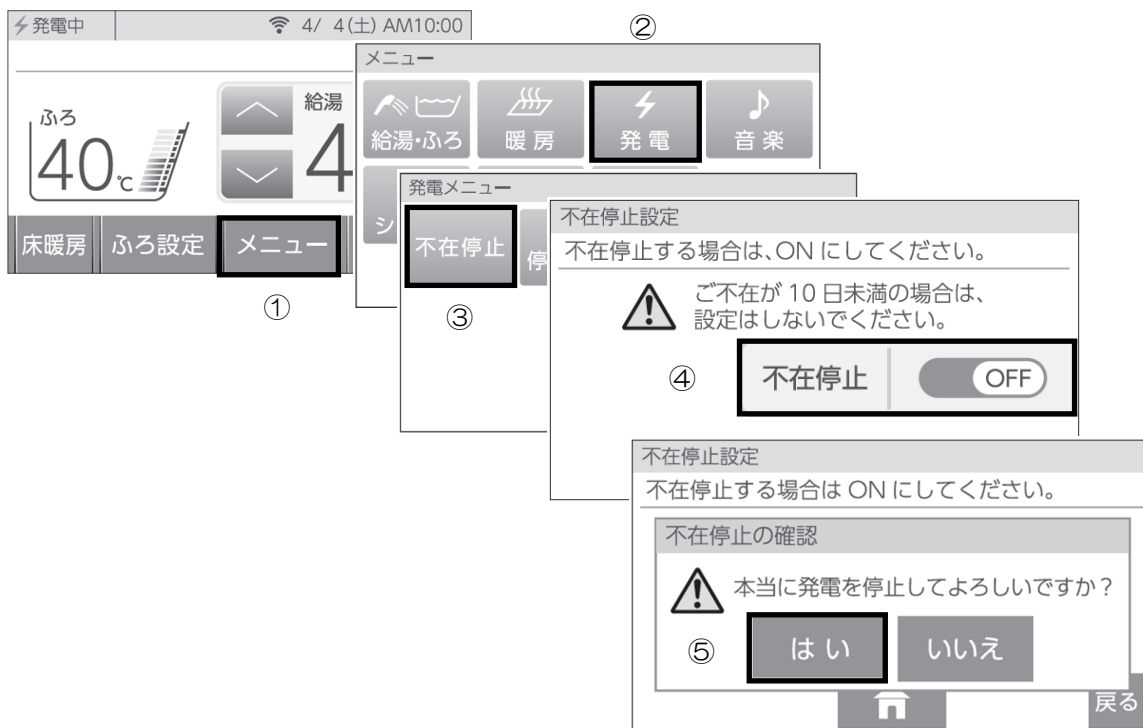
## ■ 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいとき（不在停止）

※ 1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※ 10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※ 給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[不在停止]をタッチします。
- ④ 不在停止設定画面より[OFF]をタッチします。
- ⑤ 不在停止の確認画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。



※ 不在停止設定を[ON]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの液晶画面のタッチで不在停止が解除されます。

※ 不在停止設定を[ON]にした後、お風呂または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

# 停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

## 停電時自立発電機能の概要

### ■ 発電ユニットが発電中に停電した場合は、停電時自立発電機能により発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

### ■ 停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです

※ 熱源機で使用する電気の量も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。

### ■ 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

### ■ 台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

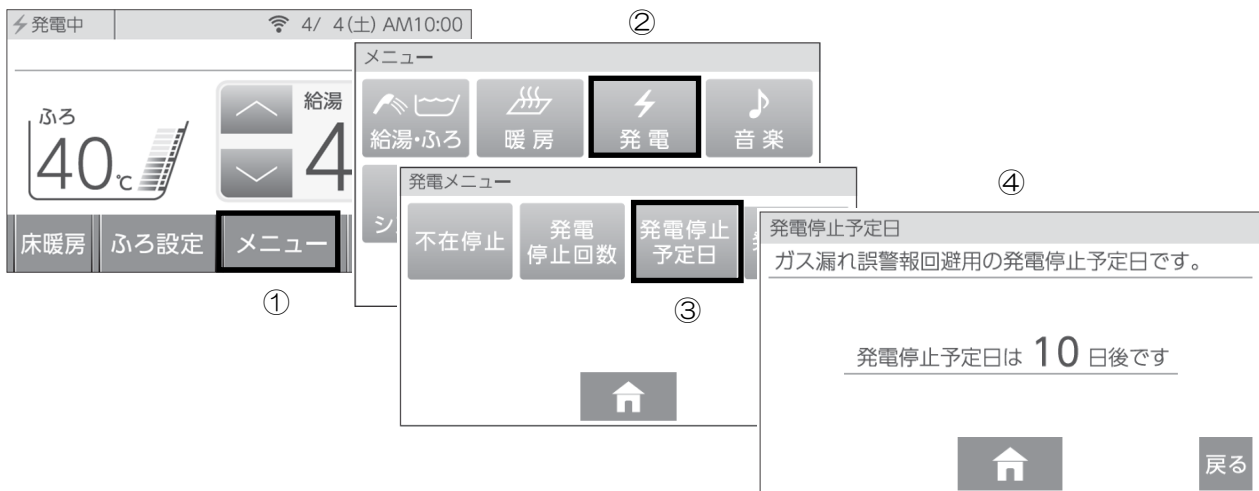
※ 2世帯設定でご使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。

（詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」（29ページ）をご参照ください。）停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

(1) リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、(2)以降の操作は必要ありません。

・トップ画面より[メニュー][発電][発電停止予定日]を押して日数を確認してください。



- (2) 停電予想期間中に次回発電停止予定日がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（33ページ参照）により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了（発電状況表示部が[○停止中][○禁発電]の交互表示から、約3～5時間後[○禁発電]の固定表示になります。（発電状況表示については28ページを参照してください。））後、連続で24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器（給湯・床暖房など）を連続で70分間以上停止させてください。
- (3) 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が26日後になっていることを確認し、遅くとも停電予想の5時間前までには「発電禁止を解除し発電をする」（31ページ参照）の操作を実施してください。

### ■ お知らせ

- ◆ 停電時自立発電中は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- ◆ 以下の場合は、使用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
  - ・ 断水状態（ご家庭への給水が停止している状態）時
    - ※ 断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82F01]等を表示し、運転を停止する場合があります。
  - ・ 停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合
  - ・ 発電ユニットの蓄熱量が多い場合

# 停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

## 主な電気製品の消費電力

「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照願います。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話（充電時）	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒーター	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ（42型）	85	冷蔵庫 ※1	200
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
熱源機の給湯運転	100		

※1 機種によっては使用できないことがあります。

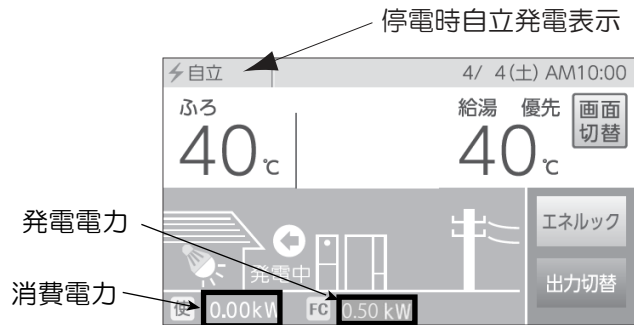
# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## 停電発生時の対応

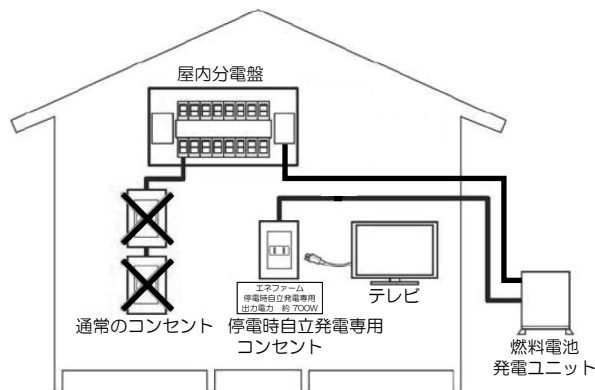
※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

① [自立]の文字が表示され、発電電力が表示されていることを確認する

- ・ 停電してから約90秒後に、自動的にリモコンの液晶画面が表示されます。
- ・ 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定(39ページ参照)に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- ・ お客様の電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。(最大約10分間)



② 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



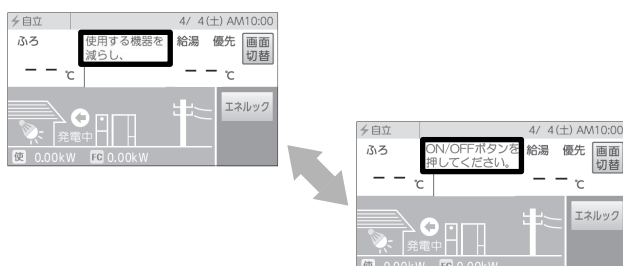
- ・ 停電時は停電時自立発電専用コンセントしか使うことができません。
- ・ リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- ・ 消費電力が発電電力を上回る場合(過負荷)は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約90秒~10分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- ・ 過負荷2回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- ・ 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

③ 浴槽の排水栓を抜く



## 過負荷2回目以降の復帰操作

① リモコンのメッセージを確認する



② 「ON/OFF」スイッチをONにする。



# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## お願い

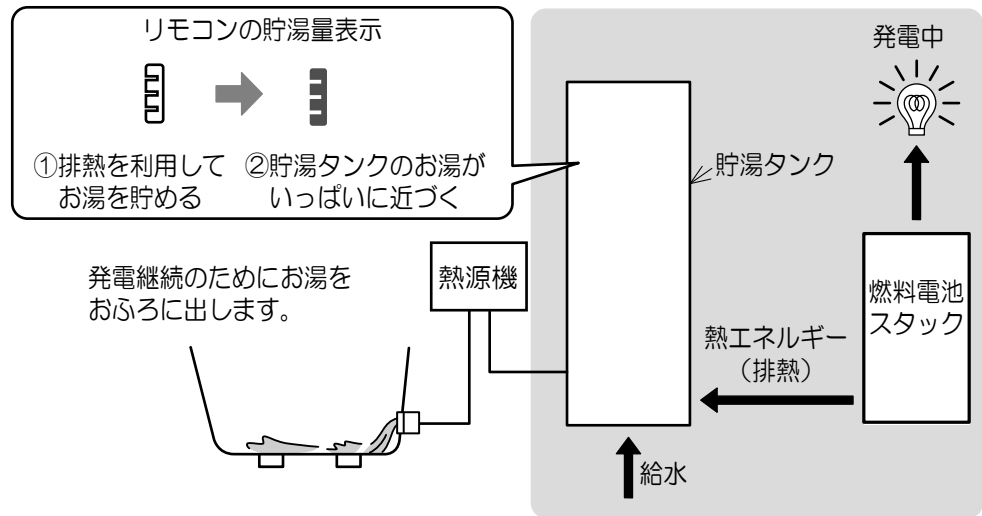
停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は浴槽の栓をしてください。)  
停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。  
浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

### ■自動排湯について

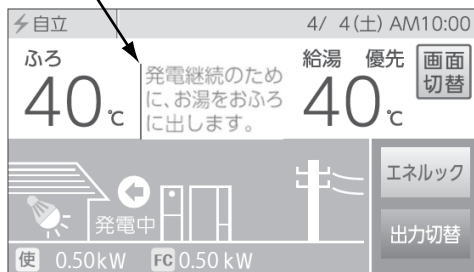
停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能\*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

\* 排湯機能とは・・・貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音声でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

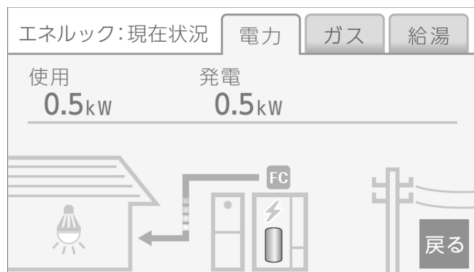
貯湯量表示がいっぱいに近づくと、リモコンから「発電継続のために、お湯をお風呂に出します」表示と音声でお知らせし、お風呂にお湯を約24リットル出します。  
※状況により複数回お湯を出す場合があります。



排湯メッセージ



・排湯アナウンス  
リモコンから表示と音声でお知らせします。



・貯湯量は、リモコンより[メニュー]→[エネルギー]→[現在状況]で左画面(一例)で確認ください。

### ■お知らせ

お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。

# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## 発電出力を上げる場合

### ■高出力設定にする場合

停電時自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電出力を700Wよりも下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電気製品を使用されるときは下記の手順で高出力設定に切り替えてください。

※発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[出力切替]をタッチする。  
([出力切替]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)
- ② メッセージタイトル画面で[高出力]をタッチする。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



### ■高出力設定を通常に戻す場合

- ① トップ画面より、[自立発電能力]をタッチする。
- ② メッセージタイトル画面で[通常出力]をタッチする。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立]に変わります。



※通常モードに戻し忘れた場合は消費電力低下から約5分後に自動的に通常モードに戻ります。

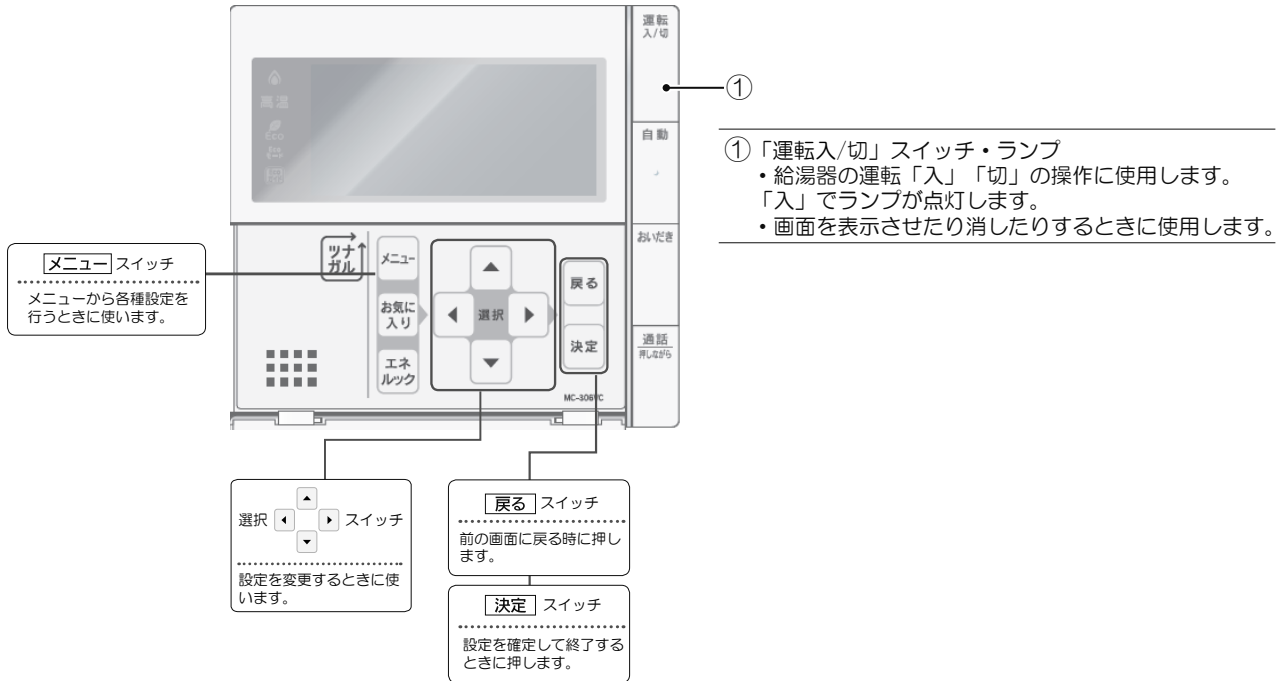
# 停電時にお湯を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

- ① リモコンのトップ画面で、左上部の文字が[自立]表示になっていることを確認してください。
- ② リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認してください。  
発電に余力がない場合は、高出力設定(上記参照)にする、または他の電気製品を止めてください。
- ③ 給湯栓を開けてください。  
熱源機からのお湯を使用することができます。

# 画面設定

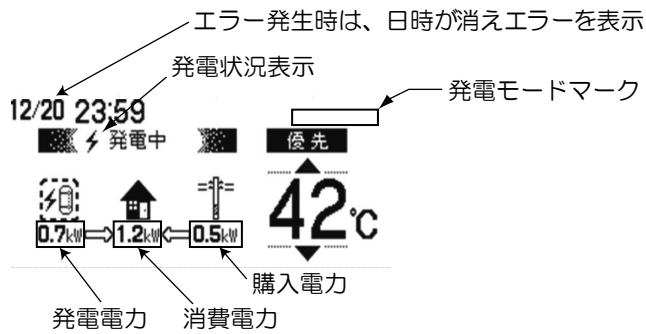
ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について台所リモコンで説明いたします。  
停電時自立発電時の排湯については台所リモコンでは対応できません。  
その他のリモコンの詳細機能についてはリモコンの取扱説明書を参照してください。

## ■各部のなまえとはたらき（台所リモコン）



※説明中のリモコン表示画面は一例です。  
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

# 画面説明



## ■ 発電状況表示の見かた

現在の発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中

⚡ (点灯)	発電しています。
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です。
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です。
↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。*1
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。*1
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

\*1：電気使用量が少ない状態が続くと、  
発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています。	
起動中	起動中(発電準備中)です。	
停止中	発電停止の動作中です。	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。	
発電禁止	発電を強制的に禁止しています。	
発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します。	
出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています。	
逆潮流の場合	電圧抑制*2	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
自立運転機能付の場合	自立 ↔ 自立 (交互表示)	停電時自立発電しています。
	自立・高 ↔ 自立・高 (交互表示)	高出力設定(52ページ)で停電時自立発電しています。

\*2：自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、  
発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、  
発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、  
この機能は自動的に解除されます。

## ■ 発電モードマークの見かた

	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
	ガスマイコンメーター 確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>この表示が出ている間(約4~9時間)は、ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、発電ユニットは停止しています。</li> <li>この表示が出た場合、午前2時から午前7時までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分以上ご使用を停止してください。</li> </ul> ※連続で70分以上停止いただけなかった場合は、リモコン上に「ガスマイコンメーター確認マーク」に加えて[01900]を表示し、停止を継続します。この場合は、「故障・異常かな?と思ったら」(81ページ)を参照し、処置を行ってください。
	凍結防止マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。

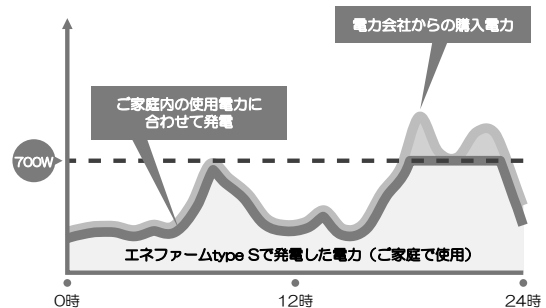
# 発電について

- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約4～5時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約3～5時間かかります。（いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します。）
- 発電ユニットは、27日サイクルで24時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の2パターンあります。

## ■ 1日の運転イメージ例（実際の運転はご家庭ごとに異なります）

### ● 逆潮流なし運転

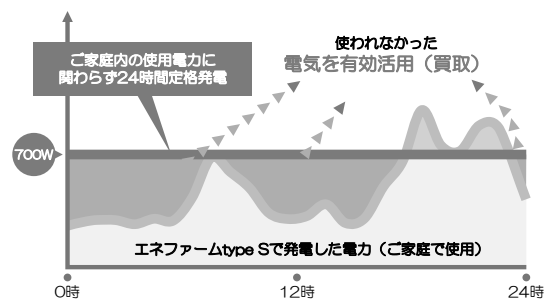
家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。



### ● 逆潮流あり運転

家庭の電力需要に関係なく、定格出力（最大700W）で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

※ 逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります）



リモコン  
発電

## ■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

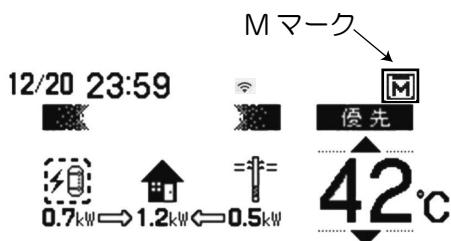
ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約4～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。（発電ユニットは自動で運転を再開します。）

ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※ 停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。（2世帯設定でご使用されているお客さまは除く）



# 発電について

## 発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

### ■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンの操作または、お湯・暖房が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

### ■ 機器保護運転停止をしているとき

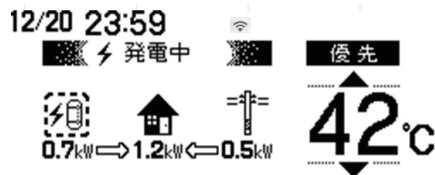
夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

### ■ 故障診断をしているとき

リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

### ■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

- 毎月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのトップ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合は【メニュー】→【発電】より発電継続を選択してください。」のメッセージが24時間表示され、翌月（1か月間）は自動停止します。



電気使用量が少ない状態が続いたため ←——— メッセージ表示部  
(メッセージが右から左にながれる)

- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」（45ページ参照）を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」（45ページ参照）を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

## 発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

### ■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に[出力抑制]を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWに下げる場合があります。
- 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に[電圧抑制]を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

### ■ 経年劣化したとき

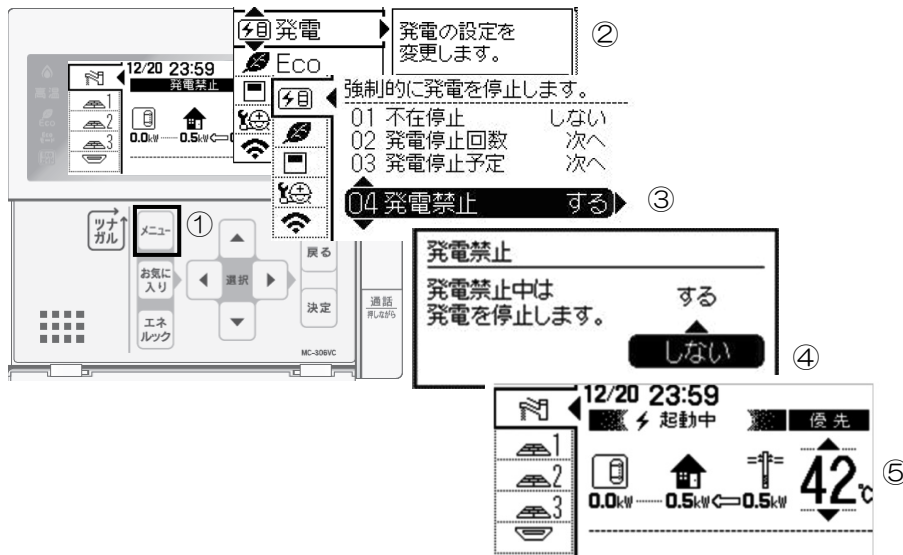
- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

# 発電をする

※ 停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作完了後に起動します。  
起動には約4～5時間かかります。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります。）

## ■ 発電禁止を解除し発電をする（発電禁止（46ページ）で停止させた場合）

- ①「メニュー」ボタンを押します。
  - ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
  - ③▲または▼で[発電禁止]を選択し▶または「決定」を押します。
  - ④▼を押し、「しない」を選択して「決定」を押します。
  - ⑤トップ画面の発電状況表示部が[起動中]に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。
- ※ 発電ユニットが停止動作完了後でなかった場合は、表示は[停止中]と表示します。この場合は停止動作完了後に[起動中]に切り替わります。

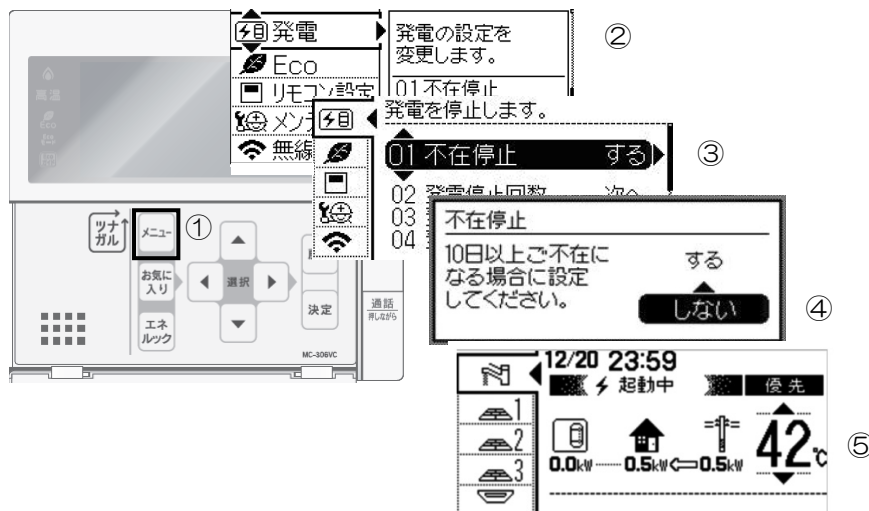


## ■ 不在停止を解除し発電をする（不在停止（47ページ）で停止させた場合）

リモコンの「入/切」スイッチの「入」操作をする。

※ 以下の方法でも発電を再開できます。

- 不在停止設定後5時間以上経過している場合は、リモコンのボタン（全てのボタンに対応）を押します。（3分後に発電ユニットが起動をはじめます。）
  - 熱源機による暖房を行う。
  - 不在停止設定後5時間未満の場合は、メニューボタンから再開操作をする。
- ①「メニュー」ボタンを押します。
  - ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
  - ③▲または▼で[不在停止]を選択し▶または「決定」を押します。
  - ④▼を押し、「しない」を選択して「決定」を押します。
  - ⑤トップ画面の発電状況表示部が[起動中] となって点滅し、発電ユニットが起動をはじめます。

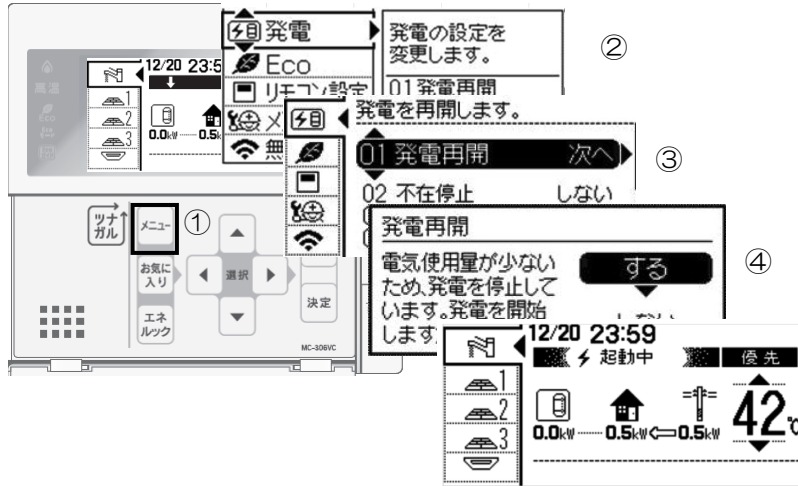


# 発電をする

## ■ 発電の再開をする

(「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(43ページ)で停止している場合)

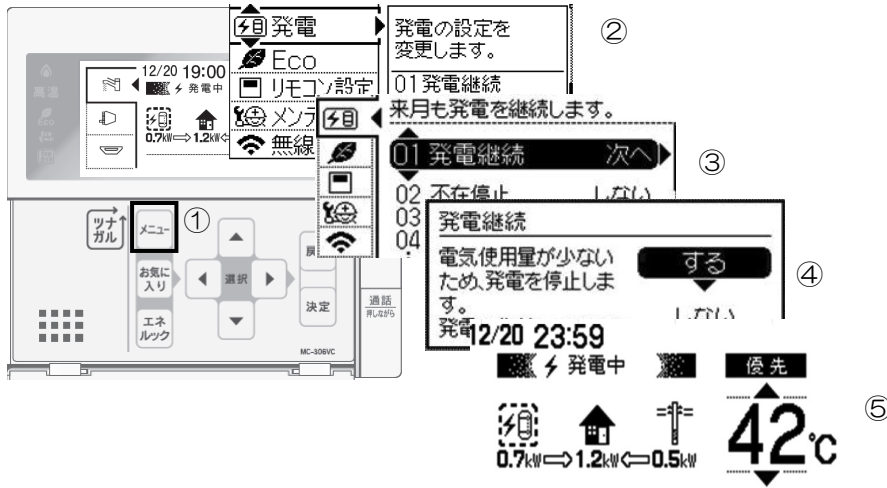
- ①「メニュー」ボタンを押します。
- ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③▲または▼で[発電再開]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④▲を押し、「する」を選択して「決定」を押します。
- ⑤トップ画面の発電状況表示部が[起動中]に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。



## ■ 翌日も発電を継続する

(「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(43ページ)のメッセージ表示している場合)

- ①「メニュー」ボタンを押します。
- ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③▲または▼で[発電継続]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④▲を押し、「する」を選択して「決定」を押します。
- ⑤トップ画面に移行し、メッセージ表示が消え翌日も発電を継続します。



# 発電を止める

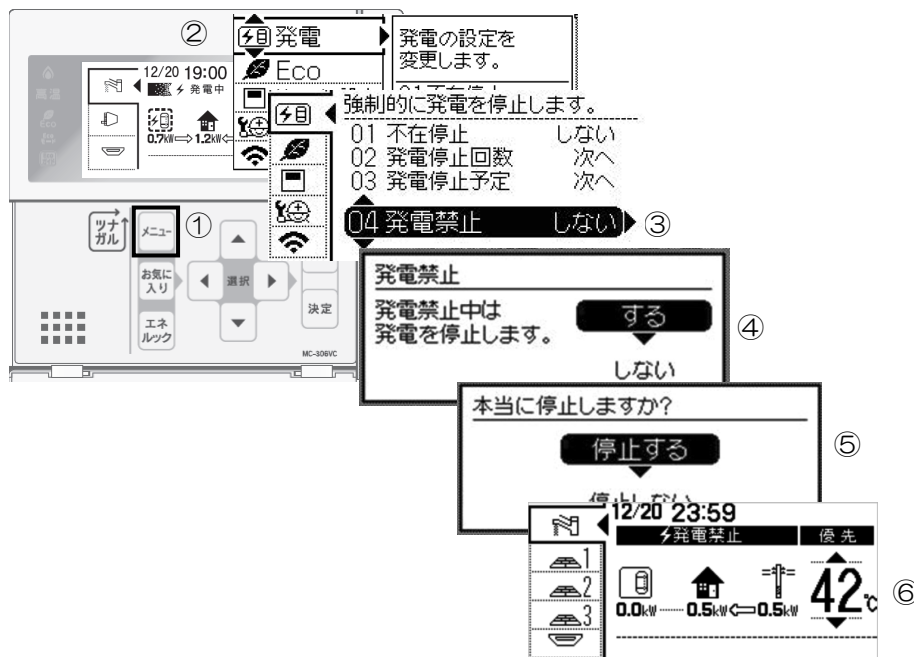
機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）。

停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※ お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

## ■ 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）します

- ①「メニュー」ボタンを押します。
- ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③▲または▼で[発電禁止]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④▲を押し、「する」を選択して「決定」を押します。
- ⑤▲を押し、「停止する」を選択して「決定」を押します。
- ⑥リモコントップ画面に[発電禁止]と表示され、約3～5時間後に発電停止表示は消灯します。



# 発電を止める

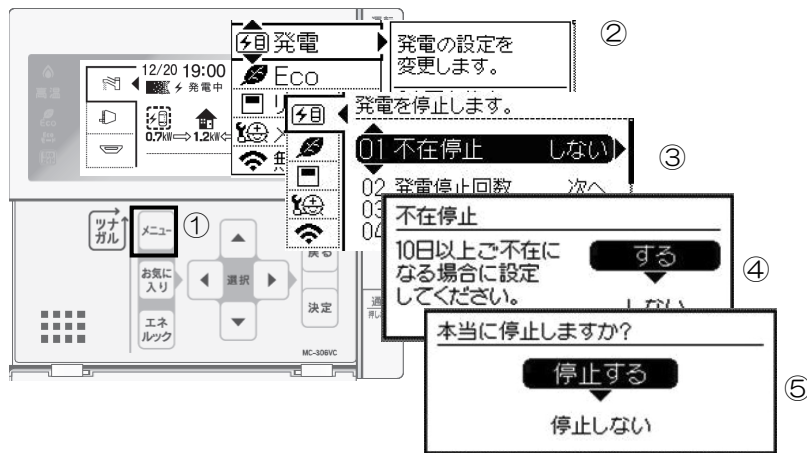
## ■ 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいとき（不在停止）

※ 1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※ 10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※ 給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- ① 「メニュー」ボタンを押します。
- ② ▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③ ▲または▼で[不在停止]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④ ▲を押し、「する」を選択して「決定」を押します。
- ⑤ ▲を押し、「停止する」を選択して「決定」を押します
- ⑥ 液晶画面が消え、「運転入/切」スイッチのランプが消灯します。



※ 不在停止設定を[する]にした後、リモコンの「入/切」スイッチの「入」操作、または5時間経過後は、リモコンの操作ボタン（全てのボタンに対応）を押すと、不在停止が解除されます。

※ 不在停止設定を[する]にした後、お風呂、または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## 停電時自立発電機能の概要

### ■ 発電ユニットが発電中に停電した場合は、停電時自立発電機能により発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

### ■ 停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです

※ 熱源機で使用する電気の量も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。

### ■ 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

### ■ 台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

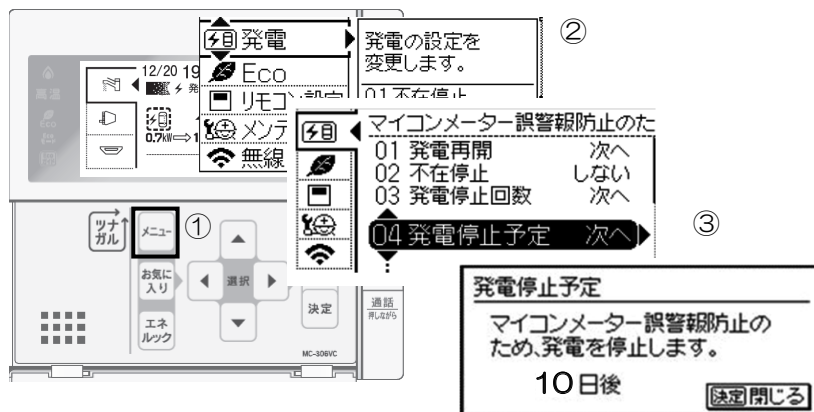
※ 2世帯設定で使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。

(詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」(42ページ)をご参照ください。) 停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

(1) リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、(2)以降の操作は必要ありません。

・「メニュー」[発電]を選択して[発電停止予定]を選択して日数を確認してください。



(2) 停電予想期間中に次回発電停止予定日がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作(46ページ参照)により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了(発電状況表示部の\*が交互表示され、約3～5時間後\*は消灯します。(発電状況表示については41ページを参照してください。))後、連続で24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分以上停止させてください。

(3) 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が26日後になっていることを確認し、遅くとも停電予想の5時間前までには「発電禁止から発電をする」(44ページ参照)の操作を実施してください。

## ■ お知らせ

- ◆ 停電時自立発電中は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- ◆ 以下の場合、使用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
  - ・ 断水状態(ご家庭への給水が停止している状態)時
    - ※ 断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82FO1]等を表示し、運転を停止する場合があります。
  - ・ 停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合
  - ・ 発電ユニットの蓄熱量が多い場合

# 停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

## 主な電気製品の消費電力

「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照願います。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話（充電時）	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ（42型）	85	冷蔵庫 ※1	200
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
熱源機の給湯運転	100		

※1 機種によっては使用できないことがあります。

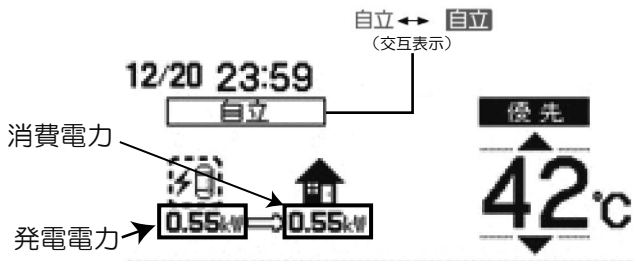
# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## 停電発生時の対応

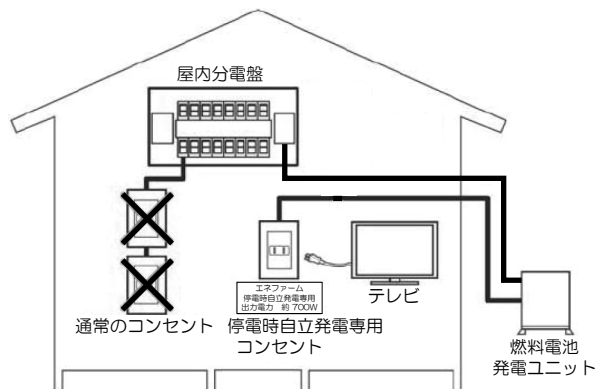
※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

① [自立]の文字部が反転点滅表示され、発電電力が表示されていることを確認する

- ・ 停電してから約90秒後に、自動的にリモコンの液晶画面が表示されます。
- ・ 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定（52ページ参照）に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- ・ お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。（最大約10分間）



② 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



- ・ 停電時は停電時自立発電専用コンセントしか使うことができません。
- ・ リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- ・ 消費電力が発電電力を上回る場合（過負荷）は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約90秒～10分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- ・ 過負荷2回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- ・ 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

③ 浴槽の排水栓を抜く

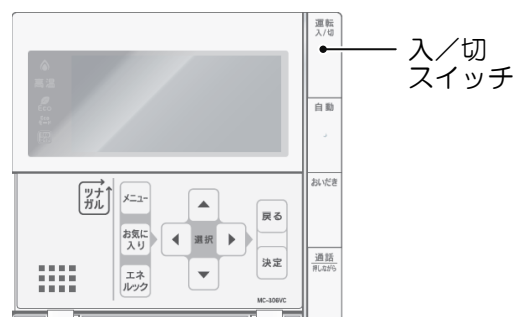


## 過負荷2回目以降の復帰操作

① リモコンのメッセージを確認する



② 「入/切」スイッチを入にする。



# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

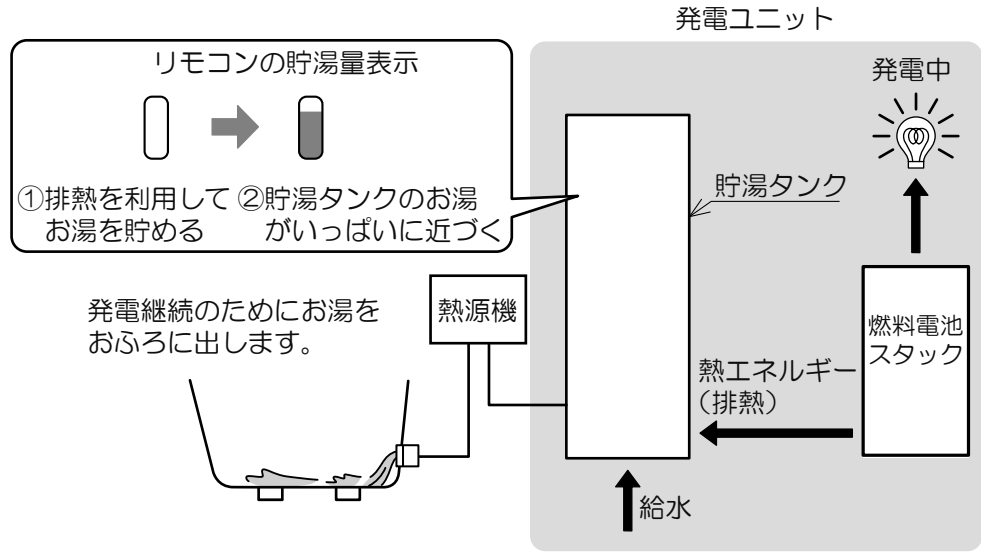
## お願い

停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は浴槽の栓をしてください。) 停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

### ■自動排湯について

停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能\*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。  
\* 排湯機能とは・・・貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

貯湯量表示がいっぱいに近づく、リモコンから「発電継続のためにお風呂にお湯を出します」表示と音声でお知らせし、お風呂にお湯を約20リットル出します。  
※状況により複数回お湯を出す場合があります。



12/20 23:59

自立 ▶ 出力切替

優先

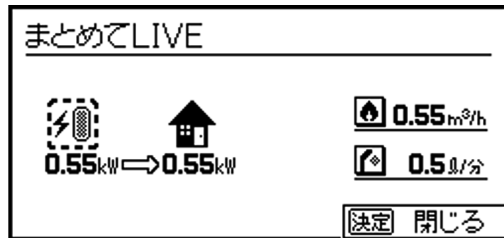
0.55kW ↔ 0.55kW

42°C

- ・排湯アナウンス  
リモコンから表示と音声でお知らせします。

発電継続のためにお湯を風呂に出します。

排湯メッセージ

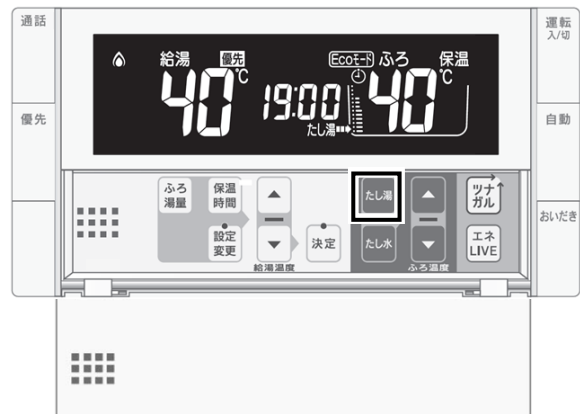


- ・貯湯量は、リモコンより「エネルギーック」ボタン→「まとめてLIVE」を選択し、左画面(一例)で確認ください。

### ■お知らせ

- ・お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- ・停電時自立発電時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

①浴室リモコンの[たし湯]ボタンを押す。



# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

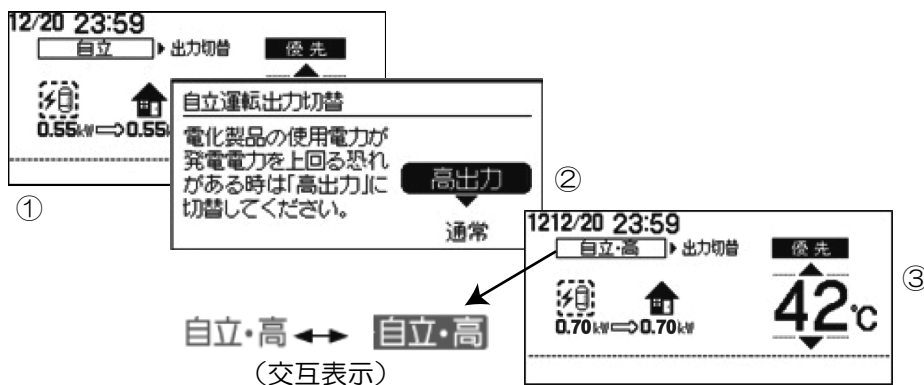
## 発電出力を上げる場合

### ■高出力設定にする場合

停電時自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電出力を700Wよりも下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電気製品を使用されるときは下記の手順で高出力設定に切り替えてください。

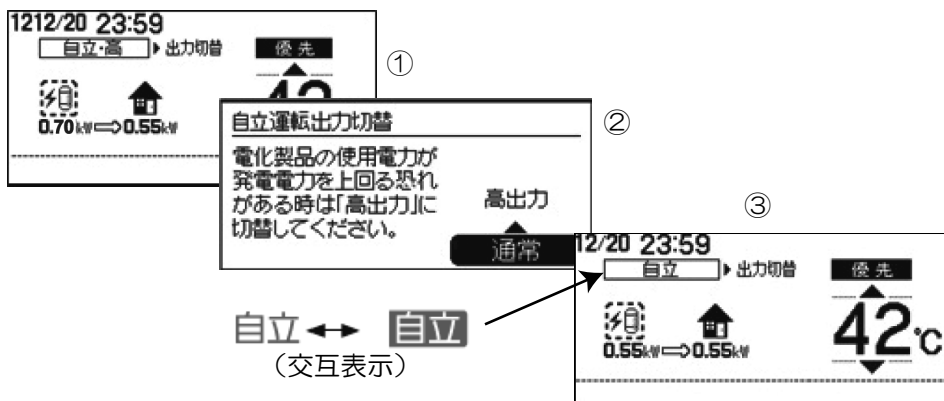
※ 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は▶を押します。  
([出力切替]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)
- ② 自立運転出力切替画面で▲を押し[高出力]を選択して「決定」を押します。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



### ■高出力設定を通常に戻す場合

- ① トップ画面より、▶を押します。
- ② 自立運転出力切替画面で▼を押し[通常]を選択して「決定」を押します。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立]に変わります。



※ 通常モードに戻し忘れた場合は消費電力低下から約5分後に自動的に通常モードに戻ります。  
その場合は右画面が表示されます。

高出力モードが解除されました。  
通常出力モードに切り替わります。

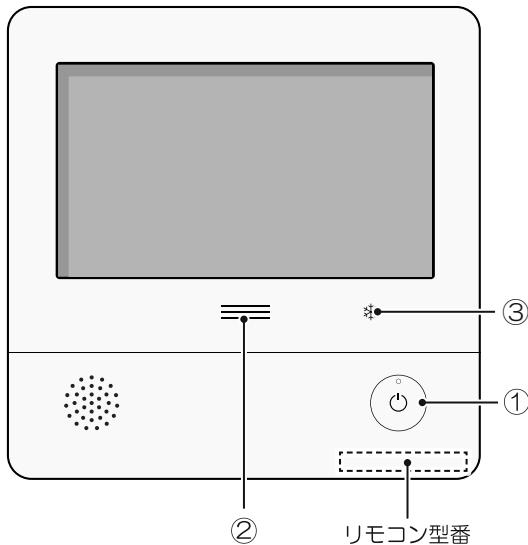
# 停電時にお湯を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

- ① リモコンのトップ画面で、左上部の文字が[自立]表示の反転点滅表示になっていることを確認してください。
- ② リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認してください。  
発電に余力がない場合は、高出力設定(上記参照)にする、または他の電気製品を止めてください。
- ③ 給湯栓を開けてください。  
熱源機からのお湯を使用することができます。

# 画面説明

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について説明いたします。  
その他のリモコンの詳細機能については発電リモコンの取扱説明書を参照してください。

## ■各部のなまえとはたらき（発電リモコン）



- ① 「ON/OFF」スイッチ・ランプ
- 画面を表示させたり消したりするときに使用します。
  - 画面を表示するとランプ点灯します。
  - 不在停止中はランプ点滅します。

- ② 発電ランプ
- 発電ユニットで発電中に点灯します。
  - 現在の使用電力の状態を、色で表します。

使用電力が多い

↑	オレンジ色 (節電お知らせ)	購入電力が増えています 節電してください。
0.7kW	青色	使用電力が少し増えて います。
↓	緑色	発電ユニットの発電内で 上手に使用されています。
少ない		

- 逆潮流の場合は、買電中か売電中かを表示します。

オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より多いので 買電しています。
青色	使用電力が発電電力より少ないので 売電しています。

- ③ 凍結予防運転中マーク
- 凍結予防のために発電ユニットのヒーターが作動しているときに点灯します。

## ■表示画面（タッチパネル）の操作の基本

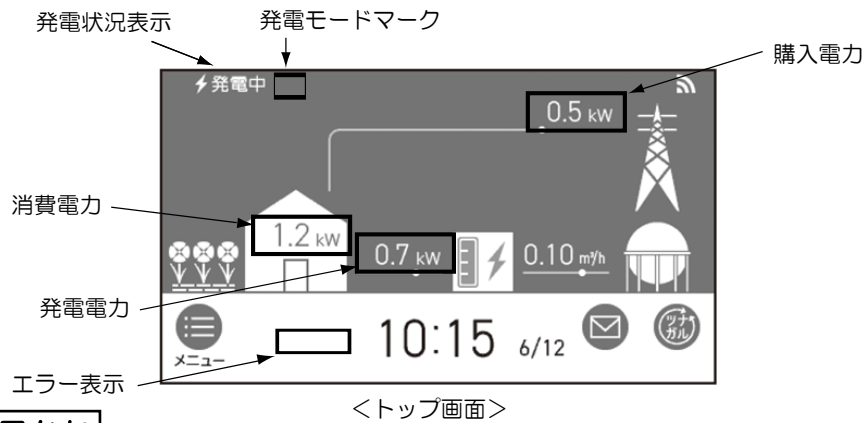
- このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- 圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度力で確実にタッチしてください。
- 「ON/OFF」スイッチや画面を押さないまま約10分（初期設定時間）経つと表示が消えます。

表示がグレーになっている部分は、タッチしてもスイッチ操作できません。



※説明中のリモコン表示画面は一例です。  
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

# 画面説明



<トップ画面>

## ■ 発電状況表示の見かた

現在の発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中	
⚡ (点灯)	発電しています。
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です。
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です。
↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。 <sup>※1</sup>
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。 <sup>※1</sup>
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

※1：電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています。	
起動中	起動中(発電準備中)です。	
停止中	発電停止の動作中です。	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。	
発電禁止	発電を強制的に禁止しています。	
発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します。	
出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています	
不在停止	発電を停止しています	
逆潮流の場合	電圧抑制 <sup>※2</sup>	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
の自立運転機能付の場合	⚡ 自立 ↔ ⚡ 自立 (交互表示)	停電時自立発電しています。
	⚡ 自立・高 ↔ ⚡ 自立・高 (交互表示)	高出力設定(63ページ)で停電時自立発電しています。

※2：自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

(発電リモコン) 発電

## ■ 発電モードマークの見かた

↻	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
M	ガスマイコンメーター 確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>この表示が出ている間(約4~9時間)は、ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、発電ユニットは停止しています。</li> <li>この表示が出た場合、午前2時から午前7時までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分間以上ご使用を停止してください。</li> </ul> ※連続で70分間以上停止しただけなかった場合は、ガスマイコンメーターがガス漏れと誤警報(ガスマイコンメーター本体のランプが点滅)する場合があります。
H	ヒーター給湯モード マーク	点滅はヒーターにてタンク内を昇温していることを表しています。 点灯は炊き上げが完了していることを表しています。

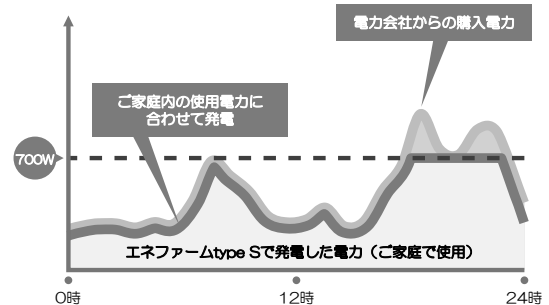
# 発電について

- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約4～5時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約3～5時間かかります。（いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します。）
- 発電ユニットは、27日サイクルで24時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の2パターンあります。

## ■ 1日の運転イメージ例（実際の運転はご家庭ごとに異なります）

### ● 逆潮流なし運転

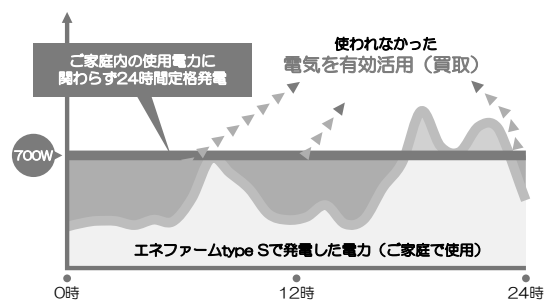
家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。



### ● 逆潮流あり運転

家庭の電力需要に関係なく、定格出力（最大約700W）で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

※ 逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります）



## ■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約4～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。（発電ユニットは自動で運転を再開します。）

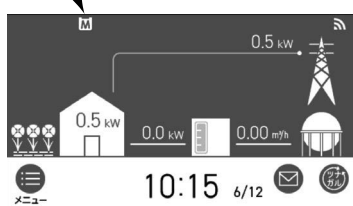
ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※ 停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。（2世帯設定でご使用されているお客さまは除く）

Mマーク



# 発電について

## 発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

### ■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンの操作または、給湯栓からお湯（水）が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

### ■ 機器保護運転停止をしているとき

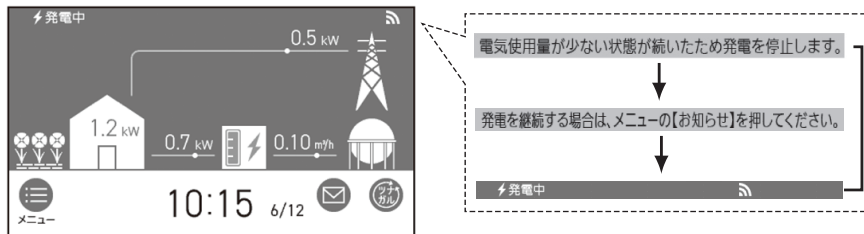
夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

### ■ 故障診断をしているとき

リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

### ■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

- 毎月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのお知らせ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください」のメッセージが24時間表示され、翌月（1か月間）は自動停止します。



- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」（58ページ参照）を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」（58ページ参照）を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

## 発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

### ■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に[出力抑制]を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間0Wに下げる場合があります。
- 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に[電圧抑制]を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

### ■ 経年劣化したとき

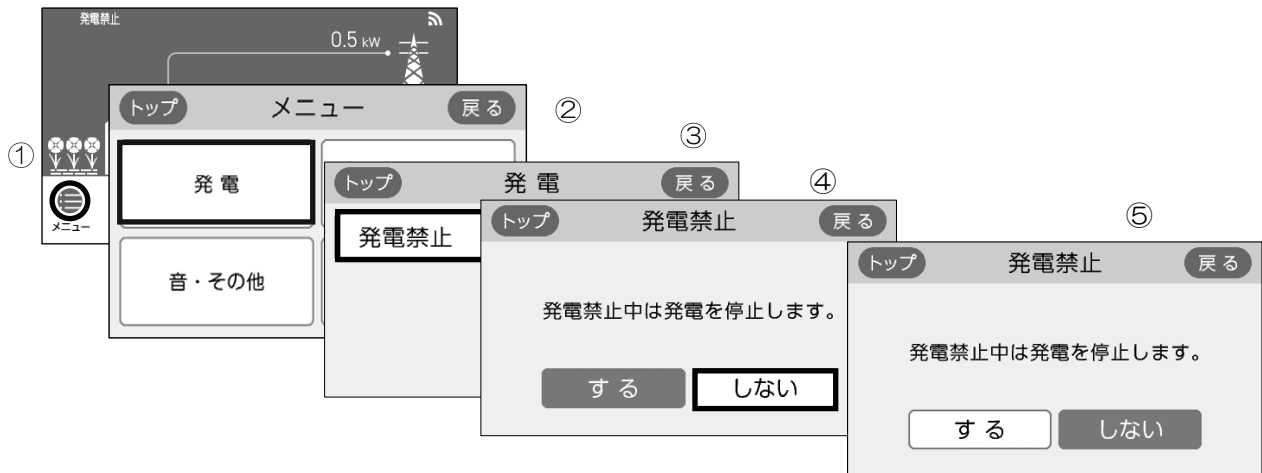
- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

# 発電をする

※ 停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作完了後に起動します。  
起動には約4~5時間かかります。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります。）

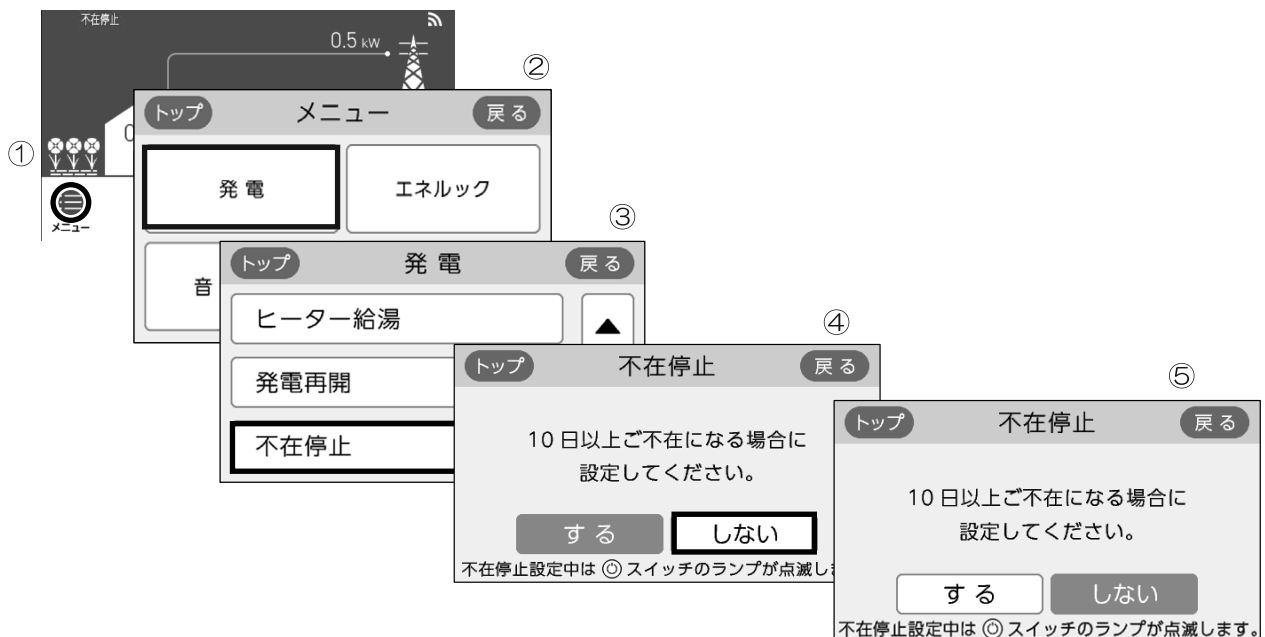
## ■ 発電禁止を解除し発電をする（発電禁止（59ページ）で停止させた場合）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電禁止]をタッチします。
- ④ 発電禁止画面より [しない] をタッチします。
- ⑤ 発電禁止画面が[しない]に変わります。  
※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください。



## ■ 不在停止を解除し発電をする（不在停止（59ページ）で停止させた場合）

- 不在停止設定後5時間以上経過している場合  
リモコンの液晶画面をタッチ、またはリモコンの「ON/OFF」スイッチをONします。
- 不在停止設定後5時間未満の場合  
メニュー画面から再開操作をします。
  - ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
  - ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
  - ③ 発電画面より[不在停止]をタッチします。
  - ④ 不在停止画面より [しない] をタッチします。
  - ⑤ 不在停止画面が[しない]に変わります。  
※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください。

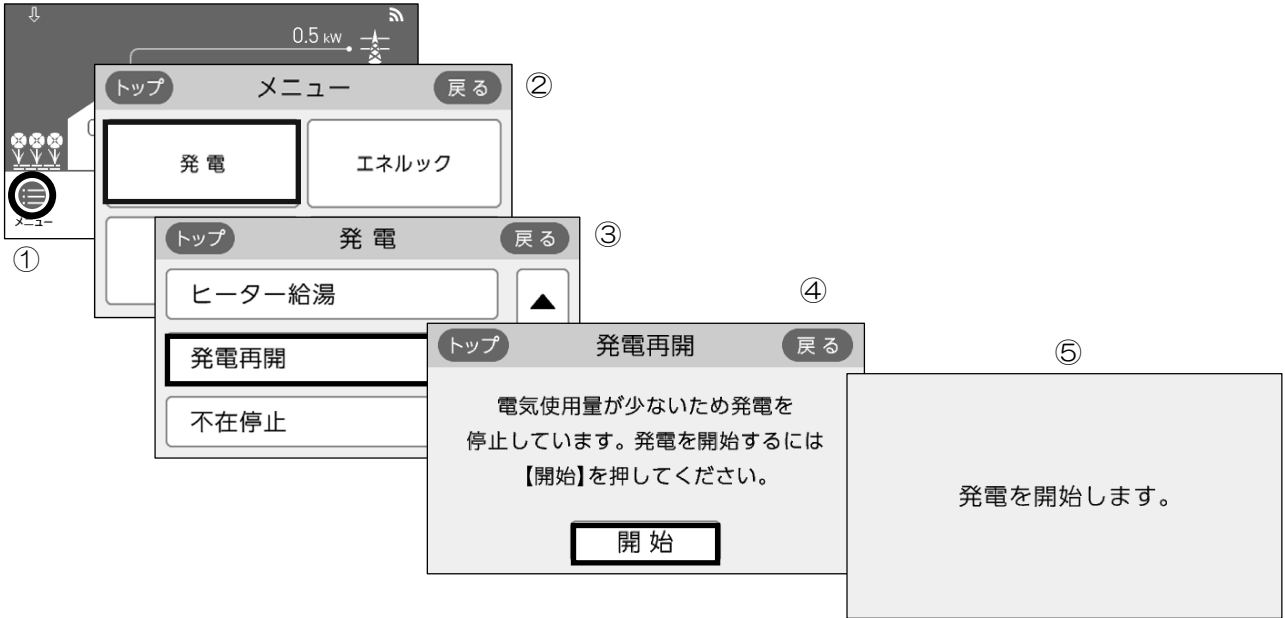


# 発電をする

## ■ 発電の再開をする

(「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(56ページ)で停止している場合)

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電再開]をタッチします。
- ④ 発電再開画面より[開始]をタッチします。
- ⑤ 「発電を開始します」と画面に表示され、発電ユニットが起動をはじめます。

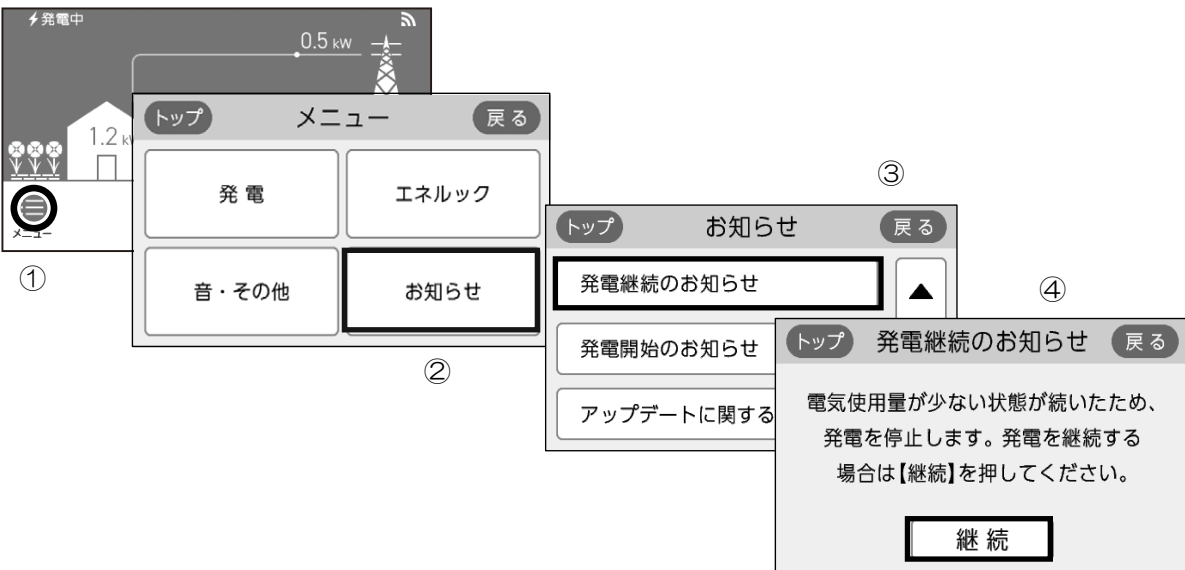


発電  
リモコン

## ■ 翌日も発電を継続する

(「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(56ページ)メッセージ表示している場合)

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[お知らせ]をタッチします。
- ③ お知らせ画面より[発電継続のお知らせ]をタッチします。
- ④ 発電継続のお知らせ画面より[継続]をタッチします。画面は③に戻り翌日も発電が継続されます。



# 発電を止める

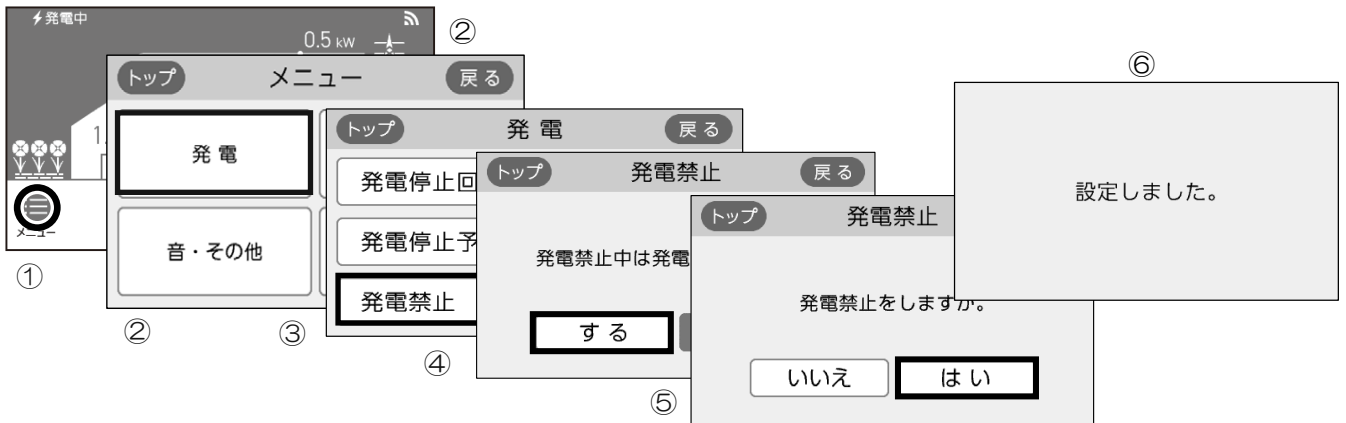
機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）。

停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

## ■機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電禁止]をタッチします。
- ④ 発電禁止画面より[する]をタッチします。
- ⑤ 発電禁止画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ [設定しました。]と表示後④の画面に戻り、約3～5時間後に発電停止表示は消灯します。



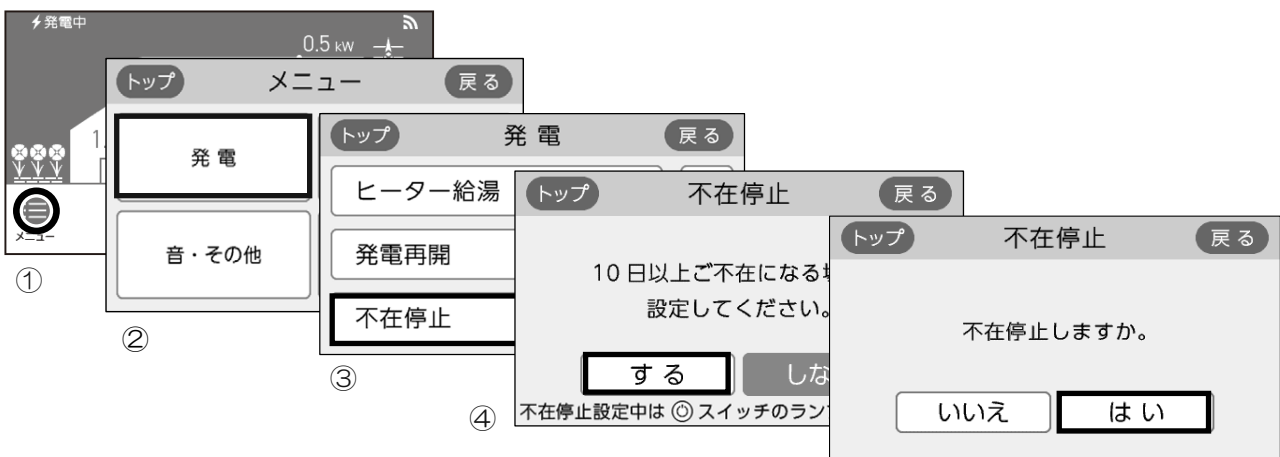
## ■10日以上家をあけるなど、発電・給湯をしばらく停止したいとき（不在停止）

※1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（71ページを参照）を実施してください。

※10日以上リモコンの操作または、給湯栓からお湯（水）の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※給湯の停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[不在停止]をタッチします。
- ④ 不在停止画面より[する]をタッチします。
- ⑤ 不在停止画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが点滅します。



※不在停止設定を[する]にした後5時間経過後は、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、またはリモコンの液晶画面のタッチ、お湯（水）の使用で不在停止が解除されます。

# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

## 停電時自立発電機能の概要

### ■ 発電ユニットが発電中に停電した場合は、停電時自立発電機能により発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

### ■ 停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです

### ■ 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

### ■ 台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

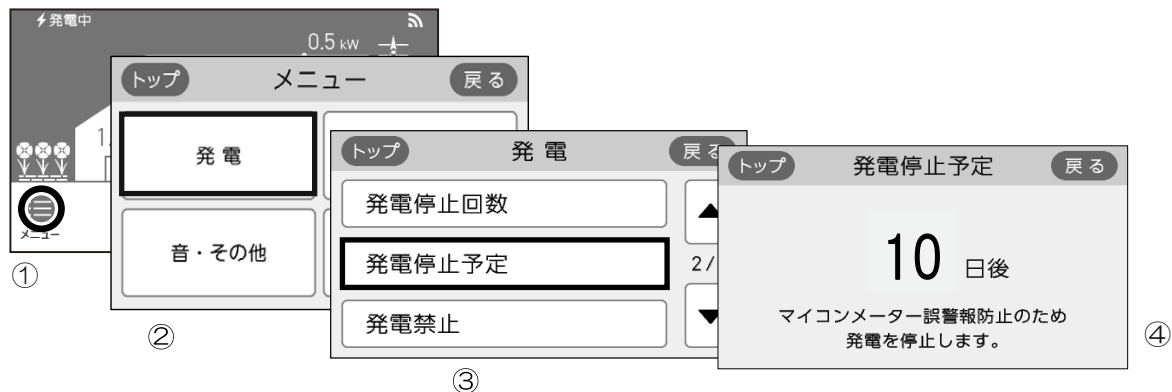
※ 2世帯設定でご使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。

(詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」(55ページ)をご参照ください。) 停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

(1) リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、(2)以降の操作は必要ありません。

・ トップ画面より[メニュー][発電][発電停止予定]を押して日数を確認してください。



(2) 停電予想期間中に次回発電停止予定日がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作(59ページ参照)により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了(発電状況表示部のが交互表示され、約3～5時間後がは消灯します。(発電状況表示については54ページを参照してください。))後、連続で24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分以上停止させてください。

(3) 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が26日後になっていることを確認し、遅くとも停電予想の5時間前までには「発電禁止を解除し発電をする」(57ページ参照)の操作を実施してください。

## ■ お知らせ

◆ 停電時自立発電中は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。

◆ 以下の場合、利用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。

・ 断水状態(ご家庭への給水が停止している状態)時

※ 断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82F01]等を表示し、運転を停止する場合があります。

・ 停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合

・ 発電ユニットの蓄熱量が多い場合

◆ 停電した場合、熱源機の電源が入っていない状態であっても給湯栓を開けた際に、約20～30℃の温水が出る場合があります。

◆ 外気温が高く発電ユニット内水温が高い場合は、停電時自立発電を停止する場合があります。

※ 停止防止のために貯湯タンクのお湯を利用ください。

# 停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

## 主な電気製品の消費電力

「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照願います。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話（充電時）	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ（42型）	85	冷蔵庫 ※1	200
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
熱源機の給湯運転	100		

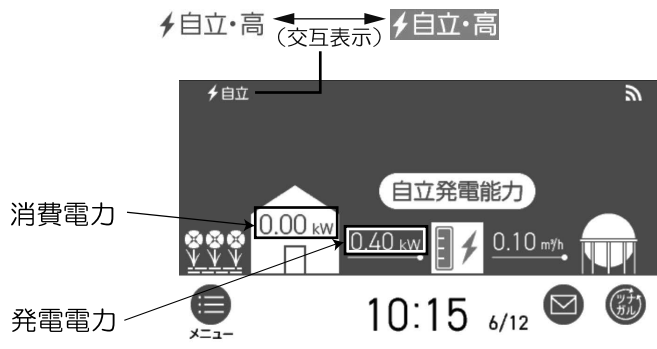
※1 機種によっては使用できないことがあります。

# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

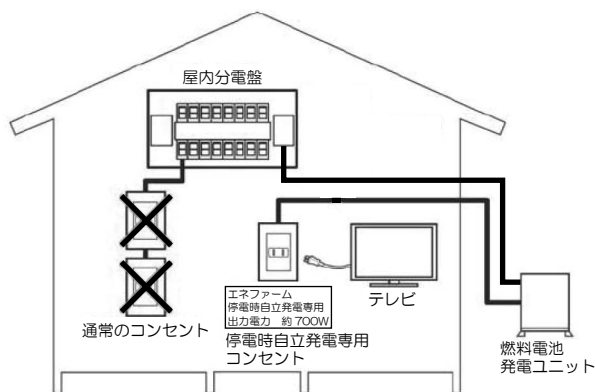
## 停電発生時の対応

※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

- ① [自立]の文字部が反転点滅表示され、発電電力が表示されていることを確認する。
  - 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定 (63ページ参照) に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
  - お客様の電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。(最大約10分間)

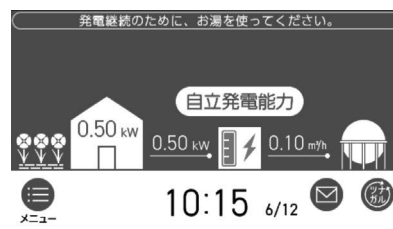


- ② 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



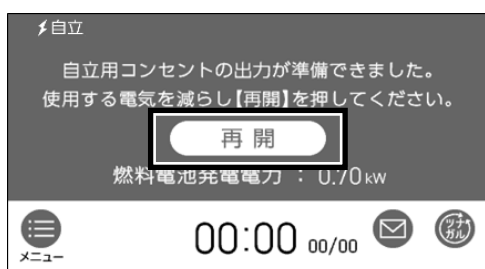
- 停電時は停電時自立発電専用コンセントしか使うことができません。
- リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が発電電力を上回る場合 (過負荷) は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約90秒~10分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- 過負荷2回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

※ 停電時自立発電中に、リモコンに[発電継続のために、お湯を使ってください。]のメッセージが表示された場合は、停電時自立発電を継続させるために、貯湯タンクがお湯でいっぱいにならないよう、給湯栓を開けてお湯を使用してください。



## 過負荷2回目以降の復帰操作

- ① 下記画面が表示されたら[再開]をタッチします。



発電  
リモコン

# 停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

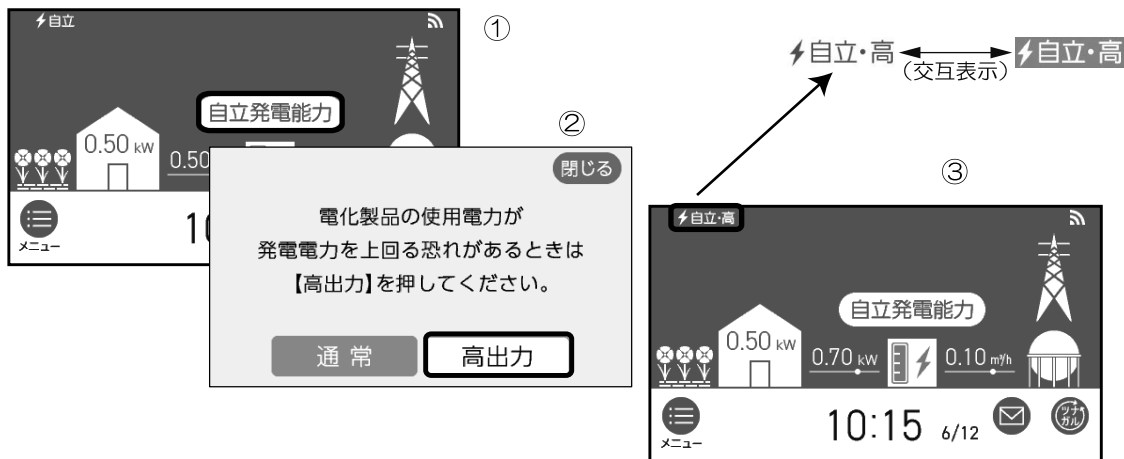
## 発電出力を上げる場合

### ■高出力設定にする場合

停電時自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電を700Wよりも下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電気製品を使用されるときは下記の手順で高出力設定に切り替えてください。

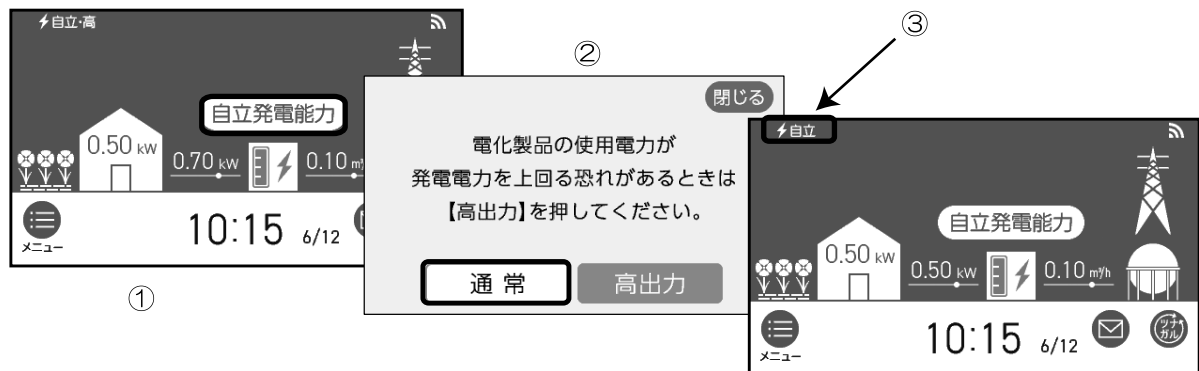
※ 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[自立発電能力]をタッチします。  
([自立発電能力]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)
- ② 自立発電能力画面で [高出力] をタッチします。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立・高] に変わります。



### ■高出力設定を通常に戻す場合

- ① トップ画面より、[自立発電能力]をタッチします。
- ② 自立発電能力画面で [通常] をタッチします。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立] に変わります。



※ 通常モードに戻し忘れた場合は消費電力低下から約5分後に自動的に通常モードに戻ります。

# 停電時にお湯を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

停電時に、停電時自立発電専用コンセントからの電力を使用して、熱源機からのお湯を使用することができます。

- ① リモコンのトップ画面で、左上部の文字が[自立]表示の反転点滅表示になっていることを確認します。
- ② リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認します。  
発電に余力がない場合は、高出力設定(上記参照)にする、または他の電気製品を止めてください。
- ③ 停電時自立発電専用コンセントに熱源機の電源プラグを差し込みます。

以降は、通常の熱源機使用方法でお使いください。

※ 停電の復旧後は、停電時自立発電専用コンセントに差ししてある熱源機の電源プラグは、元のコンセントに移動してください。

# こんなときは

## 停電のときは

### ■ 発電中に停電した場合（停電時自立発電機能付きのお客さまの場合）

停電時自立発電機能により発電を継続します。

発電した電気は停電時自立発電専用コンセントより出力します。（停電してから約90秒後に出力開始します。）（24、37、50、62ページ参照してください。）

#### ● 停電が復旧した場合

停電が復旧してから約5分後に、自動的に通常運転に切り替わります。

※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに停電時自立発電専用コンセントへの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

### ■ 発電中に停電した場合（標準モデルのお客さまの場合）

停電中は、アイドルリング状態になり、復旧待機しています（最長5時間）。ガス、水は閉めないでください。

※ お客さまの発電ユニットの運転状態によっては停電中に運転が停止する場合があります。

※ アイドリング状態とは、運転をしていますが発電電力を出力していない（OW）状態のことです。

#### ● 停電が復旧した場合

停電が復旧してから約5分後に、自動的に通常運転に切り替わります。

### ■ 待機中・起動中・停止中およびアイドルリング中に停電した場合

起動中、停止中、およびアイドルリングが5時間経過後の場合は即時停止し、停電中は起動しません。

#### ● 停電が復旧した場合

（起動中およびアイドルリング中に停止した場合、停止中の場合）

リモコンの日時設定（詳細はリモコンの取扱説明書を参照）をしてください。停電時間が24時間を越えていない場合は、自動的に再起動します（発電禁止による停止中は自動再起動はしません）、停電時間が24時間を越えている場合は、暗証番号を入力（詳細はリモコンの取扱説明書を参照）後再起動します。ただし内部温度が高い場合は冷却（約10～12時間）後の自動再起動となります。

※ 暗証番号とは機器を設置業者からお客さまに引き渡しする際、お客さまに登録していただいた番号です。

## 断水のときは

### ■ 発電中に断水した場合

断水状態から復帰するまでお湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82F01]等を表示し、運転を停止する場合があります。運転が停止した場合は、エラー発生時の処置方法を参照してください。

## 長期間使用しないときは

### ■ 旅行等のため、10日以上留守にされるとき

リモコンで「不在停止」にし、発電ユニットを停止させてください。

（手順は21、34、47、59ページ参照）

※ 発電ユニットのブレーカーは「ON」のままにしておいてください。

### ■ 1か月以上不在にされる場合

リモコンで「発電禁止」にし、発電ユニットを停止させた後、発電ユニットの水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※ 水抜き後の使用再開時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

### ■ 1か月未満でも電源が確保できないことに加えて凍結のおそれがある場合（気温が氷点下になる可能性がある場合）

リモコンで「発電禁止」にし、発電ユニットを停止させた後、発電ユニットの水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※ 水抜き後の使用再開時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

# こんなときは

## 気温が-10℃を下回るときは

### ■凍結が予想される場合

発電を停止しているときに気温が-10℃を下回ると、凍結防止機能が作動していても凍結が発生する可能性があります。気温が-10℃を下回ることが予想される場合は、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、水抜き手順（71ページ参照）を実施してください。

-10℃を下回ったときの凍結による機器の破損は製品保証の対象外となります。

## ガスの供給が途絶えたときは

### ■発電中にガスが供給されなくなった場合

燃料ガスの供給圧力が低下すると、リモコンに[AOF00]を表示し、発電が停止する場合があります。ガスマイコンメーターの遮断、ガス栓等を確認し、エラー発生時の処置方法を参照してください。

## ガスの供給が途絶えたときに温水を使いたいときは（ヒーター給湯モード）

ヒーター給湯モードを実施すると、発電ユニット内部の電気ヒーターを用いて貯湯タンクの水を昇温し、最高40℃の温水を使用することが出来ます。ただし、水温が低い場合等、環境条件によっては40℃に達しない場合があります。

### ■ヒーター給湯モードについて

- ヒーター給湯モードで温水の昇温完了するまでの目安時間、温水の温度、使用可能な目安量は下表のとおりです

季節	夏	春、秋	冬
昇温完了までの時間	約8時間	約17時間	約24時間
温水の温度	約40℃	約40℃	約33℃
使用可能な目安量	約80L	約50L	約50L

※設置環境により、上記の値と異なる場合があります。

### ●ヒーター給湯モードを使用するためには

- ・断水時は昇温は可能ですが温水の使用ができません。断水していないことを確認してください。
- ・ご使用前に放熱器排気口の目張りを実施ください（詳細は、「■放熱器排気口の目張り処理」を参照願います）。  
実施しないと温水が貯まるのに時間が掛かったり、温水が貯まらないおそれがあります。
- ・使用可能な条件が成立していないとヒーター給湯モードを選択するボタンが表示されません。発電が停止しており、発電禁止設定、給湯スイッチがOFF（リモコンの場合は切）でも表示されないときは、貯湯タンクの洗浄（77ページ参照）を実施してください。

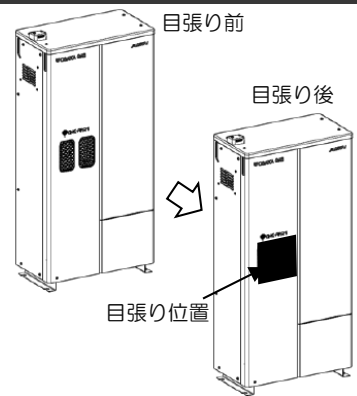
### ●その他ご注意ください

- ◆リモコンのスイッチを操作したとき
  - ・リモコンA、リモコンBの場合  
ヒーター給湯モード中にリモコンの「ON/OFF」スイッチをONにするとヒーター給湯モードが解除されます。
  - ・リモコンCの場合  
ヒーター給湯モード中はリモコンの「入/切」スイッチを受付ません。
  - ・発電リモコンの場合  
必ず熱源機の運転スイッチを「OFF」にしてください。「OFF」にしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。
  - ・ヒーター給湯モード中に停電が発生した場合、停電復旧後には通常の状態に戻りますので、温水を使用する場合は再度ヒーター給湯モードを実施ください。
  - ・昇温完了前は温水の温度が低いことがあります。
  - ・昇温完了前に温水を使用すると、昇温完了までの時間が長くなります。
  - ・温水を使用開始した後は、可能な限り間隔を空けずにご使用ください。間隔が空くと温水の温度が下がります。
  - ・温水を使い切るとヒーター給湯モードは自動解除されます。続けて温水を使いたい場合は再度ヒーター給湯モードを実施してください。
  - ・ヒーター給湯モードにて昇温完了後に温水を使用した場合、設置環境によっては温水がなくなっしてから表示が出るまでに10分以上かかる場合があります。
  - ・ガスの供給が復帰し、ヒーター給湯モードを解除した直後に温水をご使用される場合、高温の温水が出湯されるおそれがありますのでご注意ください。

# こんなときは

## ■放熱器排気口の目張り処理

- ご使用前に放熱器排気口の目張りを実施ください。実施しないと温水が貯まるのに時間が掛かったり、温水が貯まらないおそれがあります。
- ガスの供給が復旧し、通常の発電運転に戻る際は目張り（マグネットシート等）を必ずはずしてください。発電出力を抑制したり、発電を停止する場合（リモコンにエラーコード[03F07]、[95F00]を表示することがあります。）があります。
- ご使用開始時にお渡りするマグネットシートにて目張りが可能です。お手元にマグネットシートがない場合は、ご家庭の物で目張りを実施下さい。



### <ヒーター給湯モードの操作手順>

手順	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	発電禁止にする（21、33、46、59ページ参照）			
②	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、「(ON/OFF)スイッチ部のLEDランプを消します。」液晶画面部をタッチします。	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、「(ON/OFF)スイッチ部のLEDランプを消します。」液晶画面部をタッチします。	発電禁止表示を確認後リモコンの「入/切」スイッチを「切」にします。「(入/切)スイッチ部のLEDランプを消します。」	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または液晶画面部をタッチします。 ※必ず熱源機の運転スイッチを「OFF」にしてください。「OFF」にしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。
③	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 	「メニュー」ボタンを押します。 	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 
④	[発電]をタッチします。 	[発電]をタッチします。 	/	[発電]をタッチします。 
⑤	[ヒーター給湯]をタッチします。 	[ヒーター給湯モード]をタッチします。 	▲または▼で[ヒーター給湯]を選択し▶または「決定」を押します。 	[ヒーター給湯]をタッチします。 
⑥	放熱器排気口の目張りを実施してください（詳細は、「■放熱器排気口の目張り処理」を参照願います）。			
⑦	[する]をタッチします。 	[OFF]をタッチし、[ON]にします。 	▲を押し、「ON」を選択し「決定」を押します。 	[する]をタッチします。 

※1使用可能な条件が成立していないとヒーター給湯モードを選択するボタンが表示されません。  
発電が停止しており、発電禁止設定、給湯スイッチがOFF（リモコンCの場合は切）でも表示されないときは、貯湯タンクの洗浄（77ページ参照）を実施してください。

# こんなときは

手順	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
⑧	<p>放熱器排気口が目張りされていることを確認後[OK]をタッチします。</p>	<p>放熱器排気口が目張りされていることを確認後[はい]をタッチします。</p>	<p>放熱器排気口が目張りされていることを確認後「決定」を押します。</p>	<p>放熱器排気口が目張りされていることを確認後[OK]をタッチします。</p>
⑨	<p>ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。</p>	<p>ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。</p>	<p>沸きあげ中</p> <p>沸きあげ完了</p>	<p>ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。</p>

- ・温水の使用時は、手で温度を確認してから使用してください。
- ・温水を使用開始した後は間隔をあげずにご使用ください。

## ■ご使用中に以下の画面になった場合

リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
<p>お湯がなくなりました。発電ユニットの取扱説明書に従ってご対応ください。</p>	<p>取扱説明書確認</p> <p>お湯がなくなりました。発電ユニットの取扱説明書に従ってご対応ください。</p>	<p>お湯がなくなりました。発電ユニットの取扱説明書に従ってご対応ください。</p>	<p>お湯がなくなりました。発電ユニットの取扱説明書に従ってご対応ください。</p>

温水がなくなりました。続けて温水をご使用になる場合は、「ヒーター給湯モードの操作手順」の手順③から実施してください。温水をご使用にならない場合は、放熱器排気口の目張りを取り外します。

リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
<p>必ず発電ユニット取扱説明書のヒーター給湯モードの章に従ってご対応ください。</p>	<p>取扱説明書確認</p> <p>必ず発電ユニット取扱説明書のヒーター給湯モードの章に従ってご対応ください。</p>	<p>ヒーター給湯モード中のため運転「入」および発電禁止の解除は実施できません。</p>	<p>必ず発電ユニット取扱説明書のヒーター給湯モードの章に従ってご対応ください。</p>

以下の操作をするとこの画面になります。

- ・リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」にした（発電リモコンを除く）
- ・メニュー画面より発電禁止を解除した

リモコンA、リモコンB、発電リモコンの場合

ヒーター給湯モードを再開したい場合は、[OK]または[はい]をタッチ後「ヒーター給湯モードの操作手順」を手順①から実施してください。温水をご使用にならない場合は、放熱器排気口の目張りを取り外します。

リモコンCの場合

「ヒーター給湯モードを解除する手順」を実施願います。

リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
<p>ヒーター給湯モードの継続ができなくなりました。故障内容を確認してください。</p>	<p>ヒーター給湯モード継続不可</p> <p>ヒーター給湯モードの継続ができなくなりました。故障内容を確認してください。</p>	<p>ヒーター給湯モードの継続ができなくなりました。故障内容を確認してください。</p>	<p>ヒーター給湯モードの継続ができなくなりました。故障内容を確認してください。</p>

以下の場合、この画面を表示しヒーター給湯モードが自動的に解除されます。

- ・故障が発生した場合（詳細は、「エラーコード表」（85ページ）を参照願います）
- ・故障対応中の場合

・タンクリフレッシュが入った場合

・断水時にタンク排水バルブから、貯湯タンクの水を雑用水として使用した場合

リモコン表示に従い[OK]、[はい]、「決定」をタッチ後、表示されているエラーの処置を行ってください（詳細は、「エラー発生時の処置方法について」（83ページ）を参照願います）。

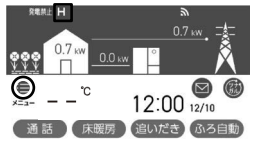





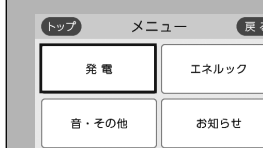
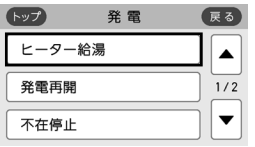

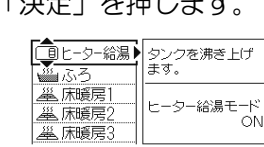
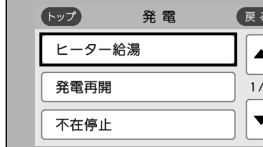
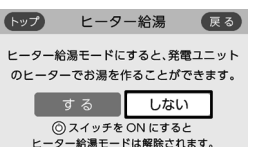
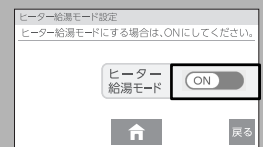
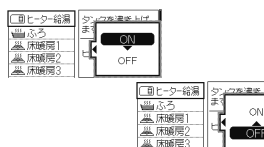
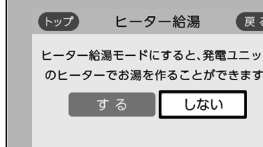
# こんなときは

## ■ヒーター給湯モードを終了する

### ●ヒーター給湯モードを解除する手順

ヒーター給湯モードの表示中にヒーター給湯モードを解除したい場合は、下記手順を実施してください。

※ ヒーター給湯モードの表示がされていないときでも、①は必ず実施願います。

	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	放熱器排気口の目張り（マグネットシート等）を取り外してください。発電出力を抑制したり、発電を停止したりする場合（リモコンにエラーコード[03F07]、[95F00]を表示することがあります。）があります。目張りの取り外しを行わなかったことが原因による対応は、有償となります。			
②	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 	「メニュー」ボタンを押します。 	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 
③	[発電]をタッチします。 	[発電]をタッチします。 	/	[発電]をタッチします。 
④	[ヒーター給湯]をタッチします。 	[ヒーター給湯モード]をタッチします。 	▲または▼で[ヒーター給湯]を選択し▶または「決定」を押します。 	[ヒーター給湯]をタッチします。 
⑤	[しない]をタッチします。 	[ON]をタッチし、[OFF]にします。 	▼を押し、「OFF」を選択し「決定」を押します。 	[しない]をタッチします。 
⑥	トップ画面に戻り、ヒーター給湯モードマークが消灯していることを確認してください。			

## ■ヒーター給湯モード終了後、発電運転を再開する

	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	放熱器排気口の目張りを取り外されていることを確認します。 ※発電出力を抑制したり、発電を停止する場合があります。目張りの取り外しを行わなかった場合の故障修理は、有償となります。			
②	メニュー画面より発電禁止を解除します（19、31、44、57ページ参照）。			

# こんなときは

## 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは

### ■停電が事前に分かっている場合（停電時自立発電機能付きのお客さまの場合）

- 事前準備  
事前準備は特にありません。  
ただし、停電予定期間中に発電をさせたい場合は、「発電停止予定日」を確認し、変更する必要がある場合は、「■台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます」（22、35、48、60ページ参照）を行ってください。
- 停電復旧後  
必要な操作は特にありません。

### ■停電が事前に分かっている場合（標準モデルのお客さまの場合）

- 事前準備  
停電する半日以上前に「発電禁止」操作（21、33、46、59ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
- 停電復旧後  
「■発電禁止を解除し発電をする」操作（19、31、44、57ページ参照）を行ってください。

### ■断水が事前に分かっている場合

- 事前準備  
事前準備は特にありません。  
※断水中にお湯を使用すると、ごく稀に発電が停止する場合がありますため、お湯は使用しないでください。
- 水道復旧後  
給水栓（レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて）を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。汚れがひどい場合は、給水接続口のストレーナを掃除（下記「■断水した場合の再使用のときは」を参照）してください。

### ■ガス停止が事前に分かっている場合

- 事前準備  
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作（21、33、46、59ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
- ガス復旧後  
「■発電禁止を解除し発電をする」（19、31、44、57ページ参照）を行ってください。

## 災害時等緊急停止のときは

### ■ガス栓を閉じて、屋内分電盤の専用ブレーカをOFFにする

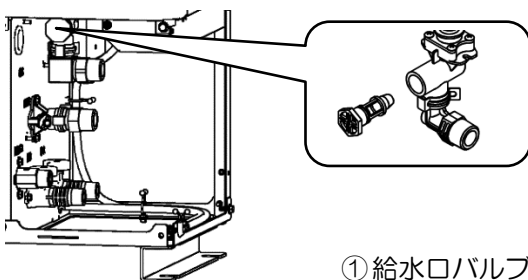
再使用時は、「ご使用前の確認」（14ページ参照）を行ってください。

### ■凍結のおそれがある場合（気温が氷点下になる可能性がある場合）は水抜きをする

「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、水抜き手順⑦～⑫（73ページ参照）を実施してください。

### ■断水した場合の再使用のときは

給水栓（レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて）を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。汚れがひどい場合は、給水接続口のストレーナを掃除してください。



※視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。

- ① 給水口バルブを閉じます。
- ② 給水接続口のストレーナをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて取り外します。
- ③ ストレーナの目詰まりを掃除し、元の場所に取り付けます。
- ④ 給水口バルブを開けます。





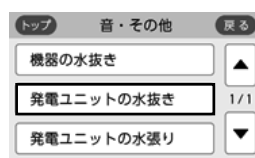
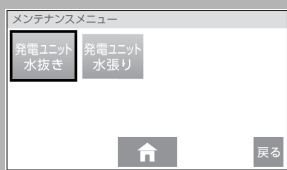
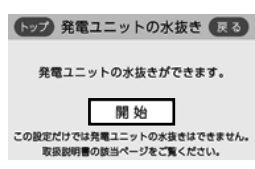
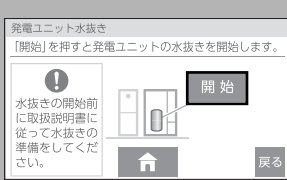
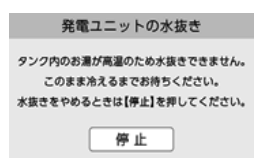
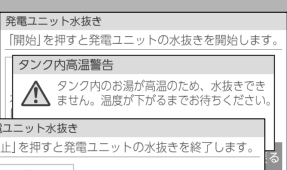


# 水抜きしたいときは

## 発電ユニットの水を抜く

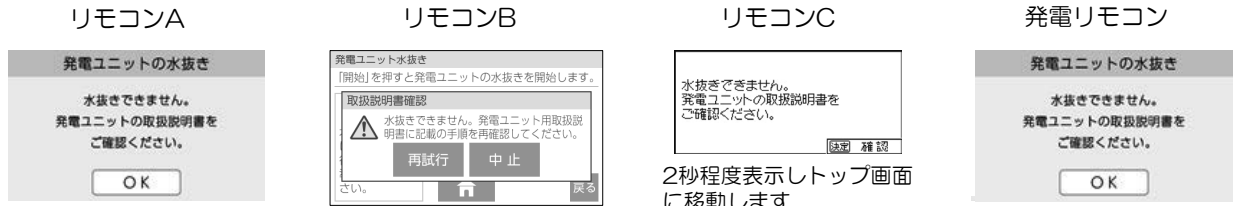
前日までに、発電ユニットを「発電禁止」による停止操作（21、33、46、59ページ参照）で停止させて、水抜きをしてください。

### ■ 水抜き手順 お持ちの台所リモコンの水抜き手順を参照してください

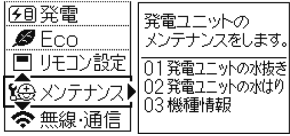
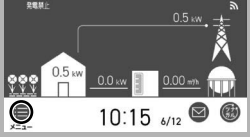
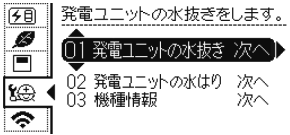
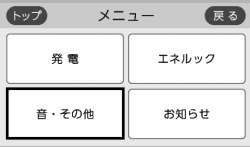
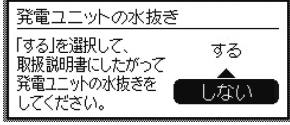
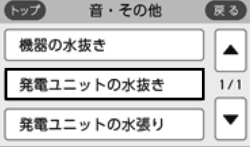
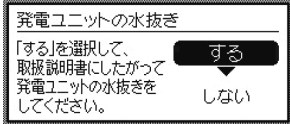
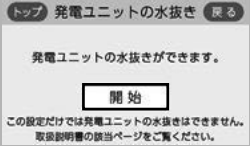
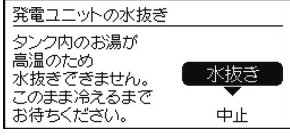
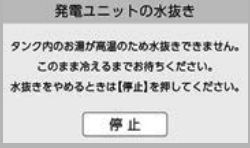
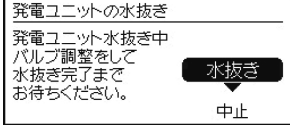
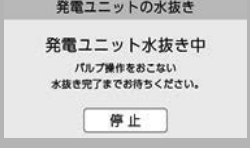
- ※安全のため、水抜き操作の前に「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照ください。
- ※やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑥）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑦～⑩）を行ってください。
- ※使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

手順	リモコンA	リモコンB
①	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチします。	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチします。
②	トップ画面より[メニュー]をタッチします。 	トップ画面より[メニュー]をタッチします。 
③	メニュー画面より[音・その他]をタッチします。 	メニュー画面より[メンテナンス]をタッチします。 
④	音・その他画面より[発電ユニットの水抜き]をタッチします。 	メンテナンス画面より[発電ユニット水抜き]をタッチします。 
⑤	[開始]をタッチします。 	[開始]をタッチします。 
⑥	タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。タンク内水温が下がると⑥に移行します。  ※[停止]をタッチすると⑤に移行します。停止させない場合は、[停止]をタッチしないでください。	タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。タンク内水温が下がると⑥に移行します。  ※[中止]をタッチすると⑤に移行します。停止させない場合は、[中止]をタッチしないでください。
⑦	タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。 	タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。 

※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合は、発電ユニットが停止状態ではありません。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。



2秒程度表示しトップ画面に移動します

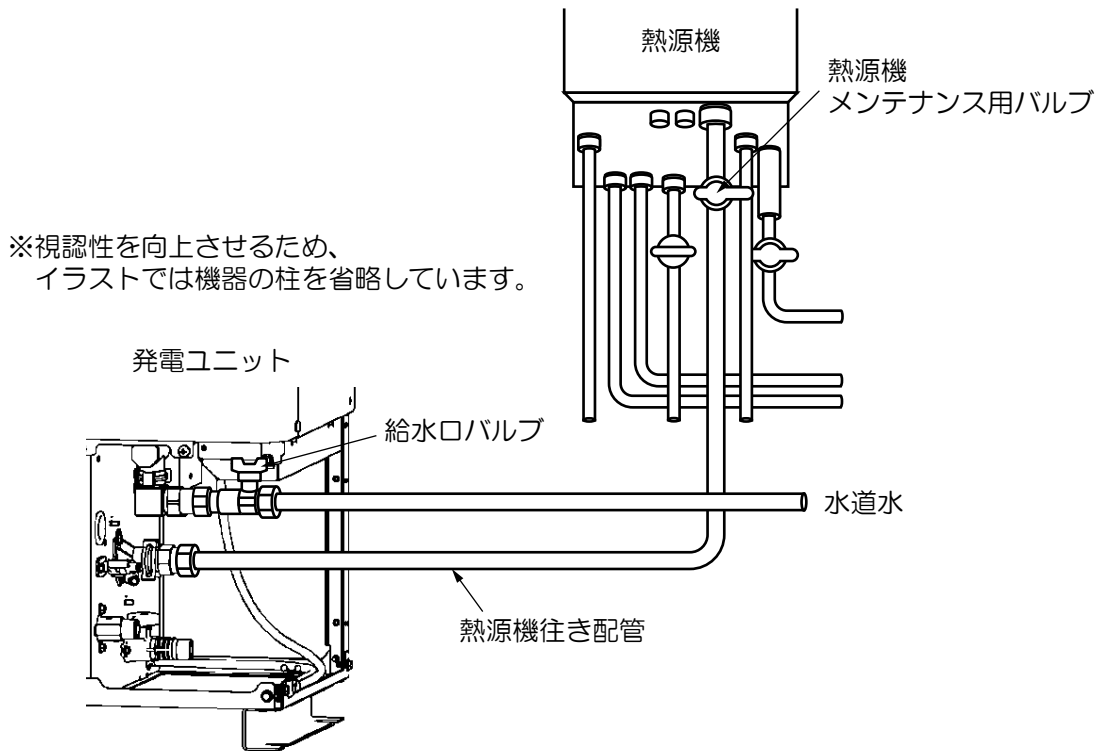
手順	リモコンC	発電リモコン
①	リモコンの「運転入/切」スイッチを「切」にし、（「運転入/切」スイッチ部のLEDランプを消す。）「メニュー」ボタンを押します。	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または液晶画面部をタッチします。
②	▲または▼で[メンテナンス]を選択し▶または「決定」を押します。 	トップ画面より[メニュー]をタッチします。 
③	▲または▼で[発電ユニットの水抜き]を選択しまたは「決定」を押します。 	メニュー画面より[音・その他]をタッチします。 
④	▲を押します。 	音・その他画面より[発電ユニットの水抜き]をタッチします。 
⑤	「決定」を押します。 	[開始]をタッチします。 
—	タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。タンク内水温が下がると⑥に移行します。   ※[中止]を選択し「決定」を押すと③に移行します。停止させない場合は、[決定]ボタンを押さないでください。	タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。タンク内水温が下がると⑥に移行します。   ※[停止]をタッチすると⑤に移行します。停止させない場合は、[停止]をタッチしないでください。
⑥	タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」(14ページ)を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。 	タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」(14ページ)を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。 

こんなときは

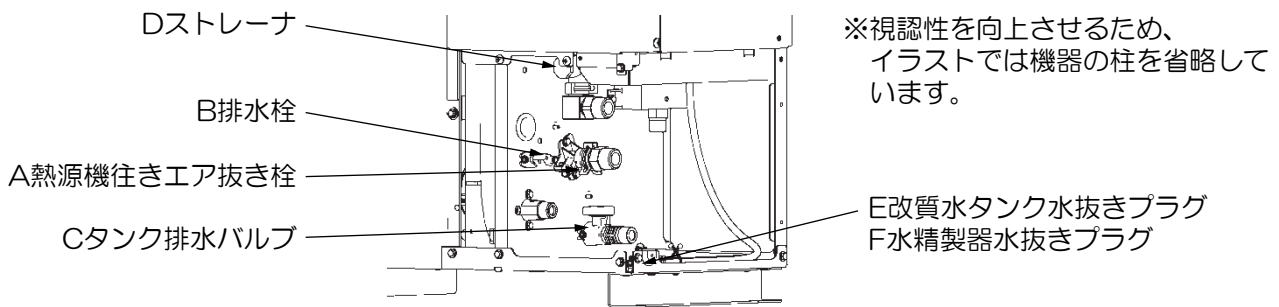
# 水抜きしたいときは

⑦下記バルブの操作をしてください。

- 給水口バルブを閉じます。
- 熱源機行き配管途中の熱源機メンテナンス用バルブを閉じます。



- Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- E改質水タンク水抜きプラグとF水精製器水抜きプラグを反時計回りに1回転させ、改質水を抜きます。(全て排水されるまで、約30分かかります。)



⑧リモコンの画面がトップ画面に移行したら、A熱源機行きエア抜き栓、B排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開けます。

※ 60分経過してもトップ画面に移行しない場合は、⑥の[停止],[中止],[決定]のいずれか(71、72ページ参照)をタッチして水抜きを停止し、C,E,Fのバルブまたは栓、プラグが開いていることを確認後、再度①より実施してください。

⑨給水接続口のDストレーナをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて外し、水抜き後にもとどおりに組み付けます。

⑩タンクの排水配管およびA熱源機行きエア抜き栓、E、Fの水抜きプラグから水が出なくなったことを確認し、E、Fの水抜きプラグを時計回りに回して締めてください。

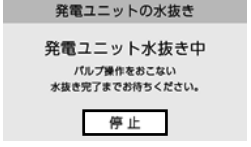

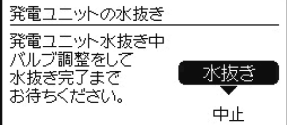
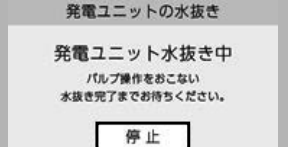
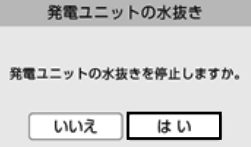

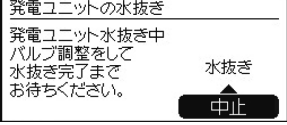
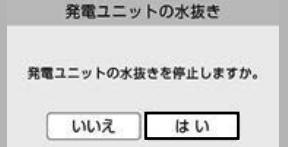
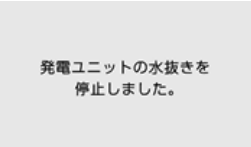
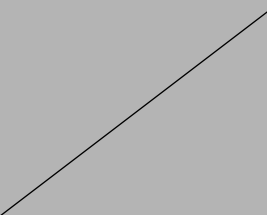
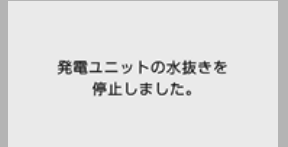
⑪A熱源機行きエア抜き栓を閉め、B排水栓、Cタンク排水バルブを閉じます。

⑫発電ユニットと熱源機のカス栓を閉じ、屋内分電盤の専用ブレーカを「OFF」にします。

⑬14ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

# 水抜きしたいときは

## ■ 水抜きを途中で停止する方法

手順	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	<p>[停止]をタッチします。</p> 	<p>[中止]をタッチします。</p> 	<p>▼で[中止]を選択します。</p> 	<p>[停止]をタッチします。</p> 
②	<p>[はい]をタッチします。 ※[いいえ]をタッチすると①の画面に戻ります。</p> 	<p>トップ画面に移行します。</p> 	<p>「決定」を押します。</p> 	<p>[はい]をタッチします。 ※[いいえ]をタッチすると①の画面に戻ります。</p> 
③	<p>下記のリモコン表示を確認します。</p> 		<p>トップ画面に移行します。</p>	<p>下記のリモコン表示を確認します。</p> 

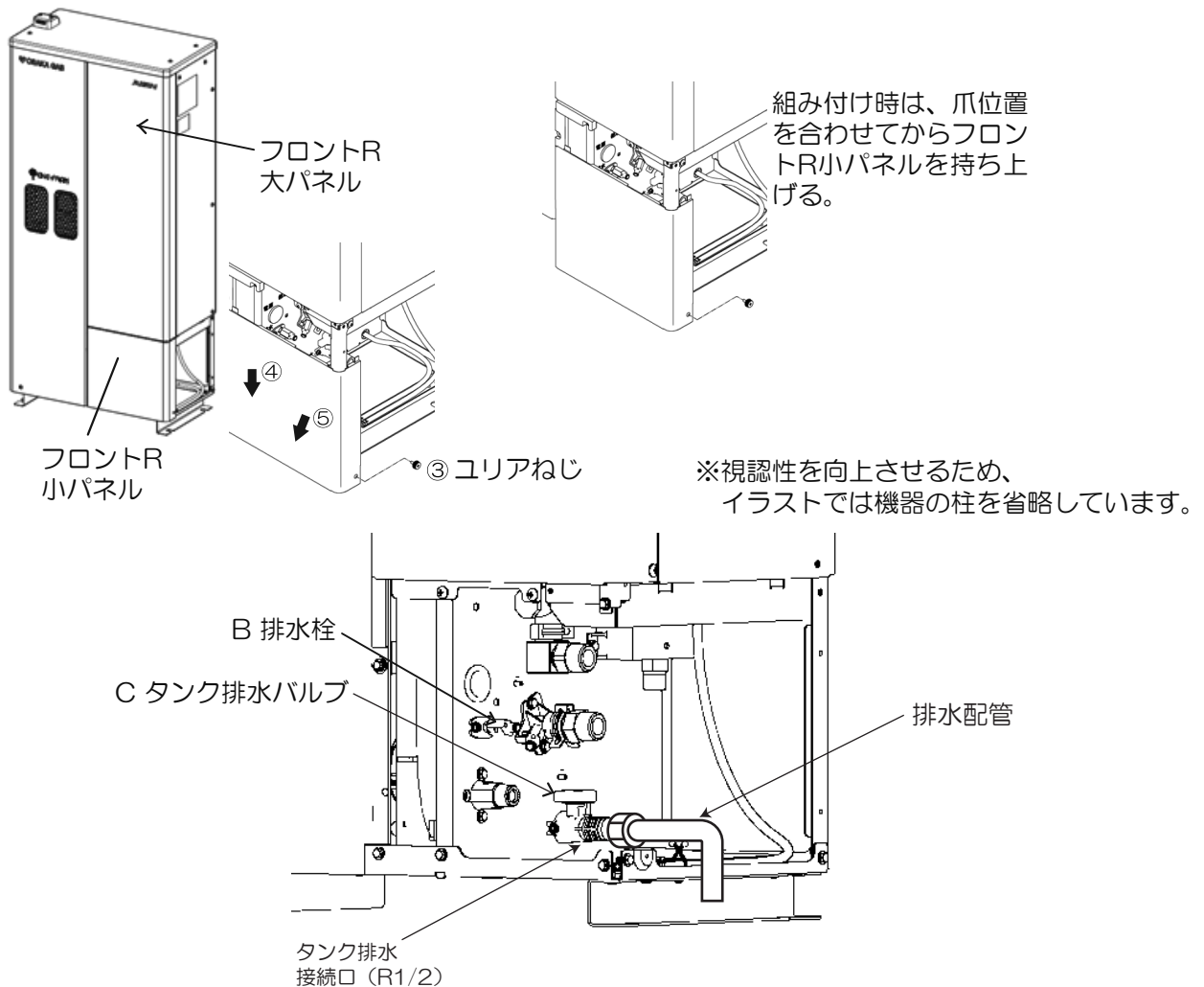
# 水抜きしたいときは

## 災害時などに貯湯タンクのお湯を取り出す

断水で水道水を使用できない場合でも、貯湯タンクのお湯（水）を取り出して雑用水として利用できます。

### ■ 取り出し手順

- ① リモコンの発電状況表示、発電モードマーク（16、28、41、54ページ参照）の表示が消えて、発電ユニットが停止していることを確認してください。
- ② 分電盤の専用ブレーカーと防水コンセントに接続された屋内分電盤のブレーカを遮断します。
- ③ フロントR小パネル右側面下のユリアねじを外します。
- ④ フロントR小パネルを下に数mmスライドさせます。
- ⑤ フロントR小パネルの下端を手前に寄せながら下方向にスライドさせて取り外します。



- ⑥ C タンク排水バルブの先よりお湯（水）を受けられるようにしてください。
- ⑦ 給水口バルブと熱源機メンテナンス用バルブを閉じます。（73ページ参照）
- ⑧ C タンク排水バルブをゆっくり開けます。
- ⑨ B 排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開けます。  
取り出したお湯（水）は、雑用水として使用してください。  
取水が終わったら、B 排水栓、C タンク排水バルブを閉じます。
- ⑩ 発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

### ■ 再起動するときは

- ・「■水張り手順」（79ページ参照）を実施してください。
- ・停電した場合は、日時がリセットされている場合がありますので、日時の設定を行ってください。  
24時間以上 停電した場合は、暗証番号の入力を行ってください。  
手順はリモコンの取扱説明書を参照してください。

# お手入れと周囲の確認

## お手入れ

※ 機器のお手入れには、手袋を着用してください。

■ 機器の外観（パネルおよび放熱器吸気口のフィルタ）が汚れている場合、水に濡らした柔らかい布をかたく絞って、軽く拭きとってください

- 機器を高水圧での水洗いはしないでください。
- 外観のお手入れに、ガソリン・シンナー・ベンジン・みがき粉・スプレーなどを使わないでください。
- お手入れの際、パネルおよび放熱器吸気口のフィルタを外さないでください。

■ 1年に1回程度、発電ユニット内の貯湯タンクの洗浄をしてください

手順	操作内容	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	発電ユニットを停止させる。 （「発電禁止」を参照）	21ページ	33ページ	46ページ	59ページ
②	発電停止完了後、水抜きをする。 （「水抜き手順」を参照）	71、72、77、78ページ			
③	水抜き終了後、水張りをする。 （「水張り手順」を参照）	79、80ページ			
④	発電ユニットを起動する。 （「発電禁止から発電をする」を参照）	19ページ	31ページ	44ページ	57ページ

※ 上記②の開始から③の終了までは熱源機は使用できなくなります。

## 周囲の確認

■ 発電ユニット、熱源機周辺に異常がないことの確認を月に1回程度行ってください

- 機器の周囲に可燃物および、障害物がないことを確認してください。
- 機器の排気口、吸気口・換気出口が塞がれていないことを確認してください。
- 据付金具が緩んでいないことを確認してください。

# 貯湯タンクの洗浄をする

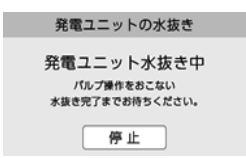
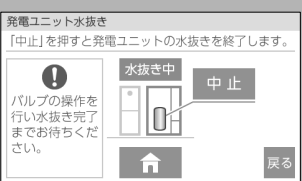
※この操作開始後水張り完了までは、熱源機を使用することはできません。

※この水抜きでは手順の途中でリモコンによる水抜き停止ボタンを操作しますが、その後も手順書に沿ってエア抜き栓、排水バルブ操作を行ってください。

## ■水抜き手順

※安全の為、水抜き操作の前に「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照ください。  
 ※やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑥）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑦～⑪）を行ってください。

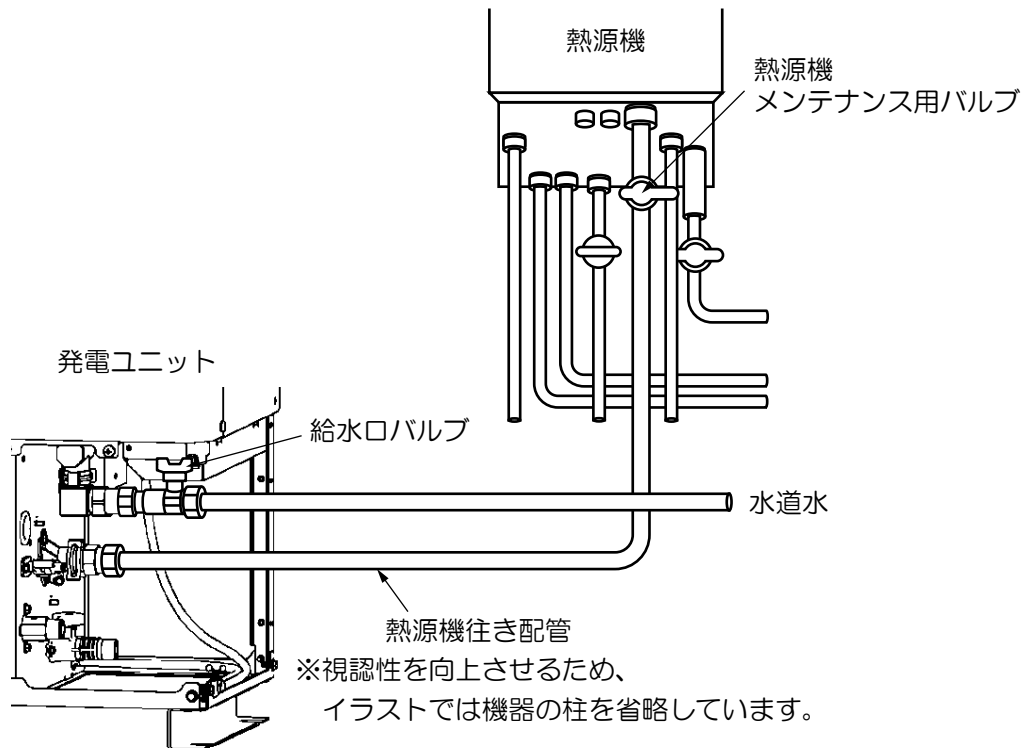
手順①～⑤は、71ページ参照してください。

手順	リモコンA	リモコンB
⑥	<p>タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。</p> 	<p>タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。</p> 

## 共通

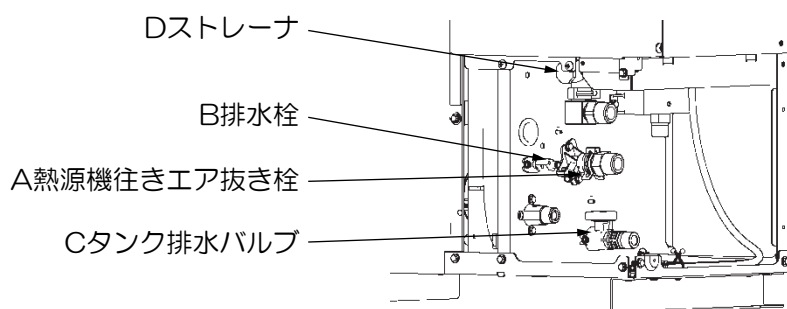
⑦ 下記バルブの操作をしてください。

- ・給水口バルブを閉じます。
- ・熱源機行き配管途中の熱源機メンテナンス用バルブを閉じます。



手順	リモコンC	発電リモコン
⑥	<p>タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」(14ページ)を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>発電ユニットの水抜き</p> <p>発電ユニット水抜き中 バルブ調整をして 水抜き完了まで お待ちください。</p> <p style="text-align: center;"><b>水抜き</b></p> <p style="text-align: center;">中止</p> </div>	<p>タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」(14ページ)を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>発電ユニットの水抜き</p> <p>発電ユニット水抜き中 バルブ操作をおこない 水抜き完了までお待ちください。</p> <p style="text-align: center;">停止</p> </div>

- Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。





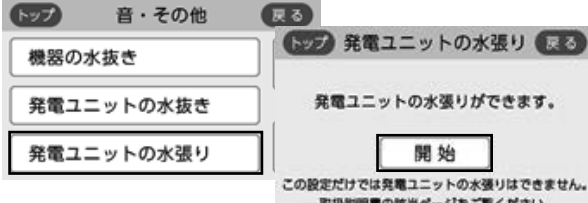
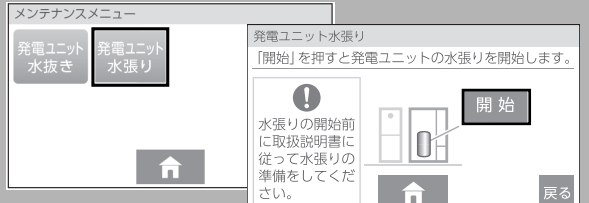
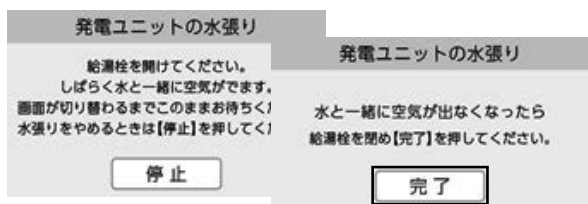

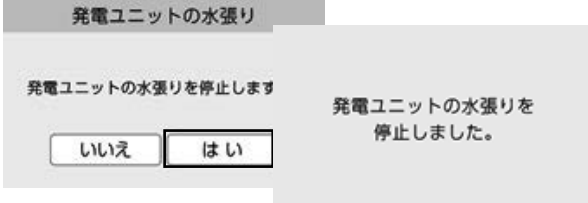
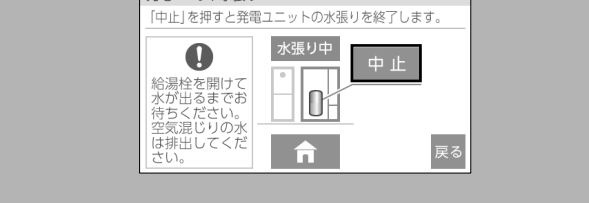
※視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。

- ⑧リモコンの画面がトップ画面に移行したら、A熱源機行きエア抜き栓、B排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開けます。  
※ 60分経過してもトップ画面に移行しない場合は、⑥の[停止],[中止],[決定]のいずれか(上表参照)をタッチして水抜きを停止し、Cのバルブまたは栓が開いていることを確認後、再度①より実施してください。
- ⑨給水接続口のDストレーナをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて取り外します。
- ⑩Dストレーナの目詰まりを掃除し、元の場所に取り付けます。
- ⑪タンク排水配管およびA熱源機行きエア抜き栓より湯(水)が出なくなったら、A熱源機行きエア抜き栓とB排水栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。

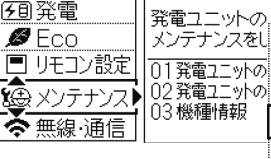

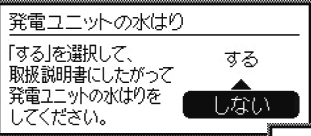
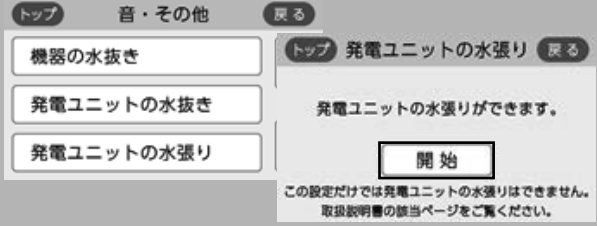
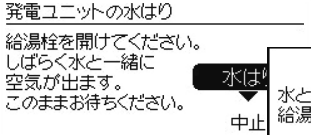
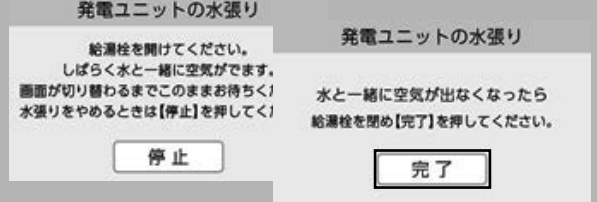
# 貯湯タンクの洗浄をする

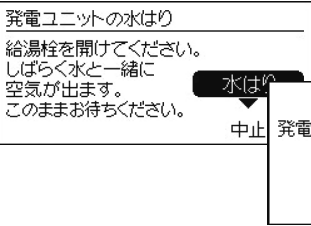
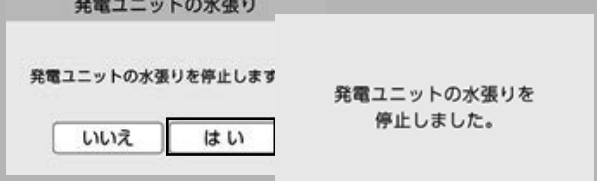
※エラー [03F06][82F01]等で水張りをする場合は、下記の手順を実施してください。

## ■水張り手順

手順	リモコンA	リモコンB
①	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、 （「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。） 液晶画面部をタッチします。	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、 （「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。） 液晶画面部をタッチします。
②	トップ画面より[メニュー]→[音・その他]をタッチします。 	トップ画面より[メニュー]→[メンテナンス]をタッチします。 
③	音・その他画面より[発電ユニットの水張り]→[開始]をタッチします。 	メンテナンス画面より[発電ユニットの水張り]→[開始]をタッチします。 
④	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水口バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開けます。（77ページ参照）	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水口バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開けます。（77ページ参照）
⑤	屋内の給湯栓を開けます。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[完了]をタッチします。 ※給湯栓・・・屋内の給湯蛇口です。 	屋内の給湯栓を開けます。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[確認]をタッチします。 ※給湯栓・・・屋内の給湯蛇口です。 
⑥	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けます。	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けます。
途中で停止する場合	屋内の給湯栓を閉めてから、⑤画面の[停止]をタッチし、下画面の[はい]をタッチします。 ※[いいえ]をタッチすると前の画面に戻ります。 	屋内の給湯栓を閉めてから、[中止]をタッチします。 

※水張りを途中で停止した場合は、再度手順①から実施してください。

手順	リモコンC	発電リモコン
①	リモコンの「運転入/切」スイッチを「切」にし、（「運転入/切」スイッチ部のLEDランプを消す。）「メニュー」ボタンを押します。	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または液晶画面部をタッチします。
②	<p>▲または▼で[メンテナンス]を選択し▶または「決定」を押し、その後▲または▼で[発電ユニットの水はり]を選択し▶または「決定」を押しします。</p>  <p>発電ユニットの水はりをします。 01 発電ユニットの水抜き 次へ 02 発電ユニットの水はり 次へ 03 機種情報 次へ</p>	<p>トップ画面より[メニュー]→[音・その他]をタッチします。</p> 
③	<p>▲を押して「決定」を押します。</p>  <p>発電ユニットの水はり 「する」を選択して、取扱説明書にしたがって発電ユニットの水はりをしてください。</p> <p>決定 確認</p>	<p>音・その他画面より[発電ユニットの水張り]→[開始]をタッチします。</p>  <p>機器の水抜き 発電ユニットの水抜き 発電ユニットの水張り</p> <p>発電ユニットの水張り 開始</p> <p>この設定だけでは発電ユニットの水張りはできません。取扱説明書の該当ページをご覧ください。</p>
④	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開ける。（77ページ参照）	
⑤	<p>屋内の給湯栓を開けます。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、「決定」を押します。 ※給湯栓・・・屋内の給湯蛇口です。</p>  <p>発電ユニットの水はり 給湯栓を開けてください。しばらく水と一緒に空気が出ます。このままお待ちください。</p> <p>水はり 中止</p> <p>水と一緒に空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてください。</p> <p>決定 確認</p>	<p>熱源機の給湯スイッチを「OFF」にし、屋内の給湯栓を開けます。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[完了]をタッチします。 ※給湯栓・・・屋内の給湯蛇口です。</p>  <p>発電ユニットの水張り</p> <p>給湯栓を開けてください。しばらく水と一緒に空気が出ます。画面が切り替わるまでこのままお待ちください。水張りをやめるときは[停止]を押してください。</p> <p>停止</p> <p>発電ユニットの水張り</p> <p>水と一緒に空気が出なくなったら給湯栓を閉め[完了]を押してください。</p> <p>完了</p>
⑥	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けます。	

途中で停止する場合	<p>屋内の給湯栓を閉めてから、▼で[中止]を選択し「決定」を押します。</p>  <p>発電ユニットの水はり 給湯栓を開けてください。しばらく水と一緒に空気が出ます。このままお待ちください。</p> <p>水はり 中止</p> <p>発電ユニットの水抜きを中止しました。</p> <p>決定 確認</p>	<p>屋内の給湯栓を閉めてから、⑤画面の[停止]をタッチし、下画面で[はい]をタッチします。 ※[いいえ]ボタンを押すと前の画面に戻ります。</p>  <p>発電ユニットの水張り</p> <p>発電ユニットの水張りを停止します</p> <p>いいえ はい</p> <p>発電ユニットの水張りを停止しました。</p>
-----------	--	---

お手入れ

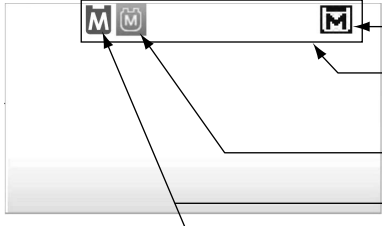
# 故障・異常かな？と思ったら

次の場合は、故障ではありません。

症状	原因
排気口から湯気が出ている。基礎が濡れている。	排気ガス中の水蒸気が凝縮し湯気が立つことがあります。排気口付近に結露が発生することがあります。結露の状況によっては機外へ排水し、基礎が濡れることがあります。
排気キャップの排気口周囲に白い付着物がつく。	排気口付近の結露水に含まれる成分が付着する場合があります。付着した場合は布等により拭き取ることができます。
放熱器吸気口のフィルタに白い付着物がつく。	背面パネルに含まれる成分が放熱器吸気口のフィルタに付着する場合があります。付着した場合は布等により拭き取ることができます。
お湯を使っていないのに運転している。 お湯を使っているのに運転しない。	発電ユニットの発電・停止は、お湯を使う時間帯と必ずしも一致しません。
停止後も運転音がある。	機器を保護するために、停止後約3～5時間程度は運転しています。
排水配管から水がポタポタ出る。	排気ガス中の水蒸気が凝縮して水となり、排出されます。
発電出力が上昇するのに時間を要する。	モジュール内部の温度が急上昇しないようゆっくりと出力を上昇させています。
発電ユニットから臭いがする。	運転開始時に臭いがすることがありますが、異常ではありません。

故障・異常かな？と思ったらときは、まずリモコンの表示をご確認ください。

※ 熱源機およびリモコンの取扱説明書も合わせてご確認ください。

症状	原因	処置方法
リモコンに何も表示されない。	発電ユニットに接続された専用ブレーカがOFFになっている。	発電ユニットに接続された専用ブレーカをONにしてください。 ※ リモコンが表示したら、リモコンの時計合わせを行ってください。
	発電ユニットがエラー停止している。	停電時、発電ユニットがエラーで発電を継続できなくなった可能性があります。 停電が復旧した後、リモコンにエラーが表示された場合は、83、84ページに記載の処置方法に従って処置を行ってください。
リモコンに何も表示されない。 (停電時自立発電機能付き)	停電時に停電時自立発電専用コンセントに接続している電気製品の消費電力が発電量を超過している。	接続した電気製品をすみやかに取り外してください。
発電表示が消え、発電停止時にMマークを表示して停止している。	ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するための一時的な停止 (※詳細は、「■ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」 リモコンA (17ページ)、 リモコンB (29ページ)、 リモコンC (42ページ)、 発電リモコン (55ページ)) をご参照してください。	Mマークの表示開始から約4～9時間経過後に自動で運転を再開します。ただし、ガスのご使用状況や機器の動作状況により、リモコンに[01900]を表示し停止を継続する場合があります。その場合は83ページを参照し、処理を行ってください。 Mマーク、発電表示は、リモコン画面上部に表示されます。詳細は各リモコン説明部(リモコンA (15ページ)、リモコンB (27ページ)、リモコンC (40ページ)、発電リモコン (53ページ))を参照してください。  リモコンC 各リモコンのMマーク表示位置 リモコンB ・リモコンA ・発電リモコン

# 故障・異常かな？と思ったら

症状	原因	処置方法
[01900]を表示して停止している。	発電ユニット停止中に熱源機のガス使用が継続し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認できなかった。	処置方法は、83ページを参照してください。
発電エラーと[* * F * *]が交互に表示されている。	エラーが発生している。	停止完了までお待ちください。リモコン画面左上にある、発電マークと状態表示（[停止中]）が消えたら停止完了です。83、84ページを参照し、エラーの処置を行ってください。
発電ユニットのセルフチェック実施中を知らせる表示がされている。	故障診断のための一時的な停止。	しばらくお待ちください。 24時間経過しても発電ユニットのセルフチェック実施中を知らせる表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。
発電中にリモコン画面左上の[発電中]表示が[電圧抑制]と表示される。	商用電源の電圧が設定値（電力会社による指定値）を超えないように、発電ユニットが電圧を自動検出し、発電量を自動で抑制します。	商用電源の電圧が正常に戻れば[電圧抑制]の表示は消え[発電中]に戻ります。頻繁に発生する場合は、お買い上げの販売店または電力会社にご相談ください。
発電が停止しリモコン画面左上の[発電中]の表示欄に[?]が表示される。	お客様の電力の使用量が少ない状態が継続し、十分な省エネ効果が得られないため発電を一定期間停止しています。	お客様の電気使用量が増加すれば自動的に再発電します。電気使用量が増加しなければ長期間発電を停止する場合があります。停止中に起動する場合は【メニュー】→【発電メニュー】から【発電再開】を選択し【開始】または【はい】、【する】を実行ください。
発電出力が家庭の電力需要量を大幅に下回り、リモコン画面左上に[出力抑制]と表示されている。	下記の場合は、運転を継続させるために発電出力を抑制します。 ・外気温が高いとき ・熱が滞留するような設置環境	1日のうち数時間以上が出力抑制となる可能性がありますので、しばらくお待ちください。 24時間経過しても発電出力に一切変化がない場合は販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。
発電ユニットの起動時に数分程度音が大きくなる場合があります。	点火時に発生する燃焼音です。	音が継続して止まらない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
リモコン設定よりも熱いお湯が出る。 お湯を出しても温度が上がらない。 お湯を出しても、熱くなったりぬるくなったりして、お湯の温度が安定しない。	この商品は、熱源機のガス消費量を抑えるために、熱源機に供給する水の温度を発電ユニットの排熱により予熱しています。このため、少ない流量でお湯をお使いの場合、設定温度よりも高めのお湯が出る場合があります。さらにお湯の流量を絞りすぎると、燃焼を停止する場合があります。	お湯の量を増やしてご使用ください。 ※ 混合水栓でお湯と水とを混ぜてお使いの場合は、水栓から流れるお湯の量よりも熱源機を流れるお湯の量が少なくなります。混合水栓のレバーをお湯側にしてお使いください。
後付構成で、熱源機が「給湯切」なのに お湯が出てくる。	熱源機が「給湯切」でも、発電ユニットの貯湯タンクの湯がなくなるまで、最高で30℃の水が供給されます。	故障ではありません。 水をご使用されたい場合は、混合水栓を水側にしてご使用ください。

# エラー発生時の処置方法

## お願い

- お客さま自身で部品の点検・調整はしないでください。
- 機器の異常に気付いたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

### ■ エラー発生時の処置方法について

- リモコンにエラーコード5桁を表示します。  
エラーコードの表示が3桁の場合は熱源機側の不具合です。熱源機の取扱説明書を参照してください。
- リモコンに次ページのエラーコードが表示された場合、処置方法に従い処置を行ってください。
- 83、84ページ以外のエラーコードについては、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

### ■ エラーリセット（異常解除）の方法

- リモコンA、リモコンB、発電リモコンの場合  
「ON/OFF」スイッチを一度「OFF」にしてから、再度押して「ON」にします。
- リモコンCの場合  
「入/切」スイッチを一度「切」にしてから、再度押して「入」にします。

(リモコンA (15ページ)、リモコンB (27ページ)、リモコンC (40ページ)、発電リモコン (53ページ) 参照)

※ エラー発報時は停止工程に約10～12時間かかります。  
エラーをリセットしても、停止工程が終了するまで再起動しません。

表示	故障内容	原因	処置方法
01900	ガスマイコンメーター内管漏えい警報防止（後付構成では発生しないエラーです。）	機器の異常ではありません。発電ユニットが「ガスマイコンメーター確認マーク」を表示して停止中に、熱源機のガス使用が継続し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認できなかった場合に表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全てのガス機器（暖房を含む）を連続で70分間以上停止してください。<sup>*1</sup>ただし、機器が凍結予防動作などを行った場合、この表示が消えないことがあります。その場合はさらに連続で70分間以上ガス機器を停止してください。作業を実施しても表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。</li> <li>• 床暖房の長時間使用により頻繁に[01900]が表示される場合は、給湯や浴室暖房乾燥機などガス機器を使用しない時間帯に、床暖房リモコン等のタイマー設定により床暖房を70分以上停止する時間帯を設定ください。</li> </ul>
01F00	• 通常停止回数警告	起動停止の回数が多すぎます。	このまま使用を継続されますと、故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外となる場合がありますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
01F01	• シャットダウン回数警告		
03F00	• ホットモジュール起動許可条件成立待ち	発電ユニットが高温であるため起動できません。	冷却されるまでお待ちください。（約10～12時間（時間は気温によって異なります。））

\*1 70分間は以下の表示を目安としてください。

- リモコンAの場合  → 
- リモコンBの場合  → 
- リモコンCの場合  → 

# エラー発生時の処置方法

表示	故障内容	原因	処置方法
03F06	・水抜き状態時起動警告	水抜き、水張りが中止された状態で発電ユニットの起動操作が実施された。	発電禁止操作を行い、エラーをリセットし、水張りを実施後、発電ユニットを起動してください。参照ページは下記となります。 リモコンA (21、83、79、19ページ)、 リモコンB (33、83、79、31ページ)、 リモコンC (46、83、79、44ページ) 発電リモコン (59、83、79、57ページ)
05F00	・メンテナンス時間超過	定期交換部品の交換が必要です。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
05F03	・可燃ガスセンサ時間超過		
05F04			
08F00	・自立運転保護動作	電力使用量が少ないため、保護停止しています。	給湯および電力使用量が350W以上必要です。
10F00	・可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常	発電ユニット内部でガス漏れが発生した場合、もしくは発電ユニット外部から自動車の排気ガスなどの可燃性ガスが流入した場合に、ガスを検知して停止しています。	ガス供給を遮断していますが念のため発電ユニット専用ガス栓を閉じて、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
10F10			
10F01	・可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常		
10F11			
82F01	・排熱回収水出口温度 高温異常	断水している可能性があります。	発電禁止操作を実施後に、エラーをリセット (83ページ参照) してください。 給水されていることを確認後、発電ユニットの水張り操作を実施してください。水張り完了後、「発電禁止からの再開」を実施してください。再発する場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
A0F00	・原燃料供給圧低または原燃料流量計故障	ガス栓が閉まっているか、ガスマイコンメーターが遮断されています。	ガス栓が閉まっている場合は、ガス栓を開けてください。 ガスマイコンメーターが遮断している場合は、ガスマイコンメーターを復帰させてから、リモコンでエラーをリセットしてください。 操作方法がわからない場合はガス供給事業者までご連絡ください。
EOFOO	・商用電流検出異常	購入電力の検出に異常がある可能性があります。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
E4FOO	・商用電流検出異常		
F9FOO	・逆潮流検出		

# エラー表示

発電ユニットに不具合が生じたとき、熱源機のリモコンにエラーコード[\* \* F \* \*]が表示されます。

## 発電ユニットのエラーコード一覧 (1 / 2)

表示	故障内容
01F00	通常停止回数警告
01F01	シャットダウン回数警告
01F02	省エネ性低下検出
02F00	通常停止回数警告 (起動禁止)
02F01	シャットダウン回数警告 (起動禁止)
03F00	ホットモジュール起動許可条件成立待ち
03F01	スタック保護待機状態
03F06	水抜き状態時起動警告
03F07	改質水水量保護動作中
03F08	エア流量計フィルタ詰まり解消動作
05F00	メンテナンス時間超過1
05F03	可燃ガスセンサ時間超過
05F04	可燃ガスセンサ時間超過
08F00	自立運転保護動作
08F02	水不足による保護停止
08F03	自立時過負荷検出
10F00	可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常
10F01	可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常
10F10	可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常
10F11	可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常
11F00	着火異常
12F00	燃焼部#1失火異常
12F01	燃焼部#2失火異常
12F04	失火による出力異常
12F05	失火継続異常
15F00	起動異常
17F00	温度ヒューズ作動
19F00	漏電・過電流ブレーカ保護作動
20F00	冷却ファン故障
30F00	改質入口温度センサ故障
30F01	改質入口温度高温異常
30F02	改質入口温度低温異常
30F03	改質入口温度センサ不定故障
42F00	モジュール温度センサ故障
42F01	モジュール温度高温異常
42F02	モジュール温度低温異常
42F04	モジュール温度センサ不定故障
43F00	燃焼排ガス温度センサ故障
43F01	燃焼排ガス温度高温異常
43F02	燃焼排ガス温度低温異常
47F00	還流ガス温度センサ故障

表示	故障内容
47F02	還流ガス温度低温異常
50F01	停止時原燃料流量異常
52F02	エア流量異常
53F00	給湯混合弁原点復帰異常
55F00	可燃ガスセンサ1異常
55F01	可燃ガスセンサ2異常
55F10	可燃ガスセンサ1異常
55F11	可燃ガスセンサ2異常
57F01	伝導度上限異常または水位センサ短絡故障
59F00	燃焼触媒故障
60F00	原燃料流量偏差異常
60F01	原燃料ガスプロアDUTY上限異常
61F00	エア流量偏差異常
61F01	エアプロア故障
63F00	フロートスイッチ断線故障
63F01	フロートスイッチ短絡故障
64F00	排熱回収水ポンプ故障
66F00	改質水補給異常
67F00	水位異常または水位センサ短絡故障
67F01	水位センサ断線故障
67F04	改質水ライン水張り異常
68F00	原燃料入口電磁弁駆動回路異常
68F01	原燃料入口電磁弁異常
70F00	インバータ通信異常
70F01	インバータ連系パラメータ受信異常
72F01	給湯器ラインまたはインバータ異常
72F03	自立出力リレー固着警告
72F04	自立出力リレー固着異常
72F05	給湯器電源リレー系統側固着警告
72F06	給湯器電源リレー系統側固着異常
74F00	フラッシュメモリ故障
76F00	セット構成給湯器通信異常
76F01	後付構成用発電連係リモコン通信異常
76F02	リモコンアンマッチ
76F03	リモコン電源電圧低下異常
77F00	改質水ポンプ駆動回路異常
77F02	制御装置可燃ガスセンサ増幅回路異常
77F03	制御装置LPガスセンサ増幅回路異常
77F04	制御装置パラメータ破損異常
77F05	FCメンテデータ差異異常
77F06	FCパラメータ差異異常
77F08	原燃料流量計通信異常

# エラー表示

## 発電ユニットのエラーコード一覧 (2 / 2)

表示	故障内容
77F09	カソード エア流量計通信異常
77F10	原燃料流量計測値フリーズ異常
77F11	カソード エア流量計測値フリーズ異常
78F15	直流ヒータ過電流警告
79F00	コントローラスイッチ部短絡故障
80F00	排熱回収水入口温度センサ故障
80F01	排熱回収水入口温度高温異常
82F00	排熱回収水出口温度センサ故障
82F01	排熱回収水出口温度高温異常
82F02	排熱回収水出口温度低温異常
82F04	排気熱交換器故障または排熱回収水出口温度センサ不定故障
83F00	補機室上部温度センサ故障
83F01	補機室上部温度高温異常
85F00	水道水温度センサ故障
86F00	混合湯温度センサ故障
86F01	混合湯温度高温異常
86F02	水道水温度センサ／混合湯温度センサ精度異常
88F00	自立ヒータ温度センサ故障
88F01	自立ヒータ上部温度高温異常
88F02	自立ヒータ上部温度高温警告
93F00	停止時間タイムアウト
95F00	改質水タンク水量不足またはフロートスイッチ故障
A0F00	原燃料供給圧低下または原燃料流量計故障
B0F00	ホットモジュール高温状態検出
B0F02	改質触媒高温状態
B1F02	水張り時エア抜き警告
B1F03	排熱回収水ライン水なし異常
B4F01	点火ヒータ連続通電時間オーバー
B4F03	排熱回収水ライン凍結防止ヒータ空焚き異常
B6F00	パソコン通信異常
B8F00	改質水タンク水なし状態検出
C0F00	スタックトータル電圧低下
C0F02	コンバータ過電流警告
C0F03	直流リンク過電圧警告
C2F00	スタックトータル電圧未確立
C4F00	直流不足電圧検出
C5F01	インバータDC/DC部温度高温異常
C5F02	インバータDC/AC部温度高温異常

表示	故障内容
C5F03	インバータ低温警告
C5F04	インバータ高温異常
C6F01	EEPROM異常
C7F00	ハードウェア故障
C7F01	インバータ温度センサ故障
C7F02	連系リレー故障
C7F04	24V補機電源電圧上限異常
C7F05	24V補機電源電圧下限異常
C7F06	24V補機電源通電警告
C7F07	2.5V補機電源電圧上限異常
C7F08	2.5V補機電源電圧下限異常
C7F12	5V補機電源電圧上限異常
C7F13	5V補機電源電圧下限異常
C7F14	スタック電流通信異常
C7F15	商用電流回路異常
C7F17	インバータソフトウェアバージョン異常
C7F23	自立周波数不確定異常
C7F25	自立構成異常
C7F26	自立発電電圧不安定異常
C7F27	自立発電電圧不安定警告
C7F28	自立出力準備中シーケンス異常
C9F00	インバータ入力過電流
E0F00	商用電流検出異常 (誤配線)
E1F00	CT自動補正不能
E1F01	CT誤取り付け警告
E1F02	CT自動検出時電力不足異常
E4F00	商用電流検出異常
E7F00	N相過電流異常
F0F00	系統過電圧警告
F1F00	系統不足電圧警告
F2F00	系統周波数上昇警告
F3F00	系統周波数下降警告
F4F00	単独運転受動方式検出
F5F00	単独運転能動方式検出
F6F00	系統瞬時過電圧
F7F00	直流過電圧検出
F7F01	リンク不足電圧検出
F7F02	リンク過電圧検出
F7F03	出力電流直流分流出検出
F7F05	インバータ側通信異常
F7F06	瞬時過電流
F9F00	逆潮流検出
O1900	マイコンメータ内管漏えい警報防止

# 点検について

## ■ 逆流防止装置の点検

この機器は給水用具（逆流防止装置）を内蔵しています。機器を安全・快適にお使いいただくために、（社）日本水道協会発行の「給水用の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。時期は4～6年に1回程度をおすすめします。（有償）

## ■ 発電ユニットの点検

機器への通電開始から12.5年経過後に停止します。引き続き安全にご使用になるためには、点検および定期交換部品、その他の部品の交換が必要になります。（有償）

◆ リモコンの液晶画面上部に下記のお知らせが表示されたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

- ・ [発電ユニットの点検時期が近づいています。]
- ・ [発電ユニットの点検が必要です。]
- ・ [発電ユニットの点検時期を過ぎています。]（エラーコード[05F00]も点滅）

※ [発電ユニットの点検時期を過ぎています。]の表示になると、発電ユニットは自動的に停止します。

◆ 点検は、専門のサービスマンが実施いたします。

# おもな仕様

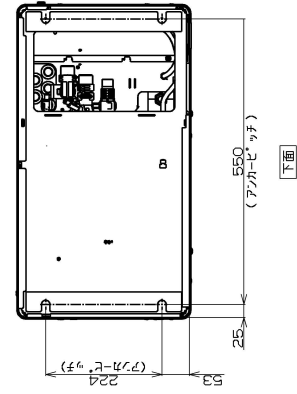
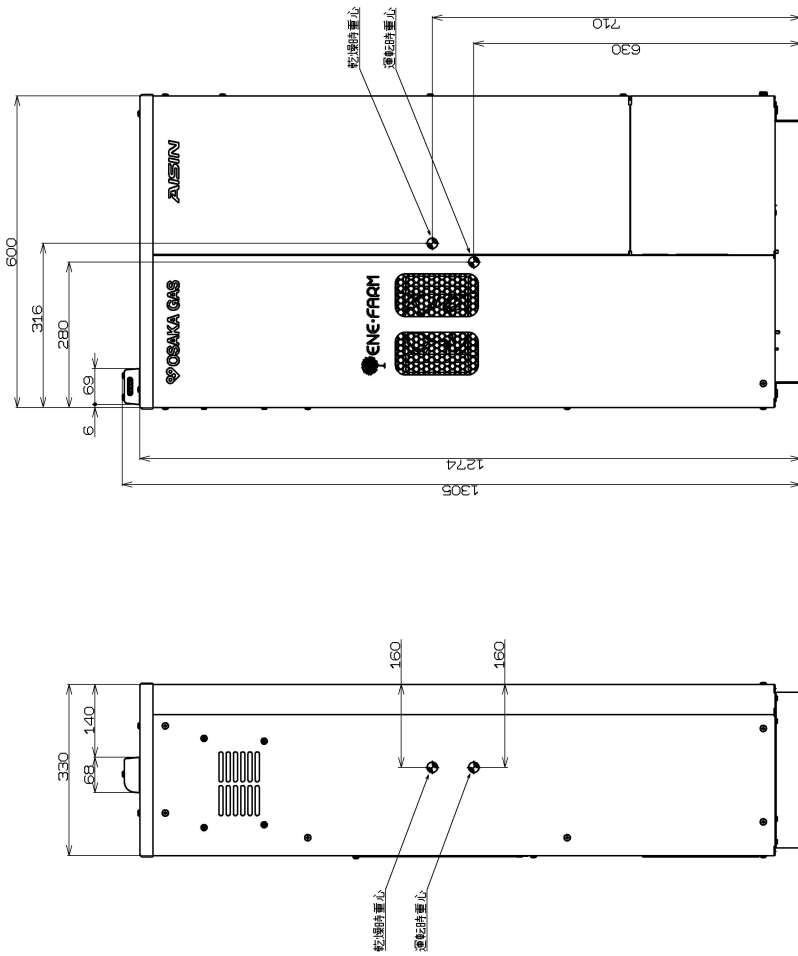
商品コード	192-AS11	192-AS11 192-AS13	192-AS12	192-AS12 192-AS14	
型式名	FCCS 07C1NJ	FCCS 07C1PJ	FCCS 07C1NH	FCCS 07C1PH	
製品名	停電時自立発電機能付き エネファーム type S 燃料電池発電ユニット		エネファーム type S 燃料電池発電ユニット		
ガスの種類	都市ガス 13A	LPガス	都市ガス 13A	LPガス	
燃料電池の種類	SOFC（固体酸化物形燃料電池）				
設置方法	屋外設置据置型				
タンク貯湯温度	約60℃				
タンク容量	25L				
外形寸法 mm	高1274×幅600×奥行330				
重量 kg	86（乾燥重量）		85（乾燥重量）		
接続	ガス	TU（R1/2おねじ）			
	給水・給湯	R3/4（おねじ）			
	タンク排水	R1/2（おねじ）			
	排水	R1/2（おねじ）			
	電源	単相3線式 100/200V			
発電	定格出力 W	700（停電時自立発電時700）	700		
	電圧 V	100			
	周波数 Hz	50/60			
効率	発電効率（LHV）%	55（*1）	53	55（*1）	53
	総合効率（LHV）%	87	85	87	85
インバータ	インバータ方式	自励式電圧型電流制御方式			
	電圧調整方式	PWM方式			
	絶縁方式	高周波絶縁方式			
	接続電気方式	単相3線式			
	出力電気方式	単相2線式 101V			
運転環境温度 ℃	-10～43				
停電時自立発電設計耐用時間（のべ）	500h		-		
不在停止の使用目安	10回/年以下				
起動時間（発電準備）	約4～5時間*2（機器の状態および気温によって異なります）				
停止動作時間	約3～5時間（機器の状態および気温によって異なります）				

\*1 余剰電力買取をしている場合等、3時間以上安定して定格発電を継続した際の発電効率です。

上記以外の場合は、定格発電効率54%（総合効率87%）となります。

\*2 発電の停止動作中に起動操作を行った場合でも、停止動作の完了後に再起動となります。

# 外形図



No	名称	接続口径
①	ガス接続口	TU(R1/2おねじ)
②	熱源機住ぎ接続口	R3/4(おねじ)
③	給水接続口	R3/4(おねじ)
④	タンク排水接続口	R1/2(おねじ)
⑤	ドレン排水接続口	R1/2(おねじ)

# アフターサービスと保証について

## 修理を依頼するとき

修理を依頼される前に、「故障・異常かな?と思ったら」(81～84)ページの項目を見て、今一度ご確認ください。不具合があるときはご自分で修理せず、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

修理の際、エラー発生時に記録した運転データ\*を機器から取得し、原因解析に使用します。

\*運転データには電気、お湯等のお客さま使用状況を含みます。

**アフターサービスをお申し付けいただくときは、次のことをお知らせください。**

1. 商品コード・・・192-AS11、192-AS12、192-AS13、192-AS14
2. 品名・・・エネファーム type S (燃料電池発電ユニット)
3. ガス種・・・都市ガス(13A) / LPガス
4. お買い上げ年月日
5. 故障の状況・・・できるだけ詳しく(故障表示など)
6. ご住所、お名前、電話番号
7. 訪問ご希望日

## 保証について

- この燃料電池発電ユニットには保証書がついています。必ず「販売店名・お買い上げ日等」が記入されていることを確認してください。
- 保証書の内容をよくお読みになった後は大切に保管してください。
- 無償修理期間経過後の故障修理については、修理によって機能が維持できる場合、有償で修理いたします。

## 引越または機器を移設する場合

燃料電池発電ユニットを安全で快適にご使用いただくため次のことをご確認ください。

移設工事はお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスに依頼し、お客さまご自身ではなさらないでください。

- 引越などで燃料電池発電ユニットを移動・再設置する場合は専門の技術が必要ですので、前もってお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。
- 燃料電池発電ユニットを処分する場合は、お客さまご自身で解体・廃棄は絶対にしないでください。法規制の対象物質が含まれるため、決められた方法で解体・廃棄する必要があります。解体・廃棄につきましては、本製品を購入された販売店に依頼してください。  
※ ご使用による人体・周辺環境への影響はありません。

## 補修用性能部品について

**燃料電池発電ユニットの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後12年です。**

性能部品とは製品の性能を維持するために必要な部品です。

## 熱源機・リモコンを買い替える場合

- 熱源機との組み合わせ、あるいはリモコンとの組み合わせによっては安全・性能が担保できずやけど等の事故が発生するおそれがあります。
- 熱源機・リモコンを買い替える場合は必ず販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。

# アフターサービスと保証について

大阪ガス製エネファームフルメンテナンスサポートサービスのご案内

## 1. フルメンテナンスサポートサービスとは

フルメンテナンスサポートサービス（以下、「本サービス」といいます。）は、大阪ガス株式会社（以下、「大阪ガス」といいます。）または大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、その使用場所で大阪ガス製エネファーム（以下、「エネファーム」といいます。）をご利用いただいているお客さま（以下、「お客さま」といいます。）を対象に、大阪ガスがエネファームの故障時の修理を無償で実施するサービスです。本サービスの内容は、次ページ以降の「フルメンテナンスサポートサービス利用規約」（以下、「利用規約」といいます。）によります。

## 2. 注意事項

- (1) 利用規約第3条第2項に定める事由に該当する場合は、本サービスの提供期間内においても、故障時の修理は有償となります。（以下、抜粋）
  - ①ご使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷
  - ②お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷
- (2) 利用規約第5条第1項に定める事由に該当する場合は、本サービスの提供を終了させていただきます。（以下、抜粋）
  - ①大阪ガスの事前の同意なく、本サービスの対象機器の所有者が変更された場合
  - ②大阪ガスの事前の同意なく、本サービスの対象機器の設置場所が変更された場合
  - ③大阪ガスまたは株式会社エネアーク関西、豊岡エネルギー株式会社、びわ湖ブルーエナジー株式会社の4社とガス使用契約を締結し、本サービスの提供を受けていたお客さまがガス使用契約を解約し、4社以外の他のガス会社との間でガス使用契約を締結した場合
- (3) 前記（2）により本サービスの提供が終了した場合（利用規約第5条ご参照）や、利用規約に従い有償となる場合（利用規約第3条ご参照）には、数千円～数十万円の費用が必要となります。

# アフターサービスと保証について

## 【フルメンテナンスサポートサービス利用規約】

フルメンテナンスサポートサービス(以下、「本サービス」といいます。)は、大阪ガス株式会社(以下、「大阪ガス」といいます。)または大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、その使用場所で大阪ガス製エネファーム(以下、「エネファーム」といいます。)をご利用いただいているお客さま(以下、「お客さま」といいます。)を対象に、大阪ガスがエネファームの故障時の修理を無償で実施するサービスです。大阪ガスまたは大阪ガスが指定する業務代行店が、以下の各条にしたがい、本サービスを提供いたします。

### 第1条(本サービスの提供期間)

本サービスの提供期間は、次の通りとします。但し、①または②により定まるサービス提供開始日が、次条に定める本サービスの対象機器の設置日から起算して1年を経過している場合は、設置日から起算して1年を経過した日をサービス提供開始日とします。

#### ①大阪ガスとの間でガス使用契約を締結し、エネファームをお使いいただく場合

サービス提供開始日: 設置されたエネファームが初めて系統連系を実施した日またはガスの開栓日のいずれか遅い日

サービス提供終了日: サービス提供開始日から起算して10年を経過する日

#### ②大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、エネファームをお使いいただく場合

サービス提供開始日: 設置されたエネファームが初めて系統連系を実施した日

サービス提供終了日: サービス提供開始日から起算して10年を経過する日

### 第2条(本サービスの対象機器)

本サービスの対象機器(以下、「対象機器」といいます。)は、エネファームを構成する燃料電池発電ユニット、燃料電池発電ユニットと同時に設置した当社指定のバックアップ熱源機、リモコンセット並びにバックアップ熱源機に接続されている大阪ガス製の端末機および別売部品とし、バックアップ熱源機以外の温水機器及び、給湯配管、風呂配管、温水配管、信号線等の施工部分、は含まないものとします。

2.前項の端末機とは、「床暖房リモコン」、「浴室暖房乾燥機」、「ヌックシルエ」等をいい、別売部品とは、「自動電源切替器」、「マルチ計測ユニット」、「ネットアダプタ」、「ドレンアップユニット」をいいます。

3.前条の定めにかかわらず、端末機および別売部品のサービス提供終了日は、接続しているエネファームのサービス提供終了日もしくは当該端末機または当該別売部品の設置日から起算して10年を経過する日のいずれか早い方とします。

### 第3条(故障時の修理)

本サービスの提供期間内に対象機器が故障したときは、大阪ガスはお客さまの依頼によりすみやかに技術者を派遣し、適切な修理を行います。修理に要した基本料、技術料および部品代金等の費用は無償となります。なお、本サービスの提供期間終了後においても、お客さまの依頼があるときは、修理が不可能または著しく困難な場合を除き、有償で故障の修理を行います。

2.前項の定めにかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、本サービスの提供期間内においても、修理は有償となります。

#### ①ご使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷

#### ②お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷

#### ③火災、塩害、地震、風水害、落雷、煤煙、降灰、酸性雨、腐食性等の有害ガス、ほこり、異常気象、異常電流・電圧・周波数・電磁波、ねずみ・鳥・蜘蛛・昆虫類等の侵入、その他天変地異または戦争、暴動等破壊行為による故障および損傷

#### ④水道管の錆など異物の流入による故障および損傷

#### ⑤車両船舶に備品として搭載された場合に生じた故障および損傷

#### ⑥音、振動、塗装の退色、メッキの軽微な傷、錆など設計仕様の範囲内の感覚的な現象の場合

#### ⑦ガス発電・給湯・暖冷房システムのうち、大阪ガスまたは大阪ガス指定以外の業者の施工部分およびその施工部分に起因した故障および損傷

#### ⑧業務用の場所(喫茶店、理美容院、飲食店、事務所等)で長時間ご使用になられた場合

#### ⑨商品に表示しているガス以外のガスでご使用になられた場合

#### ⑩温泉水、井戸水、地下水を給水したことに起因する不具合

#### ⑪本規約の字句を書きかえられた場合。

#### ⑫大阪ガスが定める定期点検以外での消耗品の交換に伴う、部材費、手数料、基本料

# アフターサービスと保証について

- ⑬ 停電時以外で停電時自立発電機能を頻繁に使用したことに起因する故障および損傷
- ⑭ 手動操作による「起動」「停止」を頻繁に繰り返し行い、機器の耐久性が低下したことによる故障および損傷  
※ SOFCタイプの「不在停止」操作は、10回/年を目安とし、10日以上不在となる場合にご利用ねがいます。
- ⑮ エネファーム燃料電池発電ユニット(SOFCタイプ)の最大発電出力の低下範囲が日本ガス機器検査協会の検査規定JIAF035.15に定める下限値(定格出力の90%)の80%を下回らない場合
- ⑯ 機器の性能・耐久性維持のための定期点検など、大阪ガスからのお願ひにご協力いただけず発生した機器の耐久性低下による故障および損傷
- ⑰ 商品に同梱の工事説明書および取扱説明書に指示する方法以外の工事設計または取扱等が原因で生じた故障および損傷

## 第4条(本サービスの提供に対する協力等)

お客さまは、本サービスの提供が円滑に行われるように、大阪ガスおよび大阪ガスの業務代行店に全面的に協力するものとし、次の各号に定める事項について承諾するものとします。

- ① 本サービスの提供に要する電気、水道、ガス料金その他の費用がお客さまの負担となること
  - ② 本サービスの提供は、原則として、大阪ガスの通常営業時間中に行うこととし、止むを得ず大阪ガスの通常営業時間外に本サービスの提供を行う必要がある場合は、お客さまと大阪ガスが協議のうえ、大阪ガスが指定する時間帯に行うこと
  - ③ お客さまは、転宅または対象機器の譲渡、移転をする場合、大阪ガスまたは大阪ガスの業務代行店に事前に連絡すること
2. 大阪ガスまたは大阪ガスの業務代行店は、本サービスの提供にあたり、十分な注意を払い、誠意をもってこれを行うものとします。

## 第5条(本サービスの提供の終了について)

次の各号のいずれかに該当する場合は、サービス提供終了日より前であっても、本サービスの提供を終了することについて、お客さまは承諾するものといたします。

- ① 大阪ガスの事前の同意なく、対象機器の所有者が変更された場合  
(大阪ガスが事前に所有者の変更へ同意した場合は、本規約にかかるお客さまの地位は、対象機器の新所有者に移転するものとします。この場合、対象機器の旧所有者は、大阪ガスへ何らの請求も行えないものといたします。)
- ② 大阪ガスの事前の同意なく、対象機器の設置場所が変更された場合
- ③ 大阪ガスまたは株式会社エネアーク関西、豊岡エネルギー株式会社、びわ湖ブルーエナジー株式会社の4社とガス使用契約を締結し、本サービスの提供を受けていたお客さまがガス使用契約を解約し、4社以外の他のガス会社との間でガス使用契約を締結した場合
- ④ お客さまが、暴力団、暴力団関係企業をはじめとする反社会的勢力またはその構成員または準構成員に該当することが判明した場合や、自らまたは第三者を利用して次のいずれかに該当する行為をした場合
  - イ. 暴力的な要求行為
  - ロ. 法的な責任を超えた不当な要求行為
  - ハ. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
  - ニ. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて大阪ガスの信用を毀損し、または大阪ガスの業務を妨害する行為
  - ホ. その他イないしニに準ずる行為
- ⑤ その他止むを得ない事情により永続的にサービスの提供ができないと大阪ガスが判断した場合2. 前項の規定により本サービスの提供を終了した場合、お客さまに損害が生じたとしても、大阪ガスは何ら法的な責任を負わないものとします。但し、大阪ガスの責めに帰すべき事由に起因する場合は、この限りではありません。

## 第6条(本サービスの提供ができない場合等の免責)

次の各号のいずれかに該当する場合は、大阪ガスは本サービスの提供を免れるものとします。

- ① 長期のご不在や、メンテナンススペースの確保が出来ていないなどの止むを得ない事情により、本サービスの提供を行うことができないと大阪ガスが判断する場合
- ② その他止むを得ない事情により一時的に本サービスの提供を行うことができない場合

# アフターサービスと保証について

2. 大阪ガスは、対象機器の故障発生に伴ってお客さままたは第三者に発生したいかなる損害についても法的な責任を負わないものといたします。但し、大阪ガスの責めに帰すべき事由に起因する場合は、この限りではありません。

## 第7条(管轄裁判所)

本サービスに関する一切の訴訟については、大阪地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

## 第8条(その他)

本サービスに関する疑義または本規約に定めのない事項については、お客さまおよび大阪ガスの双方が誠意をもって協議し、円満に解決を図るものとします。

### 【お客さま情報の利用目的】

当社は、本サービスの提供に関して、当社が直接または業務委託先等を通じて、または電話帳・宅地図等の刊行物等により、お客さまの氏名、住所、電話番号等の情報（以下「お客さま情報」といいます。）を取得しますが、これらの情報は以下の目的に利用させていただきます。

- ①エネルギー供給およびその普及拡大
- ②エネルギー供給設備工事
- ③エネルギー供給設備・消費機器(厨房、給湯、空調等)の修理・取替・点検等の保安活動
- ④漏洩・火災自動通報、供給の遠隔遮断等のエネルギー供給事業に関連するサービスの提供
- ⑤ エネルギー消費機器・警報器等の機器および住宅設備の販売（リース・レンタル等を含む）、設置、修理・点検、商品開発、アフターサービス
- ⑥上記各種事業に関するサービス・製品のお知らせ・PR、調査・データ集積・分析、研究開発
- ⑦その他上記①から⑥に附随する業務の実施

なお、当社は、本サービスの提供を円滑に進めるため、業務代行店等に業務の一部を委託することがあります。その際、当社からこれらの業務委託先に必要な範囲でお客さま情報を提することがあります。その場合、当社は、業務委託先との間で取扱いに関する契約を結ぶ、適切な監督を行います。



# アフターサービスと保証について

## 保証書

お買い上げいただきました商品につきまして、本保証書の内容により保証させていただきます。  
本書はお買い上げ店、お買い上げ日が記載されている保証登録カードまたは領収書などとともに大切に保管してください。

商品名	燃料電池発電ユニット
型式	192-A S 11 型
	192-A S 12 型
	192-A S 13 型
	192-A S 14 型

### 1. 保証期間

保証期間は、お買い上げの日から2年間です。お買い上げ日については、保証登録カードまたは領収書などをご確認ください。

#### 別途指定部品

- 3年保証部品  
ホットモジュール、電装基板、ポンプ、プロアモーター、ラジエター、ラジエターファン
- 5年保証部品  
貯湯タンク

### 2. 保証の内容

取扱説明書、本体貼付ラベルの記載に従った正常なご使用状態で、保証期間中に故障した場合には、お買い上げ店もしくは当社代理店が無料修理させていただきます。なお、無料修理ができない場合の免責事項を記載しておりますのでご確認ください。

### 3. 保証の範囲

保証は機器本体および当社または当社指定業者の施工部分を対象とします。

### 4. 補修用部品の保有期間と有料修理について

当社は、当商品製造中止後12年を基準に補修用性能部品を調達したうえで、修理によって性能が維持できる場合はお買い上げ店もしくは当社代理店が有料で修理いたします。  
但し、当商品の製造中止後12年経過後であっても、補修用性能部品の在庫があり、修理が可能な場合は、有料修理致します。

### 5. 免責事項

つぎのような場合には、保証期間内でも有料修理となります。

- 1) 使用上の誤り、および不当な修理や改造による故障および損傷。
- 2) お買い上げ後の取り付け場所の移動、落下による故障および損傷。
- 3) 火災、塩害、地震、風水害、落雷、煤煙、降灰、酸性雨、腐食性などの有毒ガス、ほこり、異常気象、異常電流・電圧・周波数・電磁波、ねずみ・鳥・くも・昆虫類などの侵入、その他天変地異または戦争、暴動など破壊行為による故障および損傷。
- 4) 車輛・船舶に備品として搭載された場合に生じた故障および損傷。
- 5) 音、振動、塗装の退色、軽微な傷、錆など設計仕様の範囲内の感覚的な現象の場合。
- 6) ガス発電、給湯冷暖房システムのうち、当社または当社指定以外の業者の施工部分およびその施工部分に起因する故障および損傷。
- 7) 業務用の場所（喫茶店、理美容院、飲食店、事務所など）で長期間ご使用された場合。
- 8) 商品に表示している以外のガスでご使用になられた場合。
- 9) 本書および保証登録カードまたは領収書のご提示がない場合。
- 10) 保証登録カードまたは領収書にお買い上げ店、お買い上げ日の記入のない場合、あるいはお買い上げ店の訂正印無しで、本書または保証登録カード、領収書などの字句を書きかえられた場合。
- 11) ご使用場所が当社のガス供給区域外で、当社が指定するガス事業者以外の場合。（出張料等を別途いただきます）
- 12) 当社が定める定期点検以外での消耗品（水精製機、可燃性ガスセンサ）の交換に伴う部材費（部品費）、手数料など。
- 13) 水道水以外の水質の影響による機器の劣化や、水道管のさび等異物の流入による故障および損傷
- 14) 商品に同梱の工事説明書及び取扱説明書に指示する方法以外の工事設計または取扱等が原因で生じた不具合、故障および損傷。

（裏面もご覧ください）

# アフターサービスと保証について

## 6. お客さまへ

- 1) 無料修理やアフターサービスなどについてご不明の場合は、お買い上げ店もしくは、もよりの大阪ガスへお問い合わせください。
- 2) 保証登録カードまたは領収書にお買い上げの店名の記載のないものについては無効となりますので購入時に必ずご確認ください。
- 3) 本書は再発行しませんので、紛失しないように大切に保管してください。
- 4) ご転居の場合またはご贈答用品で保証登録カードまたは領収書に記載してあるお買い上げ店に修理をご依頼できない場合には、もよりの大阪ガスへご連絡ください。  
お問合せ先については別添、大阪ガスのお問合せ先をご参照願います。
- 5) 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- 6) この保証書によってお客さまの法律上の権利を制限するものではありません。

※ 保証登録カード・領収書 貼付欄

お買い上げ店名、お買い上げ日が記載されている保証登録カード、または領収書とセットで保管してください。

### サービス履歴

年 月 日	サ ー ビ ス メ モ	担当者

大阪ガス株式会社

大阪府中央区平野町 4-1-2  
TEL フリーダイヤル 0120-000-555  
(お客さまセンター)